

地方独立行政法人大阪市博物館機構 業務実績にかかる評価一覧表

大項目	中項目	小項目	中長期的発展を見据えて取り組む事項	小項目番号	機構の評価	美術館	自然史博物館	東洋陶磁美術館	科学館	歴史博物館	中之島美術館準備室	事務局	事務局総務課	事務局経営企画課	事務局施設管理課
I	住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置														
I-①	I-① 大阪の知を拓く														
	1 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備			1	3	3	3	4	4	3					
	1 博物館等資料の新たな収集			2	3	3	3	3	3	3					
	2 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承			3	3	3	4	3	3	3					
	3 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供			4	4	3	4	3	4	4			3		
	4 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成			5	4	4	4	4	3	3			3		
	5 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究	○		6	3	3	3	3	3	3			3		
	6 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等	○		7	3	3	3	3	3	3			3		
	7 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復	○		8	3	4	3	3	3	3					
	8 博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修			9	4	4	4	4	3	3			4		
I-①	9 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得	○		10	4	3	4	3	4	3					
	10 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修	○		11	4	3	4	3	5	2	R1無し				
	2 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信			12	5	5	4	5	5	3	R1無し				
	11 常設展における展示替え			13	3	3	3	3	3	3			3		
	12 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化			14	3	4	3	4	3	3					
	13 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと			15	3	4	3	3	3	3					
	14 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開			16	3	4	4	3	3	3			3		
	15 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用			17	3	3	4	3	3	3					
	16 各館の枠を超えた知識及び経験等の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携			18	3	3	3	4	3	3			3		
	17 ICT等を活用した博物館等資料に関するさまざまな情報の有効利用及び博物館等資料のアーカイブ化による公開	○		19	3		3			3			3		
I-②	3 戦略的広報の展開			20	3	3	3	4	3	3			4		
	21 マスメディア等への積極的な情報発信			22	3	3	3	4	3	4			3		
	22 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定	○		23	3	3	3	3	3	3					
	23 生涯学習に関する施設その他の博物館等に関する施設及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開	○		24	4		3	4		4					
	24 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開	○													
	I-② 大阪を元気に														
	4 ソフトの充実及び利用者の受け入れ体制の整備			25	4	5	4	4	4	4	R1無し				
	25 マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致			26	3	3	4	3	3	3					
	26 さまざまな利用者の受け入れ体制の充実			27	3	3	3	3	4	4					
	27 多言語表記等による外国人の受け入れ体制の充実			28	3	3	4			3					
I-③	28 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励	○		29	3	3	3	4	4	3					
	29 さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得	○		30	3	3	3	3	3	4			3		
	5 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携			31	3	4	3	3	3	3					
	30 各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携による広報及び誘客			32	3		3	3	4	3					
	31 各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と協働して行なうイベントの企画及び実施	○		33	4	3	4	3	4	4					
	6 民間企業等との協働等			34	3		4	3	3	3					
	32 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実			35	3		3	3	4	3					
	33 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発			36	3		4	3	3	3			3		
	34 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援	○		37	3		3	4	4	3					
	I-③ 学びと活動の拠点へ			38	3	4	3	3	3	3			3		
I-④	7 こども及び教員等への支援			39	3	3	3	4	3	3					
	35 こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施			40	3	3	3	3	3	4			3		
	36 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施			41	3		3	3	3	4					
	8 幅広い利用者への支援			42	3		3			3					
	37 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施			43	3	3	3		3	3					
	38 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと(再掲11)			44	3		3	4	3	3					
	39 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(再掲12)			45	3		3	3	3	3					
	40 多言語表記等による外国人の受け入れ体制の充実(再掲23)			46	3		3	4	3	3					
	9 参画機会の提供			47	3		3	4	3	3					
	41 ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進			48	3		3	4	3	3					
I-④	I-④ 大阪中之島美術館の開館に向けて			49	3		3	4	3	3					
	10 大阪中之島美術館の開館に向けて			50	3		3	4	3	3					
	44 コレクション展及び企画展の開催の準備			51	4		3	4	3	4					
	45 新たな博物館等資料の収集			52	5		3	4	3	5					
	46 博物館等資料の公開に向けた修復及びアーカイブ化			53	3		3	4	3	3					
	47 開館に向けた機運の醸成			54	3		3	4	3	3			3		
	48 大阪中之島美術館とともに運営するPF1事業者の選定			55	3		3	4	3	3					
	II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置			56	2		2	3	2	3			2		
II	11 人材の活用と育成			57	2		2	3	2	2			2		
	49 職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置			58	3		3	4	3	3			3		
	50 職員のスキルアップを図るための学習機会の確保			59	4		3	4	3	4			4		
	51 包摂的な社会にふさわしい人材の獲得	○		60	5		3	4	3	5			5		
	52 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(再掲4)	○		61	3		3	4	3	3			3		
	12 評価制度の活用			62	3		3	4	3	3			3		
	53 法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価			63	3		3	4	3	3			3		
	54 能力に応じた人事評価の実施			64	3		3	4	3	3			3		

## 全体評価

地方独立行政法人大阪市博物館機構  
平成31(令和元)事業年度にかかる業務の実績に関する評価結果  
項目別評価(参考資料)

年度評価  
令和 2(2020) 年 3 月 31 日現在

## 内容

1. 地方独立行政法人大阪市博物館機構の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等	4
大項目	4
I -①	4
I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	4
1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	4
(1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備	4
(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信	4
(3) 戦略的広報の展開	4
大項目	37
II-①	37
I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	37
2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	37
(1) ソフトの充実及び利用者の受け入れ体制の整備	37
(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携	37
(3) 民間企業等との協働等	37
法人は、各館が都市に立地するという特徴を活かし、国内外から幅広い利用者を獲得するとともに、各館の周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携を図ることにより、大阪の活性化及び発展に貢献する。	37
大項目(3)	49
I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	49
3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」	49
(1) こども及び教員等への支援	49
(2) 幅広い利用者への支援	49
(3) 参画機会の提供	49
大項目(5)	63
II 業務運営の改善及び効率化に関する事項	63

5 業務運営の改善及び効率化 .....	63
(1) 人材の活用と育成 .....	63
(2) 評価制度の活用 .....	63
(3) I C T の導入及び活用 .....	63
大項目(4) 63	
I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 .....	63
4 大阪中之島美術館の開館に向けて .....	63
大項目(6) 68	
III 財務内容の改善に関する事項 .....	68
6 財務内容の改善 .....	68
(1) 収入の確保 .....	68
(2) 経費の節減 .....	68
大項目(7) 70	
IV その他業務運営に関する重要事項 .....	70
7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) .....	70
(1) 環境整備 70	
(2) 重要なリスク回避のための体制の構築 .....	70
大項目(8) 73	
IV その他業務運営に関する重要事項の目標を達成するためとるべき措置 .....	73
8 その他業務運営に関する重要事項(その他) .....	73
(1) 利用者等の安全確保 .....	73
(2) 環境保全の取組み .....	73
(3) 情報公開の推進 .....	73
3. 短期借入金の限度額 .....	77
4. 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画 .....	77
5. 前記の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 .....	77
6. 剰余金の使途 .....	77
7. 地方独立行政法人大阪市博物館機構の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第6条で定める事項 .....	77

1. 地方独立行政法人大阪市博物館機構の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等

大項目 I-①	<p>I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」</p> <p>(1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備</p> <p>(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信</p> <p>(3) 戰略的広報の展開</p>
------------	--

中期目標	<p>1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」</p> <p>法人は、大阪の都市格の向上に寄与するよう、博物館等における歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する実物、標本、現象に関する資料その他の資料(以下「博物館等資料」という。)の蓄積と人々が学び、愉しみ、育んできた成果を更に発展させ戦略的に発信する</p> <p>(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備</p> <p>各館の活動の成果の継承及び発展並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備に取り組む</p> <p>【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館等資料(寄託品を含む、以下、同じ。)の新たな収集</li> <li>・防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承</li> <li>・常設展における展示替え及び自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化【1-(2)において記載】</li> <li>・博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供</li> </ul> <p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成</li> <li>・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究</li> <li>・博物館等の運営に関する調査研究及び評価等</li> <li>・博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復</li> <li>・I C T等を活用した博物館等資料に関するさまざまな情報の有効利用及び博物館等資料のアーカイブ化(重要な資料等をひとまとめにしてデジタルデータ化すること等により、資料等を広く相互利用が可能な形式で保存することをいう。以下同じ。)による公開の推進【1-(2)において記載】</li> <li>・博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修</li> <li>・調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得</li> <li>・バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修</li> </ul>
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		コメント欄 (特に3以外の評価時はその理由を)
			評価及び評価の判断理由(実施状況等)	評価	
(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備					
各館の活動成果の継承及び発展並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、次の通り、人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の整備に取り組む。					
【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 1 博物館等資料の新たな収集 各館が対象とする実物、標本、現象に関する資料その他の資料(以下「博物館等資料」という。)について、調査研究、寄贈、購入等を通じて、新たな獲得を目指す。	(大阪市立美術館) ア 絵画・書・彫刻・工芸・考古の諸分野において、購入及び寄贈の受け入れを継続的に行う。 【参考: 平成29年度】 購入0件、寄贈122件 イ 博物館活動に有効な資料の寄託確保に努める。	1	【機構の評価】 美: 3、自: 3、陶: 3、科: 4、歴: 3 寄贈資料の入れの前提である規程の整備が遅れたが、1月以降、寄贈による資料収集を各館で進めることができた。東洋陶磁、科学館では展示・研究に有用な資料の寄贈を受けた。	3	
	(大阪市立美術館) ア 購入0件、寄贈0件、寄贈希望15件 寄贈手続中 【参考: 平成30年度】 購入0件、寄贈5件 イ 受入33件、返戻58件 【参考: 平成30年度】			3	

<p>(大阪市立自然史博物館)  ア 「自然史標本の今後の収蔵計画について 大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ    イ 収蔵庫など館内の配置を見直し、収蔵余力の確保に務める。今年度は旧第二収蔵庫の改修に合わせ、移動式物品棚導入整備を求めていく</p>	<p>、保存管理する。  【参考：平成29年度実績】  総資料数は1,719,202点(昨年度末比35,075点の増加)  イ 収蔵庫など館内の配置を見直し、収蔵余力の確保に務める。今年度は旧第二収蔵庫の改修に合わせ、移動式物品棚導入整備を求めていく</p>	1	<p>受入13件、返戻14件  (大阪市立自然史博物館)  ア 今年度も以下のコレクションをはじめ多くの資料が寄贈された。  ・大平仁夫コレクション（昆虫）45,000点  大平仁夫氏は70年に亘り、コメツキムシ科甲虫の研究をされ、国内はもとより世界から500種を越える新種の記載をされた。模式標本を含む国内産の膨大な研究標本が、当館で保管されることになった。これにより当館は、岸井尚氏の研究標本(64,800点：2015年度)とともに、世界的なコメツキムシ研究の資料拠点となった。  ・上田俊穂コレクション（菌類）1050点  図鑑著者であった寄贈者の標本及びその記録  ・児玉勤蘇類コレクション（追加）1000点  などがあり、これらは将来に向けて保存が必要なコレクションと判断し、現在燻蒸及び登録に向けた準備作業中である。  【平成30年度実績】総資料数1,768,806点(昨年度末比49,604点増)  イ 第二収蔵庫のアスベスト改修工事が予算未措置により着手できなかったため、物品棚の導入が実施できなかった。</p>	3	標本の収集及び保存管理は極めて順調であるが、収蔵余力の確保はアスベスト対策工事が先送りになった。
<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)  ア 芸術的あるいは資料的価値の高い作品の購入および寄贈の受け入れを継続的に行う。  【参考：平成29年度実績】  寄贈作品267件290点(評価額60,898,000円)  イ 美術館活動に有効な資料の寄託確保につとめる</p>	<p>【参考：平成29年度実績】  寄贈作品267件290点(評価額60,898,000円)  イ 美術館活動に有効な資料の寄託確保につとめる</p>	1	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)  ア 寄贈申し出件数14件  作品数119件133点  評価額計83,069,000円  【平成30年度実績】寄贈8件(作品数260件287点)  、評価額計124,590,000円  イ 購入作品 0件  【平成30年度実績】0件  ウ 寄託作品 4件(作品数15件15点)  【平成30年度実績】1件(作品数8件8点)</p>	3	* 作品数や評価額の増減での評価ではなく、展示や研究に有用な作品の受け入れを、積極的に働きかけて実現したことを評価した。  * 今回の寄贈は展示や研究に必要不可欠な作品の寄贈を積極的に働きかけた結果であり、評価総額約8300万にのぼる寄贈受け入れにつながった。
<p>(大阪市立科学館)  ア 物理・化学・天文・科学史・気象・科学技術を中心とした新規資料を収集し、科学分野における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行う  イ 実物資料として大学等との連携を通じて観測機器類・実験装置類の収集を行う  【参考：平成29年度実績】  寄贈・寄託 15件 購入・製作12件 借用13件</p>	<p>【参考：平成29年度実績】  寄贈・寄託 15件 購入・製作12件 借用13件</p>	1	<p>(大阪市立科学館)  ア 平成30年度に展示場の一部改修を行い、平成31年3月30日にリニューアルオープンした。今年度は新たに利用に供した展示物の検証を行い、製作委託会社とも協議の上7点の展示物の改良、補修を行った。その他既存の展示物13点の改修、改善を行った。また、展示装置の特許を1件取得した。その他、全国理工系学芸員展示研究大会に参加し、展示手法の研究を行った。  イ 理化学研究所からスーパーコンピュータ「京」の一部の寄贈をはじめとした10件の資料寄贈を新たに受けた。また購入・制作が2件、借用が15件あった。その他、大阪大、東京大等と連携した展示制作も実施した。特に「京」の寄贈は、全国に先駆けて寄贈交渉を行い、実現したものである。  【平成30年度実績】寄贈・寄託21件、購入・製作</p>	4	

	<p>(大阪歴史博物館) ア 歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入および寄贈の受け入れを継続的に行う 【参考：平成29年度実績】 寄贈4,719点 イ 博物館活動に有効な資料の寄託の確保に努める</p> <p><b>2 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承</b> 博物館等資料について、収蔵庫等において適正な温度・湿度等の下、防災や防犯にも備えた環境で適切に保管し、将来へ継承する。</p>	<p>6件、借用13件</p> <p>1 (大阪歴史博物館) ア 前年度実績：購入0件、寄贈1,130点 　　今年度実績：購入0件、寄贈274点 イ 申入れを受けた中から、寄託を受け入れた。 　　前年度実績：11件 　　今年度実績：13件53点</p>	<p>3</p>
		<p><b>【機構の評価】</b> 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 各館とも、計画通りに温湿度管理、IPM、防犯・防災等に着実に取り組んでいる。展示ケース内の有機酸の発生や蛍光灯のLED化など、展示・収蔵環境の改善に向けて機構全体での取り組みにも着手した。</p>	<p>3</p>
	<p>(大阪市立美術館) ア 館内での総合的虫菌害の管理(IPM)及び収蔵庫の燻蒸を行う。 イ 収蔵庫及び展示室での温湿度管理を継続的に行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。 エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。</p>	<p>2 (大阪市立美術館) ア 月1回害虫トラップ調査、年2回空気環境調査を行い、必要に応じた処置をした。1月に南収蔵庫の燻蒸を行った。 イ 24時間体制で監視し、展覧会毎に必要に応じた体制をとった。 ウ 点検した。 エ 受入の度に登録した。</p>	<p>3</p>
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 収蔵庫内の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 イ 入室記録、貸出管理簿による適切な資料の管理を行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検し、訓練を実施する。 エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を順次実施する。 オ 西日本自然史系博物館ネットワークなどとの連携による災害対策の検討をすすめる。</p>	<p>2 (大阪市立自然史博物館) ア トラップによる監視、データロガーによる監視、定期的な点検を行った。 イ 入退室記録簿、各研究室による資料貸借簿による適切な管理を行った。 ウ 防犯・防災システムの定期点検を行い、2月に防災訓練を行った。展示品の破損が1件発生し、再発防止の対応を講じた。 エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策は試行実施にとどまった。 オ 2月に南海トラフ巨大地震を想定した研究会を実施し、レスキュー協力の検討を行った。</p>	<p>3</p>
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 収蔵庫・展示室の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 イ 館蔵品の所在確認を計画的に行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。 エ 新規受入作品の登録を継続的に行う。</p>	<p>2 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展示室環境を把握するため収蔵庫・展示室の温湿度測定を継続して行った。 イ 館蔵品の所在確認を計画的に行った。 　　・2019年12月11日指定物件(国宝2点、重文13点)の所在確認を実施した。 　　・2019年12月23日館蔵品50件の監査法人から実査調査を行った。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検した。 エ 新規受入作品の登録を継続的に行った。 令和元年度寄贈作品について予定 【平成30年度実績】寄贈8件(作品数260件287点)</p>	<p>3</p>
	<p>(大阪市立科学館) ア 常設稼働展示品を保守管理して、故障、運用停止を可能な限り少なくするよう努める。</p>	<p>2 (大阪市立科学館) ア 常設展示は、軽微な日常メンテナンスのための人員を配置し、また委託業者による定期的な</p>	<p>3</p>

	<p>イ 特に重要な資料に関しては、機械警備などによる盗難、破損防止を行う。 ウ 所蔵資料の出し入れを記録する。</p>		<p>メンテナンスおよび補修を実施した。 イ 重要な貴金属資料等については、機械警備、ビデオ撮影、定期的な確認を実施している。 ウ 貸出記録簿を作成した</p>	
	<p>(大阪歴史博物館) ア 収蔵庫内の虫害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 イ 出納簿によって収蔵庫からの資料の出し入れを記録する。 ウ 防犯・防災システムを適切に運用する。 エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。</p>	2	<p>(大阪歴史博物館) ア 年1回の生物調査を実施した。 イ 出納簿の様式の検討を行った。 ウ 防犯システムのメンテナンスを行い、システムの維持に努めた。 エ 新規資料は順次登録を進めた。また、館蔵品台帳の整理と、データベース化の検討を進めた。</p>	3
3. 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供	<p>博物館等資料に関する図書、文献、調査資料その他必要な資料(以下「図書等」という。)を収集するとともに、博物館等資料及び図書等に関するデータベース等の作成と公開を行う。</p>		<p>【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3 各館とも計画通り、館蔵資料のデジタル撮影や図書・雑誌の収集を着実に実施した。</p>	3
	<p>(大阪市立美術館) ア 継続的に館蔵品及び寄託品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。 イ 調査研究に資するため、継続的に研究図書・雑誌・展覧会図録等の資料の収集を行う。 【参考：平成29年度】 図書・雑誌購入145点</p>	3	<p>(大阪市立美術館) ア 予算額に応じて作品の撮影を順次行った。 撮影：15件、20カット 【平成30年度実績】22件 イ 予算額に応じて資料の収集を行った。 図書・雑誌購入166点 【平成30年度実績】図書・雑誌購入133点</p>	3
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 継続的な資料の登録・整理をすすめ、収蔵資料目録を発行する。 【参考：平成31年度は鳴橋コレクション バラ科植物目録を予定、平成30年度は「岐阜県熊石洞産脊椎動物化石目録」、平成29年「北島浅子氏収集 種子植物 種子・芽生え標本目録」を発行】 イ 標本資料だけでなく、自然史科学関連の画像・映像資料・絵画資料の収集と整理をすすめる。 ウ 継続的に市民の学習に資する図書、及び研究資料となる図書の収集を行う。 【参考：平成29年度実績】 登単行本総計は20,158部(2,196部追加) 交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物累計196,746冊(4,411冊増)</p>	3	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 「鳴橋コレクション バラ科キイチゴ属植物目録」を発行した。 イ 本郷次雄菌類関連絵画資料の追加寄贈を受けた。このほかも継続的に収集を進めている。外部助成金を獲得してのデジタル化や整理作業を行った。 ウ 図書資料の購入・寄贈受け入れも順調に進めた。予算のない中、科研費により獲得した間接経費を投入しての自己努力により、将来の公開に向けた整備を進めた。 【平成30年度実績】登録単行本総計は22,525部(2,367部追加)、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物累計200,998冊(4,252冊増)</p>	4 自助努力である外部助成金、科研費による資料姿勢の推進を評価した。
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 継続的に館蔵品の撮影し、データベース化するとともに、オープンデータ化を進める。 【参考：平成29年度実績】 館蔵資料デジタル撮影 作品31点 イ 継続的に研究図書などの収集を行う。 【参考：平成29年度実績】 購入図書 173点</p>	3	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料45点(中国陶磁20点、木村盛康作品22点、現代陶芸3点)のデジタル撮影を行った。 【平成30年度実績】462点(寄贈16件) オープンデータ化のために規程の変更やホームページでのデジタル画像のアップや容量の調整を行った。 イ 継続的に研究図書などの収集を行った。 購入図書資料 276点(図書82点、雑誌194点) 【平成30年度実績】購入図書資料 121点</p>	3

	<p>(大阪市立科学館) ア 現在提供している画像資料を引き続き有償提供する。 ・古代人の宇宙観(6点) ・学天則(3点) ・江戸時代の天文書(6点) ・西洋の古書(3点) イ 繼続的に図書・研究図書の収集を行う 【平成29年度実績：41点】</p> <p>(大阪歴史博物館) ア 繼続的に館蔵資料のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。 【参考：平成29年度実績】 館蔵資料撮影 104カット、 マイクロフィルム撮影 443カット、 デジタル撮影 2,499カット イ 「なにわ歴史塾」で市民の閲覧に供し、また調査研究に資するため、継続的に図書の収集を行う 【参考：平成29年度実績】図書 9,773点</p> <p><b>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</b> <b>4 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成</b> 法人の活動を支える専門人材を安定的に確保するため、条件を整備するとともに、成果に対する適正な評価を実施する。 館蔵品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実をめざす。</p>	3	<p>(大阪市立科学館) ア 資料画像3件の有償提供を行った。 【平成30年度実績】11件 イ 研究用図書46冊、雑誌11誌を収集した。 【平成30年度実績】60点</p> <p>(大阪歴史博物館) ア 資料撮影 122カット 【平成30年度実績】86カット マイクロフィルム撮影 456カット 【平成30年度実績】997カット デジタル撮影 2,182カット 【平成30年度実績】1,943カット イ 市民図書として49冊の図書を購入した。寄贈を受けた図書は3,746冊。 【平成30年度実績】寄贈図書 3,123点</p> <p><b>【機構の評価】</b> 美：3、自：4、陶：3、科：4、歴：4、経3 各館及び事務局において新たな人材を多数獲得することができた。学芸員では、欠員にともない歴史博物館（3名）、科学館（1名）、中之島美術館準備室（1名）を採用し、来年度4月採用者として自然史博物館（1名）、東洋陶磁美術館（1名）、歴史博物館（2名）で採用準備を進めた。事務職員でも、美術館と歴史博物館に総務課長を民間から採用（10月）し、事務局に課長代理2名を民間等から採用（1月）して増配置し、来年度4月採用者として総務課長（1名）を採用した。</p>	3
	<p>(大阪市立美術館) ア 職員のスキルアップをはかるため、研修情報等の収集に努める。 イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担等を模索する。</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア 退職などに伴う欠員を速やかに補充する。 イ スキルアップのため、館内に博物館学関連催事を誘致する。 【参考：2019年9月にICOM-NATHIST オフサイトミーティングを予定】 ウ 外部研究者とのネットワークづくりや研究能力の向上を目的とした、館内外で開催される学会参加など専門的研修への参加を進める。 【平成30年度は日本地質学会、第四紀学会、生態学会、昆虫学会、鳥学会などに参加】 エ 総務課職員、案内要員を含めた、館の活動への</p>	4	<p>(大阪市立美術館) ア 文化庁、教育委員会など公的機関より研修情報を得る他に、保存や展示などに関する技術などの民間によるセミナーなどの情報の収集にも努めている。文化庁の「企画展示セミナー」に1名が参加した。 イ 独法化に伴い、業務分担を整理した。</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア 欠員の補充に向けて採用試験を実施、2020年4月開始の職員2名を採用した。 イ 2019年9月にICOM-NATHIST オフサイトミーティングを開催したほか、11月にJMMA研究会を開催した。 ウ 日本生態学会、昆虫学会、地質学会、第四紀学会を始め、各種学会に学芸員を出張させ、研究発表を行った。令和元年度は23件（国際学会を含む）その他参加12件（3月の学会中止などにより減少）。 【平成30年度実績】学会発表33件（国際学会含む</p>	4
				博物館関連国際会議を館に誘致し議論の場としたことは通常では実現できない成果を評価した。

理解を深めるための研修を実施する。		）その他参加15件 エ 案内要員を含めた研修は3月に展示室の解説について研修した他、資料取り扱いについて研修した。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 専門的人材の採用・育成と職務の役割を進め、国際的専門美術館としての体制の充実を図る。 イ 学芸員のスキルアップをはかるため、国内外での研修参加を推進する。 ウ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担、職制などを模索する。	4	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 学芸事務の公募1名(令和元年10月1日採用)、学芸員の公募1名(令和2年4月1日採用) イ 研修実績 ・照明セミナー(5月28日、学芸5名) ・日博協研修会(11月29日、事務1名) ウ 館の人材を生かすため、業務の精査とそれに基づく適切な職員配置、業務分担を行った	3	
(大阪市立科学館) ア 各種学会・研究会、講習等に随時参加し、専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図る。 イ 国内・海外の施設との人材交流や短期～長期の留学を検討・実施する。 ウ プラネタリウム、サイエンスショーの制作時と制作後の組織内評価を行い、常設展示の改良評価を通じて、学芸員の資質向上を図る。	4	(大阪市立科学館) ア 國際博物館會議京都大会、全国プラネタリウム大会、全国理工系学芸員展示研究大会等に参加し、情報収集、意見交換等を行った。 イ 香港等からの交流視察を受け入れ、情報交換を実施した。またドイツ博物館に対して研究生受け入れを提案したほか、豪州クエスタークン、ANUと次期サイエンスサークスの検討を開始した。加えて、親善大使の豪州でのサイエンスショー実演に対して演示指導と演示道具の無償貸与し、交流を支援した。その他、全国科学館連携協議会が主催する海外研修に学芸員1名を派遣し、アメリカの科学系博物館3館を公式訪問した。 ウ 公開前には、プラネタリウム試写会(4回)、サイエンスショー研究会(4回)を実施した。公開後は、実施内容を検討する事業検討会を開催し、議論を行なった(3回)。	4	海外における人材交流の促進を評価した。
(大阪歴史博物館) ア 若手学芸員のスキルアップをはかるため、研修情報などの収集に努める。 イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担などを模索する。	4	(大阪歴史博物館) ア ・奈良文化財研究所の文化財デジタルアーカイブ課程(1月)へ学芸員1名を派遣した。 ・豪雨で被災した川崎市民ミュージアムの文化財レスキュー活動へ学芸員1名を派遣した(3月)。 ・文化庁、日本博物館協会等の研修会情報を継続的に収集した。 ・文化庁【ミュージアム・エデュケーション研修】に応募(不採択) ・マーケティング、プロモーションを中心とする最新動向に関する館内研修を、3月に外部(専門)会社により実施し、機構内職員も参加した。 ・展覧会終了後、毎回職員によるふりかえりを実施し、今後の展覧会の参考としている。 イ 今年度は4月に2名、10月に1名の計3名の学芸員の欠員補充を実施し、係へ適切に配置した。2月には欠員予定の学芸員補充の採用試験を実施し、2名の採用を決定した。	4	学芸員の研修派遣(文化財レスキューを含む)を実現したほかに、独自にマーケティングに関する研修を企画開催し、機構内職員の参加を促した点、学芸員の欠員補充を2年度にわたり確実に実現できた点を評価した。
(事務局)	4	(事務局経営企画課)		

	<p>ア 教育普及や広報など多様な分野の専門職員のあり方や育成法について検討を行う。</p>		<p>ア教育普及や広報など多様な分野の専門職員のあり方について、各館、他館の状況を調査し、課題を整理した。</p>	3	
5 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究	<p>博物館等資料に関する専門的見地からの調査・研究を実施する。</p> <p>博物館等資料の展示をはじめとする公開・活用に関する調査・研究・開発を実施する。</p> <p>博物館等資料の保存や修復に関する調査・研究を実施する。</p>		<p>【機構の評価】</p> <p>美：4、自：4、陶：4、科：3、歴：3、経：3</p> <p>各館とも着実に調査研究を進めており、特に科研費23件の採択を受けたことで館活動に大きく寄与する状況となった。歴史博物館の有機酸の問題を契機に、各館の状況について情報収集を開始するとともに対策に着手し始めた。</p>	4	
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 館蔵品に関する基礎研究を継続的に進める。</p> <p>イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。</p>	5	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 各学芸員の研究成果の報告として、各学芸員が独自に論文などを発表するほかに、紀要に各コレクション展の成果を記録・公表することとした。</p> <p>【令和元年度実績】著書・論文等16件、研究発表11件、コレクション展報告22件</p> <p>【平成30年度実績】著書・論文等21件、研究発表5件</p> <p>イ現実に起きた虫の発生に対し、これまでの知見をふまえて調査・対処し、虫害を防ぐことができた。</p>	4	<p>紀要に各コレクション展の成果を記録・公表することとした。</p> <p>現実に起きた虫の発生に対し、これまでの知見をふまえて調査・対処し、虫害を防ぐことができた。</p>
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 館蔵資料を活用した研究、および野外での現況や生態に関する基礎研究を継続的に進める。</p> <p>【参考：学芸員により毎年200本を超える執筆、学会発表などが行われている。詳細は館報参照】</p> <p>イ 西日本自然史系博物館ネットワークや関連学会などと連携して資料の保存科学的研究会、展示手法に関する研究会に参加または誘致開催する。</p>	5	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 科研費の採択などを受け、基礎研究を継続的に実施している。平成30年度は科研費主担当12件を獲得し著書・論文等237件、研究発表33件を公開した。令和元年度も、科研費として主担当12件を獲得し、分担研究、民間助成も採択され、執筆論文も好調に発表されている。</p> <p>イ 東京文化財研究所の被災自然史標本の対応マニュアルを作成に協力した。また南海トラフ巨大地震を想定した研究会を行った。</p>	4	<p>科研費の獲得及び研究発表数が極めて好調なこと。および国内の博物館群の活動指針となるマニュアル作成に寄与していることを評価した。</p>
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 館蔵品に関する調査研究を継続的に進める。</p> <p>イ 保存、展示手法、運営等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集につとめる。</p>	5	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 館蔵品に関する調査研究を継続的に進めた。</p> <p>(調査実績と調査研究の成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・著書1件、論文等14件、研究発表10件、講演会等14件、取材協力6件、科研5件</li> </ul> <p>【平成30年度実績】論文等15件、研究発表7件、講演会等11件、取材協力2件、科研3件、その他1件</p> <p>イ 保存、展示手法、運営等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集につとめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・照明セミナー(5月28日、学芸5名)</li> <li>・ICOM京都大会(館長1名、学芸1名)</li> </ul>	4	<p>研究発表、講演会、科研、取材協力で大きく増加したことを評価した。</p>
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。</p> <p>イ 資料保存、展示手法に関する研修に参加するなど、最新の情報の収集につとめる。</p>	5	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 館蔵資料に関する基礎研究を実施し、成果を大阪市立科学館研究報告で公表した。</p> <p>【平成30年度実績】著書・論文等27件、研究発表</p>	3	

	<p>ウ サイエンスガイドリーダーから展示物等について意見徴収し、展示物等についての改善・改修のための調査研究を行う。</p>		<p>7件 イ 第10回全国理工系学芸員展示研究大会に学芸員1名が参加した。 ウ サイエンスガイドから展示物についての意見聴取を行う「検討会」を3回実施した。</p>		
	<p>(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。 イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。</p>	5	<p>(大阪歴史博物館) ア 各々の学芸員による日常的な館蔵品研究のほか、館の研究事業である基礎研究を1本採択し実施した。令和2年度の研究募集も終え、実施する研究事業を決定した。 イ 展示ケース内の有機酸濃度が大きな問題として浮上したため、他館の状況について情報収集を開始し、機構内各館とも情報共有・対策打合せを実施するとともに、文化庁および文化財活用センターの指導を受け、吸着材対処的な対策に着手した。今後は継続対応と改修計画の立案が必要である。</p>	3	
	<p>(事務局) ア 博物館の利用者等に関する調査・分析等を継続的に実施する。</p>	5	<p>(事務局経営企画課) ア 各館における入館者状況について、入館者数と推移、属性等を可視化して把握し、各館とも共有した。また、講座・シンポジウム等についても、参加者アンケートを分析して、満足度や要望等を把握し、関係者と共有した。</p>	3	
6 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等 他館の事例研究など、博物館運営に関する調査・研究を実施する。 国内外からの来館者や各種活動への参加者のニーズを把握するため、必要な調査(マーケティング)やデータ分析を行う。			<p>【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、経：3 各館とも計画通り、特別展・常設展についてアンケート調査を行い、入館状況等の分析に努めた。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館) ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。</p>	6	<p>(大阪市立美術館) ア 各回でアンケートを実施し、改善点などは都度反映させた。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 自主企画展の開催時には実施目的を明確にし、その目的・計画に基づいて組織内評価を行い、効果を検証する。 【参考：平成30年は「きのこ！キノコ！木の子！」展に関する自己評価を実施、文化政策学会にて発表】 イ ミュージアムショップや普及行事についても適宜、アンケート調査や外部有識者によるピアレビューの実施によって効果検証などについて手法開発を試みる。</p>	6	<p>(大阪市立自然史博物館) ア R1年度は夏期の特別展が巡回展になつたため組織内自己評価は実施せず、実行委員会の報告書を持って評価としている。3月からの外来生物展も新型コロナウイルス感染症の影響により順延され、未実施となつた。 イ 4月にミュージアムショップに関する研究会を実施した。秋以降のミュージアムショップ事業者の選定を外部委員のレビューを受けて実施した。</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 入館者に対するアンケート調査を展覧会ごとに実施し、入館者のニーズを把握して事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かす。 イ 館内にご意見ノートを設置して、来館者の生の</p>	6	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア アンケート実績 文房四宝 実施期間:18日 回答数:829(実施期間中入館者の約13%) フィンランド陶芸/マリメッコ・スピリット 実施期間:25日 回答数:1695(実施期間中入館)</p>	3	

	<p>声を運営に活かす</p> <p>(大阪市立科学館) ア 入館者の満足度等を調査、分析、評価し、館の運営、事業内容の改善を行うなど、住民のニーズを把握し、それに応える魅力ある事業を行う。</p> <p>(大阪歴史博物館) ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。</p> <p>(事務局) ア 博物館の評価についての情報収集に努めるとともに、機構における評価法を構築する。</p> <p><b>7 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復</b> 博物館等資料の保存・継承と、展示等による効果的な活用を図るため、必要な修復を進める。</p>	<p>者の約7%) 灯火具 実施期間:6日 回答数:571(実施期間中入館者の約22%) 【平成30年度実績】 フランス宮廷の磁器 セーブル 実施期間:24日 回答数:1238(実施期間中入館者の約9%) 古代イランの土器と青銅器 実施期間:6日 回答数:114(実施期間中入館者の約12%) 高麗青磁 実施期間:18日 回答数:597(実施期間中入館者の約8%) オブジェクト・ポートレイト 実施期間:18日 回答数:401(実施期間中入館者の約9%) イ ご意見ノート 147件 【平成30年度実績】ご意見ノート21件(12月より開始)</p> <p>(大阪市立科学館) 入館者に対するアンケートを実施し、プラネタリウム、展示場、その他内容について10段階での評価や記述意見をもらい、それら意見を職員に回覧し、事業改善に利用した。</p> <p>(大阪歴史博物館) ア 常設展(施設含む)に加え、特集展示5本、特別展2本のアンケートを実施している。特別展については個々にアンケート結果を分析し、事業策定の参考とした。 また、アンケートの回収率と有用な分析データを得るためにアンケート内容とアンケート収集方法について改善企画を立てつつある。</p> <p>(事務局) ア 評価法について、他館・他施設の情報収集に努め、機構における評価法の構築を進めた。</p> <p><b>【機構の評価】</b> 美: 3、自: 3、陶: 3、科: 3、歴: 3 各館とも計画通りに館蔵資料の修復や展示物の改修を実施した。</p>	
	<p>(大阪市立美術館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘査して優先順位を設け、修復を行う。</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア 展示資料を中心に必要に応じた修復を行う。 【参考: 平成30年度は第5展示室の視聴覚機器を中心修理】</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態や活用予定などを勘査して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う 【参考: 平成29年度実績】 5件 5点</p> <p>(大阪市立科学館)</p>	<p>(大阪市立美術館) ア 市の予算(2000万円)により、近世絵画・近代絵画・中国絵画各1点を修復した。 【平成30年度実績】3件</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア 今年度も第5展示室の修復を実施した。どんぐりコースターほか、展示端末コンピュータ機器改修、講堂のプロジェクター改修を行った。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 修復作品 計7件7点 【平成30年度実績】韓国陶磁 計8件8点</p> <p>(大阪市立科学館)</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>3</p>

	<p>ア 科学に関する展示は、情報の更新や老朽化などが起こるため、計画的な展示の改修・改装を実施する。</p> <p>(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う。 【参考：平成29年度実績】 3件95点</p> <p>8 各館の施設の計画的な整備及び改修 博物館施設としての機能と利用者サービスの向上を目指し、次の改修等を計画的に実施する。</p> <p>(大阪市立美術館) 館の機能強化やサービス・魅力向上を目指し、教育普及活動の場の確保も念頭に、本館の大規模改修計画を策定して、2021年度からの実施を目指す。</p> <p>(大阪市立自然史博物館) 今後50年を見据え、収藏体制や常設展示をより魅力的な情報提供の場とするため、将来的展示改修に向けた構想づくりに着手する。 常設展示場内の展示端末およびその運用システムの更新を検討する。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) 館の機能強化のため、本館エントランスを中心とした大規模な改修計画を策定し、2020年から実施を目指す。</p> <p>(大阪市立科学館) 展示情報を更新し老朽化を回避するため、計画的な改修・改装を実施する。</p> <p>(大阪歴史博物館) 常設展示場の見直しを行い、老朽化した展示ケースや備品類の新調、展示機器の更新などを実施する常設展示場内の展示端末およびその運用システムの更新を検討する。 増加する海外からの来館者に対応するための施設整備に努める。</p> <p>9 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲</p>	<p>ア 老朽化や改良が必要となった20点の展示物の改修を実施した。</p> <p>(大阪歴史博物館) ア 前年度実績 5件46点 今年度予算で計画していた1件1点の修復を予定通り実施。年度末までに追加実施を計画していた1件については予算調整ができず、未実施となった。</p> <p>8 【機構の評価】 美：4、自：3、陶：3、科：3、歴：3 各館とも計画通りに実施した。美術館では大規模改修計画を進め、東洋陶磁美術館もエントランス等の改修を準備を行った。</p> <p>8 (大阪市立美術館) ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、2022年度からの着工を目指す。</p> <p>8 (大阪市立自然史博物館) ア 全面的な環境改善を必要とする旧第二収蔵庫を改修し、合わせて移動式物品棚の整備を求めていく。(再掲) イ 中央監視盤・空調機器・防水工事などの計画的整備・改修をすすめる。 ウ 研究機器などの継続的更新をすすめる。 エ 将來的な展示更新のための調査をすすめる。</p> <p>8 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア 2020年度からの本館エントランスを中心とした大規模改修計画の設計作業を実施する。 イ 老朽化した展示ケースはじめ展示室の改修などを検討する。 ウ LED照明など展示機器の更新を検討する。</p> <p>8 (大阪市立科学館) ア 第4次展示改装2期目の基本調査を実施する。 イ 常設展示品・展示場の老朽化、安全対策の検討を行う。 ウ プラネタリウム及び全天周映像システムの更新計画を作成する。</p> <p>8 (大阪歴史博物館) ア 老朽化した展示ケースや備品類の新調、展示端末などの展示機器の状況を把握し、適宜対応を行うとともに、更新計画の策定も行う。</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>4 大規模改修に向け、局の担当者と協力して進めている。</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>3</p>
--	---	---	---

得 科学研究費補助金をはじめ助成金等の獲得に努める。 科学研究費補助金の新たな館での研究機関指定を目指す。		美：4、自：4、陶：4、科：3、歴：3、経：4 科学研究費補助金は、合計23件が進行しており（うち9件が新規採択）、民間助成を含め多数獲得している。また、科学館が新たに科研費申請を行えるようになったのは大きな前進であった。	4	
	(大阪市立美術館) ア 科学研究費補助金等の外部資金の獲得を目指す	9 (大阪市立美術館) ア 学芸員9名中のべ5名が獲得。 科学研究費：3名が獲得、1名が協力者 民間助成金：1名が獲得 【平成30年度実績】 科学研究費：2名が獲得、1名が協力者 民間助成金：2名が獲得	4	9名中のべ5名が獲得したことを見た。
	(大阪市立自然史博物館) ア 科学研究費補助金を活用した現在継続中の研究課題を継続的に実施する。また研究活性化のために当面取り組むべき研究課題について新規の応募を科学研究費補助金及び民間研究助成金に対して行う。 イ 自然史・レガシー事業などを通じた館外との連携事業を実施する。 ウ 文化庁補助金「地域と共に働く博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募する。	9 (大阪市立自然史博物館) ア 令和元年度は新規に5件が採択され、継続課題7件と合わせて12件と好調であった。この他に、外部機関との共同研究による分担課題7件（うち4件は継続）、民間助成金4件を受託している。引き続き、令和2年度に向けて、12件の新規の課題を主担当として、分担者としての新規申請参画9件を申請した。 【平成30年度実績】継続課題8件、新規採択4件（当館主担当分のみ） イ 自然史・レガシー事業により「Where Nature Meets Culture」展を京都花洛庵で実施、内外から評価を受けた。 ウ 採択を受け実施中であり、来年度も応募に參加した。	4	科研費の採択数は博物館としては高いレベルを維持している。当館の研究実績及び研究能力が高く評価されていることと、内部での活性化、に成功していることと考える。また、外部との共同研究の多さも学術界からの当館への要望の高さを示していると考えた。 ICOMに関連して開催した自然史レガシー事業もICOM参加各委員会がワークショップで訪問するなど国際交流への貢献度が非常に高かった。以上から4と評価した。
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、学芸員が新規申請を行う。 【参考：平成29年度実績】 新規申請2件（うち獲得1件）、継続2件 イ 文化庁補助金「地域と共に働く博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。	9 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、学芸員が新規申請を行った。 館長・学芸員6名中 ・新規申請2名3件、継続4件（研究代表者3名、研究分担者1名） 【平成30年度実績】新規申請2件（うち獲得2件－研究成果公開促進費「学術図書」1件、新規1件） イ 文化庁補助金「地域と共に働く博物館創造活動支援事業」に「ミュージアムと地域を活性化させる魅力発信事業」として「館蔵資料オーブンデータ化による国際発信」事業に応募した。	4	科研費については計画通り研究者番号のある研究者がすべて申請しており、さらに人件比での採択率の高さ（67%）は高評価に値するものといえる。
	(大阪市立科学館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、学芸員が新規応募を行う（今年度、機関指定内に入った場合）。 イ 文化庁補助金「地域と共に働く博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。 ウ 各種助成団体への応募を行う。	9 (大阪市立科学館) 2020年度の科研費の募集に対して、学芸員10名が研究代表者として、2名（館長含む）が研究分担者として応募し、所属学芸員全員が応募した。また、文化庁補助金の募集に対して、科学館から3件の応募を行った。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 科学研究費助成金を獲得するため、学芸員が新規応募する。	9 (大阪歴史博物館) ア 2020年度の科学研究費助成金は新規応募件数が8件（継続中の課題は研究代表者分5件、研究分	3	

	<p>イ 文化庁補助金「地域と共に働くした博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募する。</p> <p>(事務局)      ア 科学研究費補助金を活用した研究課題7件を継続的に実施し、また新規の応募を行って研究資金の獲得に努める。      イ 文化庁補助金「地域と共に働くした博物館創造活動支援事業」を活用した事業を実施し、また次年度の応募を行って補助金獲得に努める。</p>	<p>9</p> <p>【担当者分2件】      【平成30年度実績】新規応募件数9件      イ 文化庁補助金事業には応募したが当館事業は不採択。</p> <p>(事務局経営企画課)      ア 科学研究費補助金については、令和元年度は新規の研究課題9件と継続の研究課題14件の合計23件を実施した。令和2年度分は35件の新規研究課題を申請し、9件採択された。      イ 文化庁補助金については、「ミュージアム活性化実行委員会として「ミュージアムと地域を活性化させる魅力発信事業」の申請を行い、令和元年度は広報誌の発行、連続講演会や市民参加イベントの開催、ICOM京都大会へのブース出展、展示等へのICT導入などに取り組んだ。令和2年度分も申請し、1,316万円交付内定があり、審査結果は応募72機関のうち、16位、得点は5点中4.2点（採択基準点3.29点以上）であった。</p>	<p>4</p> <p>アについて、前年度に引き続き、9件もの新規採択があった点、イについて、9月初旬に120か国、4,500人を超える参加者のあったICOM京都大会で、ブース出展し、機構所属館の国際発信を行ったこと、また、令和2年度の文化庁補助金申請での好成績を鑑みて、4と評価した。</p>
10 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する。 さまざまな利用者を念頭に、ユニバーサルデザイン化を推進する。		<p>【機構の評価】      美：3、自：4、陶：3、科：4、歴：3      各館とも順調に計画を進めた。自然史博物館の発話のテキスト化（字幕化）、科学館のスマートフォンを利用した展示解説など言語のバリアフリー化で新たな試みを始めた。</p>	<p>4</p>
	<p>(大阪市立美術館)      ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、2022年度からの着工を目指す（再掲）。      イ 来館者状況を注視しつつ施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の見直しを進める。</p> <p>(大阪市立自然史博物館)      ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する。      イ 受付カウンターなどでのタブレット端末を利用した翻訳や説明の支援を検討しすめる。      ウ 高齢者の参加ニーズなどに関する検討をすすめる。      エ 照明のLED化の推進による照明環境の向上につめる。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館)      ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。      イ トイレの改修、授乳室設置など来館者ニュースを踏まえた環境整備の検討を進める。      ウ 増加する海外からの来館者を踏まえ、施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進めます。</p> <p>(大阪市立科学館)      ア 施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化</p>	<p>10</p> <p>(大阪市立美術館)      ア 再掲（No. 8に記載）      イ 施設案内の英語表示以外の多言語化については改修工事を含めて検討中。</p> <p>10</p> <p>(大阪市立自然史博物館)      ア 1月に障害者向けのパックヤードツアー（盲学校団体の受け入れ）を実施した。また文化庁補助事業として発話のテキスト化による支援を試行し、アンケートでも好評との結果を得た。      イ 文化庁補助事業として実施した。      ウ 科研費による研究会を3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。      エ 年度末にナウマンホール天井の水銀灯をLED化した。</p> <p>10</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館)      ア エントランス増築棟建築計画に合せて情報収集をした。      イ エントランス増築棟建築計画に合せて情報収集をした。      ウ 未対応箇所の洗い出しを行い、改修計画の検討を進めた。</p> <p>10</p> <p>(大阪市立科学館)      ア 施設案内の英語、中国語など多言語化を検討</p>	<p>3</p> <p>4</p> <p>前年度の試行に引き続き障害のある利用者向けのサポートの試みを着実に広げることができた。コロナウイルス感染症などの外的要因による中止もあったが、着実な前進をすることができた点を評価した。</p> <p>3</p>
			<p>4</p> <p>機構内のパイロット事業として先陣を切り今後の他館への効率的な導</p>

	<p>検討を進める</p> <p>イ 解説・説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者増加を図る。</p>		<p>し、一部実施した。引き続き多言語化対応の検討を進めた。</p> <p>イ 文化庁から補助金を受け、常設展示物211点の英語、中国語の解説文をスマートフォンアプリで取得できるシステム「ポケット学芸員」の導入準備を行い、機構所属5館に先駆け導入し、1月から運用を開始した。</p>		入の道筋をつけたことを評価した。
10	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。</p> <p>イ 増加する海外からの来館者対応のため、トイレ洋式化などの計画策定を進める。</p> <p>ウ 来館者状況を注視しつつ施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める。</p>		<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 全館バリアフリー化、多目的トイレ設置、車椅子貸出し等対応済み。更なる改善点については情報収集中</p> <p>イ トイレの洋式化は、改修計画作成済み。</p> <p>ウ 既存の7種の外国语パンフレット配布数の分析を行い、国別の来館者の動向の把握に努めている。また導入したデジタルサイネージでは基本情報を多言語化し、視認性の高い案内を行った。</p>	3	

中期目標	<p>1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」</p> <p>(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信</p> <p>博物館等の魅力を広く伝えるため、各館がさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の国内外の関係機関(以下「他の博物館等関係機関」という。)と積極的に連携する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展における展示替え及び自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化</li> <li>・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと</li> <li>・多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開</li> <li>・博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用</li> <li>・各館の枠を超えた知識及び経験等の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携</li> <li>・I C T等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進</li> <li>・他の博物館等関係機関との相互支援及び協働を通じた相互の資源の保全及び効果的な活用</li> <li>・各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施</li> </ul>

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)					
			評価の判断理由(実施状況等)	評価						
(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信										
博物館等の魅力を広く伝えるため、次の通り、各館がさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の国内外の関係機関と積極的に連携する。										
【各館及び法人(以下、「各館等」という。)の基礎的活動の充実を目指す事項】 11 常設展における展示替え 常設展示について、次の方針のもと、展示更新をはじめその充実に努める。 (大阪市立美術館) 最新の研究成果を基に館蔵品及び寄託品を活用し、日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示を行う。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：5、歴：3 各館とも、順調に常設展示の運営を行い、自然史博物館では「昆虫展」等の効果のより観覧者数が2001年以来で最高を記録した。科学館ではリニューアル効果が著しく、常設展示入場者数は開館以来最高の40万人を超えた。一方で、政治・社会状況により韓国・中国からの利用者が減少し、歴史博物館などに影響を与えた。	4						
(大阪市立美術館) コレクション展では、購入や寄贈によって集まった日本・中国などの絵画・彫刻・工芸など8400件をこえる館蔵品と、社寺などから寄託された作品を展示する。 【平成31年度予算目標】30,000人 (参考)常設展示入場者実績 <table border="1"><tr><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr><tr><td>39,005人</td><td>19,773人</td><td>68,556人</td></tr></table> ア 最新の研究成果を基に館蔵品及び寄託品を活用し、日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示に取り組む。 イ 館蔵品及び寄託品を紹介するため、本年度は「おおさかの仏教美術2」「花香鳥語—中国明清の書」	平成27年度	平成28年度	平成29年度	39,005人	19,773人	68,556人	11	(大阪市立美術館) 計画に沿って22本のコレクション展を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大対策のため2月末日で中断。 年間総入場者数 【令和元年度実績】98,471人 【平成30年度実績】30,908人 【平成29年度実績】68,556人	3	
平成27年度	平成28年度	平成29年度								
39,005人	19,773人	68,556人								

	画」「白いやきもの」等22本のコレクション展を実施する。																	
(大阪市立自然史博物館)	<p>「自然と人間」をテーマにした展示を行い、自然科学研究の進展や、新たな資料やコンテンツの活用に合わせた適時の更新を進める(開館日)。</p> <p>常設展示室内で、小規模な企画展示を適時実施する。</p>	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、変遷や歴史を「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」のテーマで展示する。</p> <p>【平成31年度予算目標】176,000人</p> <p>(参考)常設展示入場者実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>214,822人</td> <td>244,587人</td> <td>193,431人</td> </tr> </tbody> </table> <p>ア 常設展示室内でのテーマ展示・コーナー展示などを開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」2019年12月を予定</li> <li>・「日本の古典椿」展示 2020年3月を予定</li> <li>・新たに収蔵した資料、被災資料の保全に関する展示などを予定(時期未定)</li> </ul> <p>イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活性化する。</p> <p>【参考: 平成29年度実績】 年間40回実施</p>	平成27年度	平成28年度	平成29年度	214,822人	244,587人	193,431人	11	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>常設展示の入場者数実績は情報センター設置以降過去最高を更新。</p> <p>令和元年度実績 290,812人 (うち、有料 132,204人無料 158,608人)</p> <p>【平成30年度実績】常設展示入場者228,182人</p> <p>ア テーマ展示・コーナー展示を実施</p> <p>3月～5月企画展示「標本を未来に引き継ぐ～新収資料展2019～」</p> <p>8月～大山桂良類学文庫 ミニ展示</p> <p>12月～「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」</p> <p>1月～「子年展」</p> <p>3月～「日本の古典椿」(予定したが、コロナウィルス感染症により開催できず。YOUTUBEにて公開)</p> <p>イ ワークショップは継続的に実施した。2月、および3月のワークショップは閉館により中止となり、36回実施。</p>	4	特別展や各種展示が好評であり、内容的にも充実し、常設展示来場者数も情報センター設置以降過去最高を更新したことを評価した。						
平成27年度	平成28年度	平成29年度																
214,822人	244,587人	193,431人																
(大阪市立東洋陶磁美術館)	独自の展示方法による魅力ある館蔵品の展示を行う。	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>安宅コレクションの中中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌(イ・ビョンチャン)コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁などの館蔵品を展示する。</p> <p>【平成31年度予算目標】109,200人</p> <p>(参考)常設展示入場者実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>64,156人</td> <td>118,749人</td> <td>95,711人</td> </tr> </tbody> </table> <p>ア 安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁・李秉昌コレクションの韓国陶磁・日本陶磁・沖正一郎コレクション鼻煙壺・近現代陶芸などの中から代表的作品を中心に約300点(特別展・企画展開催時は規模縮小)をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示する。</p> <p>イ 常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する下記の特集展示を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「朝鮮時代の水滴」4月6日～6月30日</li> <li>・「受贈記念 辻井コレクション 灯火器の世界(仮称)(PART1)」10月26日～12月8日</li> <li>・「受贈記念 木村盛康・天目のきらめき(仮称)」12月21日～2020年4月12日</li> </ul>	平成27年度	平成28年度	平成29年度	64,156人	118,749人	95,711人	11	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>国宝2点、重要文化財13点を含む世界有数の東洋陶磁コレクションである安宅コレクションの中中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌(イ・ビョンチャン)コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁などの館蔵品を自然採光や自然光に近いLED照明、独自の免震装置などにより展示した。</p> <p>【平成31年度予算目標】109,200人</p> <p>【今年度実績】105,375人</p> <p>(参考)常設展示入場者実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>118,749人</td> <td>95,711人</td> <td>82,930人</td> </tr> </tbody> </table> <p>ア 安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁・李秉昌コレクションの韓国陶磁・日本陶磁・沖正一郎コレクション鼻煙壺・近現代陶芸などの中から代表的作品を中心に約300点(特別展・企画展開催時は規模縮小)をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示了。</p> <p>イ 常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する下記の特集展示を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「朝鮮時代の水滴」4月6日～6月30日</li> <li>・「受贈記念 辻井コレクション 灯火具—ゆらめくあかり」10月26日～12月8日</li> <li>・「受贈記念 木村盛康—天目のきらめき」12月21日～2020年4月12日</li> </ul>	平成28年度	平成29年度	平成30年度	118,749人	95,711人	82,930人	3	
平成27年度	平成28年度	平成29年度																
64,156人	118,749人	95,711人																
平成28年度	平成29年度	平成30年度																
118,749人	95,711人	82,930人																
(大阪市立科学館)	物理学・化学・天文学・科学史・気象・科学技術	(大阪市立科学館)	「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階か	11	(大阪市立科学館)	展示場4階部分のリニューアルを実施するとともに	5	※3月の臨時休館で入場者数の達成率が104%にとどまりましたが、過去										

<p>に関する資料及び実験装置、観測装置の実物資料の展示、並びに体験型展示を行う(開館日)。 展示化が困難な現象やより展示内容を掘り下げる現象について、サイエンスショーを通じて演示する。</p>	<p>ら4階の各フロアで模型・装置・実物などにより展示し、またサイエンスショーなどの演示を行う。 【平成31年度予算目標】390,000人 (参考)常設展示入場者実績</p> <table border="1" data-bbox="691 271 1125 319"> <thead> <tr> <th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>368,147人</td><td>375,376人</td><td>379,021人</td></tr> </tbody> </table> <p>ア 実験装置、観測装置の実物資料静展示や体験型展示を設置する。 【参考: 平成29年度実績】 新規製作展示8点、改修展示7点 イ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示し、新プログラムを3か月に1本実施する。 【参考: 平成29年度実績】 サイエンスショー演示回数 1,039回 見学者数71,867人</p>	平成27年度	平成28年度	平成29年度	368,147人	375,376人	379,021人	<p>、学芸員のギャラリートークやイベント、講座などにより集客増に努めた。その結果、2月29日から3月31日まで新型コロナウイルス感染拡大防止により臨時休館したものの、常設展示入場者数は開館以来最高の405,825人となった。今年度の目標入場者数390,000人に対する達成率は104%である。 ア【平成30年度実績】215,558人(12月1日～3月29日は公開休止) ア 常設展示場では、実物資料静展示や体験型展示を221点設置、公開している。 イ サイエンスショーの演示回数は、992回、のべ見学者数は68,889人。</p>	<p>最高ペースを保ち、40万人越えは、科学館史上最多であることから、5と評価した。 また、27～29年度の3年間の、3月の展示場入場者数平均は26,791人であり、これを元年度の405,825人に加えると、432,616人になり、目標の110%達成が予想された。</p>
平成27年度	平成28年度	平成29年度							
368,147人	375,376人	379,021人							
<p>(大阪歴史博物館) 「都市おおさかの歴史」をテーマに展示を行うとともに、時宜やテーマに即した「特集展示」を開催する(開館日)。</p>	<p>(大阪歴史博物館) 古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示する。 【平成31年度予算目標】285,000人 (参考)常設展示入場者実績</p> <table border="1" data-bbox="691 657 1125 705"> <thead> <tr> <th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>339,200人</td><td>391,862人</td><td>355,615人</td></tr> </tbody> </table> <p>ア 季節や時宜に応じた展示、話題性のあるテーマ・内容の展示をおこなうことで常設展示の更新に取り組む。 イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実をはかる。 ウ 館蔵資料および市内出土の考古資料を紹介するため、6本の特集展示を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新収品お披露目展」5月8日～7月8日</li> <li>・「『漣』を生んだ風景－近代水都大阪を描く－」7月10日～8月19日</li> <li>・「博学連携vol.1 商都大阪の文化力」8月21日～10月14日</li> <li>・「なにわの考古学2019」10月16日～1月6日</li> <li>・「押絵「西国三十三所観音靈験記」と生人形」1月8日～3月2日</li> <li>・「発掘成果から考える近世都市「おおさか」の食文化」3月4日～5月11日</li> </ul>	平成27年度	平成28年度	平成29年度	339,200人	391,862人	355,615人	<p>11 (大阪歴史博物館) 今年度実績 239,435人 今年度予算目標 285,000人 【平成30年度実績】274,568人 新型コロナウイルス感染症の影響から令和2年に入り訪日外国人旅行者が激減。加えて2月29日より臨時休館に入ったことによって前年度実績・今年度目標を大きく下回る結果となった。 ア 常設展示の更新は30件を実施済(内2件は臨時休館後の更新のため未公開)。 イ 展示資料の内容に合わせ適宜外国語訳を付した ウ 6本の特集展示は予定通り実施した。 ただし、1月以降の2本については新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館により、「押絵「西国三十三所観音靈験記」と生人形」は2月28日で閉幕。「発掘成果から考える近世都市「おおさか」の食文化」はすべての準備を整えたが年度内の公開はできなかった。</p>	<p>2 新型コロナウイルス感染症の影響から訪日外国人旅行者が激減し、(令和2年2月が前年から60%減、3月が93%減)その影響をもろに受けた状況である。加えて令和2年2月29日より休館に入ったことによって前年度実績・今年度目標を大きく下回る結果となった。評価にあたっては、前述の訪日外国人旅行者減少を考慮し、今年度目標値を247,000人(=285,000×10.4/12)と修正し、実質達成率を96.9%とした上で導きだした。</p>
平成27年度	平成28年度	平成29年度							
339,200人	391,862人	355,615人							
<p>(大阪中之島美術館) 開館後、所蔵品と寄託品を活用して、多彩なテーマにより、変化に富むコレクション展示を開催する 12 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化 特別展等について、次の方針のもと、利用者ニーズにも配慮した魅力的な企画の実現に努める。</p>	<p>(大阪中之島美術館) 【記載なし】</p>	<p>11</p>	<p>【機構の評価】 美: 5、自: 4、陶: 5、科: 5、歴: 3 美術館「フェルメール展」(約54万人)、「浮世絵コレクション展」(約5.9万人)、東洋陶磁美術館「フィンランド陶芸」(約5.7万人)、歴史博物館「決定版・刀装具入門」(約2.7万人)の各展は目標入場者数を上回った。自然史博物館「昆虫展」は</p>						

(大阪市立美術館) 国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局などと協働した特別展を開催する(年3~4回程度)。なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。	(大阪市立美術館) ア 国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局などと協働した特別展を開催する。本年度は以下の6本の特別展を実施する。 <ul style="list-style-type: none"><li>・「フェルメール展」(巡回企画) 2月16日～5月12日、開催日数76日 フェルメールの作品5点と17世紀オランダ絵画約40点を展示し、17世紀オランダ絵画の広がりと独創性を紹介する。 【平成31年度予算目標】500,000人</li><li>・「改組新5回日展」(巡回企画) 6月1日～6月30日、開催日数26日 日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の5部門からなる日本で最も歴史と伝統のある公募展。 【平成31年度予算目標】40,300人</li><li>・「第65回全関西美術展」(自主企画) 7月16日～7月28日、開催日数12日 大阪市立美術館が関西圏の創作家に出品を募集し、審査をして開催する公募展覧会。 【平成31年度予算目標】7,200人</li><li>・「メアリー・エインズワース・浮世絵コレクション展」(自主・巡回企画) 8月10日～9月29日、開催日数44日 明治後期に来日したメアリー・エインズワースが蒐集した、鈴木春信・喜多川歌麿・葛飾北斎・歌川広重などの名品が含まれる浮世絵コレクションの初めての里帰り展。 【平成31年度予算目標】38,993人</li><li>・「仏像 中国・日本」(自主企画) 10月12日～12月8日、開催日数50日 中国3000年の人のすがたと神・仏を表す立体造形を、それを受容してきた日本からの視点で読み解きながら通観する。 【平成31年度予算目標】36,000人</li><li>・「改組新第6回日展」(巡回企画) 2月22日～3月22日、開催日数26日 日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の5部門からなる日本で最も歴史と伝統のある公募展。 【平成31年度予算目標】40,300人</li></ul>	小・中学生有料化の検討により広報が出遅れたが、目標に迫る成果を上げ収益は黒字化した。科学館のプラネタリウムは入場者が目標値(37万人)を超える見込みで、新たに開始した「学芸員スペシャル」も好評であった。		
12	(大阪市立美術館) ア 計画に沿って6本の特別展を実施した。 <ul style="list-style-type: none"><li>・「フェルメール展」(巡回企画) 2月16日～5月12日、開催日数76日 入場者541,651人、うち有料443,963人</li><li>・「改組新5回日展」(巡回企画) 6月1日～6月30日、開催日数26日 入場者39,994人、うち有料32,613人</li><li>・「第65回全関西美術展」(自主企画) 7月16日～7月28日、開催日数12日 入場者6,697人、うち有料2,433人</li><li>・「メアリー・エインズワース・浮世絵コレクション展」(自主・巡回企画) 8月10日～9月29日、開催日数44日 入場者59,383人、うち有料34,480人</li><li>・「仏像 中国・日本」(自主企画) 10月12日～12月8日、開催日数50日 入場者29,394人、うち有料17,096人</li><li>・「改組新第6回日展」(巡回企画) 2月22日～3月22日、開催日数6日 (当初予定: 2月22日～3月22日 疫病の蔓延により中断) 入場者2,943人、うち有料1,788人</li></ul>	5	「フェルメール展」「メアリー・エインズワース・浮世絵コレクション展」において、目標値を超える来館者を得、収益黒字のうえ、良好な観覧環境を維持できた点などを評価した。	
(大阪市立自然史博物館) 博物館の収蔵品や学芸員の調査研究の成果の市民への還元や新たな価値の創出を目指し、主催特別展	(大阪市立自然史博物館) 以下の2本の特別展を実施する。(ただし、連携先の状況によっては外来生物展のみを夏期に実施)	12	(大阪市立自然史博物館) ・昆虫展 当初からプレス、SNSなどの口コミを含め、反応は	4

<p>を開催する(毎年1回)。 国内外の自然史系博物館や新聞社・テレビ局などと連携して、特別展を開催する(年2~3回程度)。</p>	<p>・「昆虫展」(巡回企画) 2019年7月13日(土)~9月29日(日) 本展は、国立科学博物館が「昆虫」をテーマとして開催する初めての大型特別展の大阪への巡回展であり、多種多様な昆虫の体の仕組みや能力、生態について、最新の知見や標本に加え、CGや体感型展示などを活用し、昆虫の魅力を多角的に紹介する。さらに、電子顕微鏡やCTスキャンなどの機器を導入した昆虫研究の最前線に迫り、こうした研究成果が現代社会のさまざまな場面で活かされていることについても紹介。一方で、私たちが從来から親しんできた「虫捕り」が昆虫研究の第一歩であることを踏まえ、適切な採集方法や昆虫標本の作り方についても詳しく紹介する。 【平成31年度予算目標】160,000人 ・「外来生物展」(自主企画) 2020年2月29日(土)~5月31日(日)を予定 日本を中心に外来生物問題を紹介し、自然とのつき合い方を考えてもらう機会とする。あわせて、2015年から市民参加で実施している外来生物調査プロジェクトの成果の発表も行う。 【平成31年度予算目標】16,000人 (来年度開催期間を含む)</p>	<p>強く、小中学生有料化の議論が遅れたために、前売り及び広報の出足が遅くなつたが、共催各社の努力もあり、挽回することができた。結果、合計入場者数は15万6,415名(1日の最多入場者5,975名 9月15日)とやや目標値を下回るもの、暴風警報発令のため、5千人近い入場が予想された8月15日が臨時休館となり、前日も含め入場者数は打撃を受けたことを考慮すれば十分な来場をいただけた。来場者アンケートでは過半数が初めての来館者であり、かつ87%が大変満足・満足となり当館の認知向上と普及教育に寄与したと考えている。収益も黒字化することができた。</p> <p>・外来生物展 開催期間を「令和2年3月1日(日)から5月31日(日)まで」とし、特別展「知るからはじめる外来生物 ~未来へつなぐ地域の自然~」としてプレスリリースしたが、2月末よりの閉館により年度内は開催できなかつた。SNSなどにより特別展の紹介を進め、通販により解説書の販売のみすすめている。</p>	
<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) 国内外の美術館・博物館などと連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催する(年3~4回程度)。 なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。</p>	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) 以下の3本の特別展を実施する。 ・「文房四宝-清閑なる時を求めて」(自主企画) 4月6日~6月30日、開催日数75日 文房は、もとは中国の宮中で文書を司る役職または部屋をさし、唐時代に読書の部屋、書斎を指すようになった。この文房に備えられた大切な道具として挙げられるのが、筆・墨・硯・紙の「文房四宝」であり、貴重なものとして扱われた。文房具には、この四種以外にも印材・水滴・筆筒など様々な道具があり、皇帝を含めた高級官僚である文人の教養の高さや美意識に裏付けられた品々である。今回は、日本有数の文房具の個人コレクションから、中国の文人を魅了し続けた文房四宝の世界を、中国は明時代から清時代を中心に文房具約150点をもって紹介する。 【平成31年度予算目標】28,000名 ・「フィンランド陶芸 芸術家たちのユートピアコレクション・カッコネン」・同時開催 「マリメッコ・スピリット フィンランド・ミーツ・ジャパン」(巡回企画) 7月13日~10月14日、開催日数81日 日本フィンランド外交関係樹立100周年を記</p>	<p>12 (大阪市立東洋陶磁美術館) ・「文房四宝-清閑なる時を求めて」(自主企画) 4月6日~6月30日、開催日数75日 文房は、もとは中国の宮中で文書を司る役職または部屋をさし、唐時代に読書の部屋、書斎を指すようになった。この文房に備えられた大切な道具として挙げられるのが、筆・墨・硯・紙の「文房四宝」であり、貴重なものとして扱われた。文房具には、この四種以外にも印材・水滴・筆筒など様々な道具があり、皇帝を含めた高級官僚である文人の教養の高さや美意識に裏付けられた品々である。今回は、日本有数の文房具の個人コレクションから、中国の文人を魅了し続けた文房四宝の世界を、中国は明時代から清時代を中心に文房具約150点をもって紹介した。 【入館者目標値】28,000名 【入館者実績】24,307名 ・「フィンランド陶芸 芸術家たちのユートピアコレクション・カッコネン」 ・同時開催 「マリメッコ・スピリット フィンランド・ミーツ・ジャパン」(巡回企画) 7月13日~10月14日、開催日数81日 日本フィンランド外交関係樹立100周年を記念し、</p>	<p>5 館蔵品を生かした質の高い展覧会の開催に向けて積極的に企画に関与して展覧会実現につなげた。各展覧会の評価理由は下記のとおり。</p> <p>*文房四宝は日本国内ではあまり開催されないテーマの展覧会であり、質の高い出品作品のほとんどが初公開のもので、国内だけでなく、海外からも注目を集めた。当館の独自制作の図録が好評で、増刷を行つた。</p> <p>*国内巡回企画であるが、フィンランド陶芸については当館が出品交渉から関与した展覧会である。また東洋陶磁美術館独自の「マリメッコ茶室」も全く新しい試みであり、大変好評であった。あわせて来館者に東洋陶磁美術館の常設展を見ていただき、新規来館者の獲得にも貢献した。</p> <p>*竹工芸展はメトロポリタン美術館と当館は長年の友好と信頼関係があ</p>

	<p>念し、フィンランド工芸の世界的に著名なコレクターであるキュオスティ・カッコネン氏の所蔵作品から、約130件によりフィンランド陶芸の豊かな世界を紹介する。フィンランド陶芸は、19世紀末のアーツ・アンド・クラフト運動の影響を受けた作家による工芸教育の充実と、アラビア製陶所の美術部門を中心とした作家の自由な創作活動により花開いた。本展では、1950年代、60年代を中心に活躍した個人作家の作品を中心に、黎明期からの体系的な展示を行う。なお本展に併せて、鮮やかな色彩と力強いテキスタイル・デザインで知られるマリメッコを、日本との交流のなかで紹介する「マリメッコ・スピリット・フィンランド・ミーツ・ジャパン」展を開催する。</p> <p>【平成31年度予算目標】42,500名        ・「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクションメトロポリタン美術館所蔵」（巡回企画）        12月21日～2020年4月12日、開催日数92日        ニューヨークのメトロポリタン美術館の所蔵となる、アビー・コレクションは、19世紀後半から現代までの日本の竹工芸の粹といえる。竹という「線」で構成された作品は、花入や籠であると同時に、近年ではその用途を超えて、造形的な魅力を持つ現代アートとして捉えなおされている。本展では、約70点のアビー・コレクションの竹工芸を、形態や主題に関連の見られる東洋陶磁美術館の所蔵作品とあわせて展示し、工芸という領域の広がりとその可能性を視覚的に提示する。また、大阪の誇る現代作家である四代田辺竹雲斎により、美術館の空間を活かした竹によるインスタレーションを制作する。</p> <p>【平成31年度予算目標】33,000名</p>	<p>キュオスティ・カッコネン氏の所蔵作品を中心に、137件のフィンランド陶芸を展示した。同時開催の「マリメッコ・スピリット」展では、フィンランドのテキスタイル・ブランドとして知られるマリメッコのデザイナーによる日本をテーマとした作品を紹介した。また、マリメッコ社と京都で活動する茶室建築家の飯島照仁氏と相談しながら、同社のテキスタイルを用いた茶室を新たに制作し展示了。期間中には、飯島氏の講演会を呈茶とともに実施した。またナレッジ・キャピタルでの講座や、アートエリアB1と大阪大学と連携によるシンポジウムを開催した。</p> <p>【入館者目標値】42,500名        【入館者実績】57,610名</p> <p>・「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクションメトロポリタン美術館所蔵」（巡回企画）        12月21日～2020年4月12日、開催日数91日（当初予定）        新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月29日以降は臨時休館とし開館日数53日        ニューヨークのメトロポリタン美術館の所蔵となる、アビー・コレクション75件を形態や主題に関連の見られる東洋陶磁美術館の所蔵作品とあわせて展示了。また、大阪の誇る現代作家である四代田辺竹雲斎（1973-）によって、美術館エントランスの吹抜け空間の床から天井までを使用して、竹によるインスタレーション作品《GATE》が制作された。        竹工芸の現在の位置付けについて理解を深めるため、本展の日本巡回企画の全体に関わった、モニカ・ビンチク氏と館長によるトークイベントを実施したほか、四代竹雲斎との記念対談を実施した。        新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館した際には、企業の協力を得て展示室の3Dデジタルコンテンツを作成し公開したほか、オンラインの生放送などをおこないご来館いただけなかった方々へ向けて展覧会内容の公開に努めた。</p> <p>【入館者目標値】33,000名（令和元年度分29,011名）        【入館者実績】15,655名</p>	<p>り、当館での開催ができた。巡回企画ではあるが、当館の館蔵品と組み合せた展示で、巡回展の新しい形を示すことができた。またインスタレーションも当館独自の企画であり、好評を博した。デザイン性の優れたポスターイメージによって新しい来館者を獲得でき、東洋陶磁の常設展示の魅力を新規に知つていただく機会となった。</p>						
<p>（大阪市立科学館）        プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、定期的にテーマを変え、実施する（開館日）。        小～中規模の企画展を開催する（年1～2回程度）。</p>	<p>（大阪市立科学館）        ア プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、新プログラムを3か月に1本制作・投影し、他館に配給する特別プログラムを年2本制作する。</p> <p>【平成31年度予算目標】370,000人        （参考：実績）</p> <table border="1" data-bbox="682 1310 1118 1373"> <tr> <th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> <tr> <td>353,786人</td><td>356,694人</td><td>341,011人</td></tr> </table> <p>イ 「スーパートイ・積み木～その科学と歴史(仮)」</p>	平成27年度	平成28年度	平成29年度	353,786人	356,694人	341,011人	<p>12</p> <p>（大阪市立科学館）        ア 光学式プラネタリウムのリニューアルを実施するとともに、幅広い客層に対し個別にアプローチできるよう、プログラムの多様化（一般投影、ファミリータイム、学芸員スペシャル、学習投影）を図った。また、30周年記念イベントとして、3か月連続スペシャルナイトを実施するなど、集客増に努めたことにより、開館以来最高の入場者数となるペースで推移していた。しかし、2月29日から3月</p>	<p>5</p> <p>※3月の臨時休館で入場者数の達成率が104%にとどまったが、過去最高ペースを保ったこと、学芸員がそれまでの調査研究を通じ、先進的な展示やプラネタリウム機器を低コストで製作・導入でき、多くの来館者に科学的な知識、博物館施設としての満足度を高めることができたため。その一つの証左が来館者数にも表れ</p>
平成27年度	平成28年度	平成29年度							
353,786人	356,694人	341,011人							

	<p>ドイツ博物館との特別連携を実施し、ドイツ博物館が所蔵する積み木に関する歴史的資料の展示を通して、積み木に関する物理学・数学・芸術、幼児教育に関する意義を紹介する。</p> <p>【平成31年度予算目標】75,000人      (参考)平成29年度実績      同時期展示場観覧者数 69,995人</p>	<p>31日まで新型コロナウイルス感染拡大防止により臨時休館したため、プラネタリウム入場者は351,932人。今年度の目標入場者数370,000人に対する達成率は95.1%であった。</p> <p>プラネタリウムの入場口では投影プログラムに合わせたパネル展示(「アポロ」「オーロラ」)を実施するなど観覧客の満足度向上を図った。</p> <p>＜備考＞</p> <p>一般投影：3か月毎に2パターンずつプログラム更新を実施。今年度は新作を2作品投影(「宇宙ヒストリア」「星の降る夜に」)</p> <p>特別投影「学芸員スペシャル」(新規実施)：各学芸員が専門性を活かして独自に企画したオリジナルプログラム。土日祝実施。</p> <p>【平成30年度実績】215,558人(12月1日～3月29日は公開休止)</p> <p>イ 当初予定していた企画展「スーパートイ・積み木～その科学と歴史(仮)」は、連携先のドイツ博物館の事情により連携が困難となったため、準備段階において開催を断念し、当館の自主企画として下記③の企画展示を行った。その他の特別展示、特別展示と併せて今年度は以下の3件を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①長良隕石特別展示：4/1～5/12(期間入場者数63,184人)</li> <li>②特別展「国際周期表年2019特別展」：10/5～10/27(期間入館者数30,740人)</li> <li>③企画展示「積み木のルーツ」：2/1～2/28(期間入場者数18,960人)</li> </ul> <p>その他、アトリウムとホワイエ(無料スペース)において以下の期間限定展示を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①「新コレクション展2019」(4/1～6/2)</li> <li>②「アポロ月着陸50年」(6/28～12/1)</li> <li>③「大阪市立科学館30周年」(9/5～12/1)</li> <li>④「科学館のコンピュータ・コレクション」(12/17～2/28)</li> <li>⑤「星図と星表」(1/5～2/28)</li> <li>⑥「新コレクション展」(3/5～3/31、ただし臨時休館により公開なし)</li> </ul> <p>【平成30年度実績】99,840人(9月3日～3月29日は展示場公開休止)</p>	<p>ていることを評価。</p>
<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、自主企画や巡回展により、特別展・特別企画展を開催する(年3～4回程度)。</p>	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>以下の3本の特別展を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「浮世絵ねこの世界展」(巡回企画)          7月27日～9月8日、開催日数39日          平安時代に宮中のベットとして飼われ、それ以後に人間の生活の中に入り込んだ猫。本展では浮世絵の中に描かれた猫の世界をテーマに、猫の浮世絵で知られた国芳のほか、国貞、豊国などの江戸・明治に活躍した絵師た</li> </ul>	<p>12</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>3本の特別展のうち、予定通り2本の特別展を実施した。会期が終了した「浮世絵ねこの世界展」と「勝矢コレクション刀装具受贈記念 決定版・刀装具鑑賞入門」の結果は以下のとおり。</p> <p>○「浮世絵ねこの世界展」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日数は台風の影響のため38日となった。</li> <li>・予算目標 33,500人</li> <li>・入場者数 30,012人(対予算比 89.6%)</li> </ul>	<p>3</p>

	<p>ちが、猫を様々に描いた浮世絵を紹介する。</p> <p>【平成31年度予算目標】33,500人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「勝矢コレクション刀装具受贈記念 決定版</li> <li>・刀装具鑑賞入門」（自主企画）</li> </ul> <p>10月5日～12月1日、開催日数50日</p> <p>平成31年度以降に寄贈が想定されている刀装具コレクションのお披露目展。収集者の勝矢俊一氏（故人）は、戦前から戦後に掛けて京都大学や長崎大学などで教鞭をとった医学博士。京都府立大学の創設にも携わった。昭和に形成された刀装具コレクションとしては国内一の資料群としてつとに名高い。</p> <p>【平成31年度予算目標】24,800人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「猿描き狂仙三兄弟 一鶴の若冲、カエルの奉時もー」（自主企画・他館へ巡回）</li> </ul> <p>2月26日～4月5日、開催日数35日</p> <p>猿を描いて名を馳せた森狂仙（1749?～1821）とその兄弟、および子孫の画業を通覧する。また動物絵画を得意とした森家の絵画とともに「一科の芸」として名高い伊藤若冲の鶴、岸駒の虎、白井直賢の鼠、応挙の子犬、奉時の蝦蟇らの作品により、江戸時代の大坂や京における多様な動物表現をも紹介する。</p> <p>【平成31年度予算目標】21,900人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当館収蔵品を活用した大阪独自の展示コーナーを設けた。また、ねこに関わる常設展の展示物を活用し、常設展への誘導を試みた。ねこブームを利用できることで、当館にあまり来ない客層を取り込めた。</li> </ul> <p>・収支率118.1%と黒字を実現した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「勝矢コレクション刀装具受贈記念 決定版</li> <li>・刀装具鑑賞入門」</li> <li>・予算目標 24,800人</li> <li>・入場者数 27,058人（対予算比 109.1%）</li> <li>・音声ガイド、単眼鏡貸出、リピート割入場を導入し、コアな愛好者層の取り込みをはかった。</li> <li>・無料入場者の割合が高かった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「猿描き狂仙三兄弟」</li> <li>・2月26日に開幕後、3日間のみ公開して、コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館し、再開できずに終了した。入場者数473人であった。</li> <li>なお、今年度は「勝矢コレクション刀装具受贈記念 決定版・刀装具鑑賞入門」と「猿描き狂仙三兄弟」が自主企画展で、「浮世絵ねこの世界展」が巡回展と、自主企画展を充実させた。これは寄贈品のお披露目展と学芸員の長年の研究活動の成果展という博物館の基本活動に沿った企画という点で大きな意義がある。</li> </ul>		
(大阪中之島美術館)	(大阪中之島美術館) 【記載なし】	12		
13 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業 講座・講演会・シンポジウム等を通じて、活動成果の公開と普及に努める。 踏査や見学機会を通じて、実物に接する機会を提供する。 ワークショップの実施やリファレンス窓口を設置して、利用者の学習支援を行う。		<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、経：3 各館とも計画通りに実施した。各館の通常の事業に加え、機構の一体感を醸成する「学芸員トーク＆シンク」を新規開催し好評を得た。</p>	3	
	(大阪市立美術館) ア 展覧会等の関連事業としての講演会等を開催する。 【参考：平成29年度】 講演会・レクチャー8回	13	(大阪市立美術館) ア【令和元年度実績】 講演会：3回 トークイベント：1回 ギャラリートーク：19回 【平成30年度実績】 講演会：8回 国際シンポジウム：1回	3
	(大阪市立自然史博物館) ア 各種の自然観察会など多様な野外行事・講演会を継続的に実施する。 【参考：平成29年度実績162回】	13	(大阪市立自然史博物館) ア野外観察会、室内実習、ワークショップなど合計152回を企画し、雨天および臨時閉館の影響で15回が中止となった。6,311人（自然史フェスティ	3

	<p>イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。</p> <p>ウ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などを誘致開催する。</p> <p>【参考：平成30年度には関西自然保護機構、日本変形菌研究会などを開催した 平成31年度は関西自然保護機構、日本鱗翅学会、日本堆積学会の大会を当館にて開催予定】</p>		<p>バルを含めると32,311人）が参加した。</p> <p>【平成30年度実績】普及教育行事160回を企画し、153回を実施。</p> <p>イ 外来生物展に関連し、2019年4、5月及び12月に行った。また3月にも特別展関連の講演会を企画したが延期となった。</p> <p>ウ 日本鱗翅学会、日本堆積学会の大会を実施し、それぞれ公開講演会を行った。このほか地学団体研究会、関西菌類談話会との共催講演会を実施した。3月に関西自然保護機構との共催シンポジウムが予定されていたが中止となった（年間5回）。</p>	
13	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催する。</p> <p>【参考：平成29年度実績】 23回</p> <p>イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会、講座、レクチャーなどを継続的に実施する。</p> <p>【参考：平成29年度実績】 3回</p> <p>ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座を実施する。</p>		<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 2月末実績：26回</p> <p>【平成30年度実績】25回（詳細は別紙）</p> <p>イ 2月末実績：2回（トーク＆シンク2回）</p> <p>【平成30年度実績】3回（詳細は別紙）</p> <p>ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(13)「耀州窯青磁と高麗」を延期（2020年3月14日予定だったが、新型コロナウイルスの影響で次年度以降に延期）</p> <p>【平成30年度実績】</p> <p>韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(12)「高麗と汝窯の新発見」を実施（2019年1月12日）</p>	3
13	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学芸員による各種実験教室や研修・講座を実施する。</p> <p>【参考：平成29年度実績】天体観望会 8回 615人</p> <p>イ 物理教育学会との連携による科学の祭典の実施・気象庁との連携による天気関係の行事実施など、外部組織と連携する。</p> <p>【参考：平成29年度実績】ア・イ47件</p> <p>ウ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。</p> <p>【参考：平成29年度実績】</p> <p>展示ガイド活動延べ1,517名</p> <p>エキストラ実験ショー実施回数 403回</p> <p>エ プラネタリウムやサイエンスショー、講演会等を出張するアウトリーチ活動を実施する。</p> <p>【参考：平成29年度実績】39件</p>		<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学芸員による各種実験教室・講座として、天体観望会を8回、夏休み自由研究工作教室とのべ5回、プラネタリウム・スペシャルナイトを4回、大人の化学クラブをのべ2回実施した。また、教員向けの研修プログラムをのべ3件実施した（大阪教育大学、大阪市教育センター等との連携）</p> <p>【平成30年度実績】14件</p> <p>イ 物理教育学会との連携による「青少年のための科学の祭典大阪大会」、大阪管区気象台との連携による「夏休みミニ気象台」をはじめ、外部連携との共催事業を20件実施した。</p> <p>【平成30年度実績】15件</p> <p>ウ 展示ガイド：のべ1,502人が活動した。</p> <p>エキストラ実験ショーは、のべ319回実施した。</p> <p>【平成30年度実績】 展示ガイド活動延べ1,517名、エキストラ実験ショー224回</p> <p>エ モバイルプラネタリウム、出張サイエンスショー、3D宇宙映像体験、ワークショップ、講演などのアウトリーチ事業を22件実施した</p> <p>エ 【平成30年度実績】29件</p>	3
13	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果をつたえる「なにわ歴博講座」を継続的に実施する。</p> <p>【参考：平成29年度実績】 3期14回</p> <p>イ 学芸員の専門に即した連続講座を実施する。</p>		<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア ⑩なにわ歴博講座 3期13回(1,057人)</p> <p>今年度目標 2期6回</p> <p>1期3回で計192人の参加を得たが、2期はコロナウイルス感染症による臨時休館のため実施できなかった</p>	3

	<p>【参考：平成29年度実績】 考古学入門講座 3回、漢文講座 3回 ウ 展覧会などの関連事業としてのシンポジウムなどを開催する。</p>		<p>。 【平成30年度実績】 3回 (90人) イ ◎考古学入門講座 3回 予定通り3回実施、のべ107人の参加を得た。今年度も抽選を行った。 【平成30年度実績】 3回 (90人) ◎漢文講座 1月に3回を実施し、166名であった。 今年度目標 3回 【平成30年度実績】 3回 (160人) ウ 特別展「浮世絵ねこの世界展」 ・ ブレ講座 3回 参加者計78人 ・ 講演会 131人 特別展「刀装具鑑賞入門展」 ・ 講演会 47人 特集展示「商都大阪の文化力」 ・ 講演会145人 ・ 関連講座 125人 ・ シンポジウム 77人</p>	
	<p>(事務局) ア 各館の学芸員等が連携して行う連続講座を2シリーズ(14講演)程度開催する。 イ 大阪市立大学と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ(6講演)、歴史に関する連続講座を1回(4講演)、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回、それぞれ開催する</p>	13	<p>(事務局経営企画課) 計画通り、以下を実施した。 ア 学芸員連続講座「TALK&amp;THINK」の実施 …目標：14講座、実績：13講座(1講座は講師都合(忌引)による休講) イ 大阪市立大学との包括連携協定による事業 ミュージアム連続講座…目標：6講座、実績：6講座 歴史に関する連続講座…目標：4講座、実績：4講座、シンポジウム…目標：1回、実績：1回 、理系の講演会…目標：1回、実績：1回</p>	3
14 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開	<p>図録・紀要等印刷物の発行によって調査研究その他の活動の成果を公表する。 収蔵資料や図書等に関する情報をインターネットを介して公開する。 講演会や学会発表映像、収蔵標本データ観察記録などのアーカイブ化と公開を促進する。</p>		<p>【機構の評価】 美：4、自：3、陶：4、科：3、歴：3 各館とも計画通り、展覧会ごとに図録を発行し、シリーズ・定期刊行物を発行するなど堅実に取り組んだ。</p>	3
	<p>(大阪市立美術館) ア 研究紀要を刊行し、ホームページ上で公開する(年1回)。 イ 特別展の図録を作成する。 ウ 広報誌『美をつくし』を発行する(年2回)。</p>	14	<p>(大阪市立美術館) ア 3月に刊行・公開した。 【平成30年度実績】研究紀要年 1回 イ 「フェルメール展」「マリー・エインズワース・浮世絵コレクション展」(巡回館と共同作成)「仏像 中国・日本」(独自作成)、二度の「日展」の5回の特別展で図録を作成・販売した。 【平成30年度実績】特別展図録3冊 ウ 9月・3月に発行した。 【平成30年度実績】2回</p>	4
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p>	14	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市立自然史博物館研究報告74号を3月に発行した。8件の論文を掲載。</p>	3

	<p>【参考：平成30年発行73号には15篇の論文が、29年度発行の72号には10篇の論文が収載されている】</p> <p>イ 収蔵資料目録・ミニガイドなどを継続的に発行する。</p> <p>【参考：平成31年度は鳴橋コレクションバラ科植物目録を予定、平成30年度は「岐阜県熊石洞産脊椎動物化石目録」、平成29年「北島浅子氏収集 種子植物 種子・芽生え標本目録」を発行】（再掲）</p> <p>ウ 特別展解説書を作成・発行する。</p> <p>【平成31年度は外来生物展の解説書を予定。平成30年度は「きのこの秘密を知るために」を発行】</p> <p>エ 友の会発行の月刊誌Nature Studyを監修、編集する。</p> <p>【平成30年度はVol. 64 (4)～Vol. 65 (3)（総ページ数168p）を発行した平成31年度も12冊を発行予定】</p> <p>オ 出版社と連携した学術書の発行を検討する。</p> <p>カ SNSやブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。</p> <p>【Facebook、Twitterで公式アカウントを運用、各学芸員もそれぞれ発信】</p>	<p>自然史研究4館3号「大阪市の甲虫相とその変遷」を発行した。</p> <p>【平成30年度実績】各1冊発行</p> <p>イ 収蔵資料目録51集「鳴橋コレクション バラ科 キイチゴ属植物目録」を発行</p> <p>ミニガイドNo. 32 「町中のコケ基本50種」を編集発行した。</p> <p>【平成30年度実績】収蔵目録1冊、ミニガイド1冊</p> <p>ウ 解説書「知るからはじめる外来生物」を発行した。特別展は開催できていないものの先行して販売を開始</p> <p>【平成30年度実績】「きのこの秘密を知るために」発行</p> <p>エ 友の会発行の月刊誌Nature Study65巻4号から66巻3号の12冊を発行した。</p> <p>【平成30年度実績】12冊</p> <p>オ 山と渓谷社から「きのこの教科書」が発行された他、学芸員が関わった各種学術書が発行された。</p> <p>カ HPでの新着情報64件、Twitter 200件、FaceBook120件を投稿。オフィシャルアカウントはTwitterを9900人がフォロー、FaceBook 2200人がフォローしている。この他、各学芸員がそれぞれ自然関連情報や館の活動を発信している。</p> <p>【平成30年度実績】公式アカウントTwitter発信184件。個々の学芸員による発信多数。</p>	
14	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売などを行う。</p> <p>イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する。</p>	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売などを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当館編集発行の館蔵品図録の販売</li> <li>・「文房四宝」展図録の編集・発行</li> <li>・「竹工芸名品」展図録の編集</li> <li>・四代田辺竹雲斎による《GATE》制作の記録集の制作・発行</li> <li>・「木村盛康展」デジタル図録の制作・頒布</li> </ul> <p>イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行した。李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告(13)「耀州窯青磁と高麗」の刊行</p>	<p>4</p> <p>当館独自の調査研究を踏まえ、詳細な展覧会図録等を製作でき、ご利用者様のみならず、研究者、美術業界など学術的にも寄与することができたため。</p> <p>当館が編集・発行として研究成果を十分に反映するとともに主要館蔵品の美しい写真を紹介した新たな館蔵品図録を製作したため。</p>
14	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学芸員の調査研究成果などの学会発表、研究報告の出版やHPでの公開を行う。</p> <p>イ 月刊誌「うちゅう」を発行する(年12回)。</p> <p>ウ 展示解説の動画配信やSNSツールを利用した情報発信を行う。</p>	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 大阪市立科学館研究報告誌第29号の出版を行った。また、学芸員による研究成果の学会発表を4件行った。</p> <p>イ 月刊「うちゅう」4月～3月号の計12冊を発行した。</p> <p>【平成30年度実績】12冊発行</p> <p>ウ 展示解説の動画配信は104件公開した、またツイッターを利用した情報発信を随時実施した。</p>	<p>3</p>
14	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、ホームページ</p>	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 研究紀要第18号を発行。第17号のホームページ</p>	<p>3</p>

	<p>ージ上で公開する。</p> <p>イ 共同研究報告書、館蔵資料集などを継続的に発行する。</p> <p>ウ 特別展の図録を作成する。</p> <p>エ 特集展示リーフレットを継続的に作成する。</p>		<p>アップを完了した（18号のアップは2年度）。</p> <p>【平成30年度実績】研究紀要 第17号</p> <p>イ 共同研究報告書14、館蔵資料集16「小絵馬 中コレクション・柴垣コレクション」を発行。</p> <p>【平成30年度実績】共同研究報告書13、館蔵資料集15「堀田コレクション」</p> <p>ウ 自主企画展である「刀装具鑑賞入門展」、「猿描き狂仙三兄弟展」の図録を発行。</p> <p>【平成30年度実績】3本の特別展において作成</p> <p>エ 実施した特集展示5本すべてでリーフレットを作成し、入館者に無料配布した（「発掘成果から考える近世都市「おおさか」の食文化」は臨時休館のため未配布）。</p> <p>【平成30年度実績】6本の特集展示において作成</p>	
15 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用	<p>博物館等資料の公開と認知度の向上を図るため、他館への貸し出し等を行う。</p> <p>博物館等資料の館外研究者への特別研究や、図書等の貸出しの対応を行う。</p> <p>他の施設に対して、展覧会企画やプラネタリウム番組の配給を行う。</p> <p>企画展や特別展等の充実のため、他館資料を借り出し、有効活用する。</p>		<p>【機構の評価】</p> <p>美：4、自：3、陶：3、科：3、歴：3</p> <p>各館と計画通りに実施し、美術館では貸出が例年に比べかなり多かった。</p>	3
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、各館への作品の貸出し及び借用を行い展示の充実に努める。</p> <p>【参考：平成29年度】 貸出29件</p>	15	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 貸出94件 借用284件 【平成30年度実績】 貸出42件</p>	4
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、要望に応じて収蔵資料の貸借を行い、当館の館蔵品の魅力や研究成果の発信と当館の展示の充実に努める。</p>	15	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>高槻市自然資料館(きのこ・苔など)、咲くやこの花館(菌類関連資料)、きしわだ自然資料館を始め展示目的の貸し出し12件、その他、研究目的の貸し出し多数を実施している。</p> <p>また、昆虫展時には国立科学博物館、九州大学など外来生物展に向けて京都大学王オビ琵琶湖博物館などから合計15件の貸し出しを受けた。</p> <p>【参考：平成30年度実績】 貸出等19件</p>	3
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。</p> <p>【平成29年度実績】 貸出件数6回、貸出作品数計296点</p> <p>イ 特別展などの開催に際して、必要不可欠な国内外の美術館・博物館等の所蔵品の借用を行う。</p>	15	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努めた。</p> <p>貸出件数3回、貸出作品数計16点（2月末まで） 【平成30年度実績】 貸出件数7回、貸出作品数計301点</p> <p>イ 特別展などの開催に際して、必要不可欠な国内外の美術館・博物館等の所蔵品の借用を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文房四宝展：国内個人コレクター所蔵作品</li> <li>・フィンランド陶芸展：外国個人コレクター所蔵作品</li> </ul>	3

		・竹工芸名品展：外国個人コレクター所蔵作品	
	(大阪市立科学館) ア 展示物、資料の貸し出しを行う。 【参考：平成29年度実績】 展示貸し出し1件 資料貸し出し3件 イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。 【参考：平成29年度実績】2件	15	(大阪市立科学館) ア 展示物貸出実績は1件、資料貸出は3件。 【平成30年度実績】2件 イ プラネタリウム番組は、国内2館に配給した。
	(大阪歴史博物館) ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して各館への資料の貸し出しおよび借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。	15	(大阪歴史博物館) ・他館から展覧会のため借用申請を受けた資料については26件179点を許可した。 【平成30年度実績】貸出21件87点 ・国指定重要文化財長原古墳群の出土資料など、常設展示に活用できる考古資料については、文化庁や大阪市教育委員会などから年間借用を実施し、展示の充実を図った。
16 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携	法人の複数館が連携・協働した企画展・特別展を開催する。 定期的な刊行物を通じて、法人各館の情報を一元的に発信する。 法人の複数館が共同して外部資金等の獲得し、総合的な調査研究を実施する。		【機構の評価】 美：4、自：4、陶：3、科：3、歴：3、経営：3 各館とも計画通りに、大学や海外の博物館等と共同研究等に取り組んだ。市立美術館では外部研究者との共同研究、自然史博物館では市民と協働した調査・研究に積極的に取り組み、展覧会の成果に反映させることできた。
	(大阪市立美術館) ア 展覧会等の関連事業としての講演会等に外部研究者を招へいする。 イ 外部研究者との共同研究を行う。	16	(大阪市立美術館) ア 外部研究者招聘：2名(講演会・トークイベント) イ 外部研究者との共同研究の成果が特別展・コレクション展において着実に活用することができた。 近世日本画の分野で大阪芸術大学、京都市芸術大学の教員と「土佐派」に関する共同研究を行った。 中国書画の分野で京都国立博物館ほか関西地区の学芸員と所蔵作品に関する共同研究を行っており、令和2年度の、当館での特別展「揚州八怪」、大和文華館での特別展「安徽地方の美術」の企画につながった。
	(大阪市立自然史博物館) ア 将来の特別展示などの企画、及び常設展示の更新につながる共同研究を模索する。 イ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などの誘致し、開催する。(再掲)	16	(大阪市立自然史博物館) ア 科学研究費課題として多くの共同研究を実施中。 現在実施中の「博物館をコアとした外来生物の市民調査、その生物多様性理解の促進効果の評価」は今年度の「外来生物」展に活用している。 イ 再掲(No. 13に記載)
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国立国際美術館など中之島エリアの関連機関との広報協力や相互割引などを継続して実施する。	16	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国立国際美術館など中之島エリアの関連機関との広報協力や相互割引などを継続して実施した。 ・国立国際美術館との相互割引、国立国際美術館、中之島香雪美術館とのチラシの相互設置などの広



の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進 博物館等資料や図書等のデータベース化を図る。 博物館等資料のアーカイブ化とその公開と活用方法を検討する。			各館とも計画通りに館蔵資料のデジタル化、アーカイブ化を進めた。	3
	(大阪市立美術館) ア 繼続的に館蔵品及び寄託品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める(再掲)。	17	(大阪市立美術館) ア 再掲(No. 3に記載)	3
	(大阪市立自然史博物館) ア 標本資料、自然史科学関連の画像・映像資料、絵画資料について科学研究費などを活用したデジタル化を進め、アーカイブの形成を図る。 イ 標本情報について、Science-Museum Net, GBIFなどを通じた継続的な公開をすすめる。 【参考：平成30年は1,800件のデータレコードを追加】 ウ 図書情報について、市立中央図書館などとの共有による活用促進に向けた準備をすすめる。 エ 研究報告などの研究成果をリポジトリによりインターネット公開をすすめる。 【参考：平成30年度は47件の論文・レポートを新規公開】	17	(大阪市立自然史博物館) ア 科学研究費「動画を博物館の「標本」として収集・収蔵・利用公開するための課題解決と環境整備」の成果として、映像(動画資料)を中心に進展。著作権などの契約も進めている。静止画のコンテンツ登録もシステムの改良を次年度に向けて検討中。 イ Science-Museum Net, GBIFにも計5,000点の情報提供を行った。 ウ 図書館情報展などに所蔵図書状況などを公開。 エ 4月1日以降72件の論文・レポートを登録、公開した	4 動画の収蔵は、先進事例として「デジタルアーカイブ学会誌」にも掲載されている。今年度は各項目に具体的な進展があったことを評価した。
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。 イ 館蔵品のデジタル画像データのオープンデータ化を進める。	17	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進めた。45点(中国陶磁20点、木村盛康作品22点、現代陶芸3点) 【平成30年度実績】462点(寄贈16件) イ 館蔵品のデジタル画像データのオープンデータ化に向け、利用規程の見直しを進めた。	3
	(大阪歴史博物館) ア 新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。	17	(大阪歴史博物館) 新規撮影は計画どおりに完了(No. 3に記載)。データ整備を進めた。 また、3次元データから作成した考古資料の3Dモデルを、外部の閲覧サイト(Sketchfab)へ追加・公開した(現在9点を公開中)	3
18 他の博物館等関係機関との支援及び協働を通じた資源の保全及び効果的な活用 災害時において関係館との連携を図り、博物館等資料の保全に努める。 他館の博物館等資料に関する情報の共有と相互利用を推進する。	(大阪市立科学館) 【記載なし】	17	【機構の評価】 美：3、自：3、陶：4、科：3、歴：3、中之島：3、経：3 各館とも計画通りに、国内や海外の博物館等と協力・連携を図り、情報の共有を推進した。	3
	(大阪市立美術館) ア 京都国立博物館との協力による重要文化財「小西家伝来尾形光琳関係資料」の効果的な活用と保全	18	(大阪市立美術館) ア コレクション展「絵巻を写す」「風俗画と美人画」において、各2点、計4点を展示した。	3
	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市立中央図書館、及び各区の図書館、大阪府立中央図書館での巡回展示などを実施する。	18	(大阪市立自然史博物館) ア 『大阪府立図書館(4月24日から5月24日)「外来生物展」』、『大阪市立中央図書館(6月7日から7	3

	<p>【平成29年は大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館及び11館の各区図書館で実施】</p> <p>イ 資料の保存状況や目的や手法を鑑みながら、研究目的での資料の相互貸借を行い、資料の研究をすすめ、学術的な価値の向上に務める。</p> <p>ウ 大阪市理科系博物館連携クラスターにもとづいた大阪大学との研究交流をすすめる。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 相互協力提携のある台北・國立故宮博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や学術交流などを実施する。</p>		<p>月3日)出張!自然史博物館「みんなで調べる外来生物」展を実施、このほか各区の図書館11館で展示を実施した。</p> <p>イ 再掲(No. 15に記載)</p> <p>ウ 中之島「アートエリアB1」にて「これからの自然科学・博物館と市民」を開催、川端館長が登壇</p>		
18	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 相互協力提携のある台北・國立故宮博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や学術交流などを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・國立故宮博物院との共同研究の実施及び国際シンポジウム「黒釉工作坊」への参加と研究発表、学術交流(11月7日、8日)</li> <li>・韓国国立文化財研究所「高麗図絵、隠れた図を探す」への参加と研究発表、学術交流(9月6日、7日)</li> <li>・韓国高麗青磁博物館、同扶安青磁博物館と発掘調査についての学術交流(9月25日、27日)</li> </ul>	4	学術的に意義の高く、研究成果を反映した国際シンポジウム開催を通じた多方面との共同研究や学術交流を目標以上に行うことができたことを評価した。		
18	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア ドイツ博物館との特別連携展示を実施する。(再掲)</p> <p>イ 第10回展示研究大会を開催し、同大会開催の継続的支援を行う。</p>	3	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 当初予定していた企画展「スーパートイ・積み木～その科学と歴史(仮)」は、連携先のドイツ博物館の事情により連携が困難となったため、準備段階において開催を断念した。そのため当館の自主企画として企画展示「積み木のルーツ」を2/1～3/1に開催した(ただし2/29以降は臨時休館)。そのほか、ドイツ博物館に対してサイエンスショードの研究生の受入を提案した。</p> <p>イ 11月に第10回展示研究大会を開催した。また、同大会の世話人として当館学芸員が支援を行った。</p>		
18	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 大阪文化財研究所が調査した埋蔵文化財資料の展示や速報性を重視した年2～3回のパネル展を実施する。</p> <p>イ 東京都江戸東京博物館との名所絵に関する共同研究を実施する。</p> <p>ウ 韓国・大邱博物館との学術交流協定にもとづいた研究交流を実施する。</p>	3	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 大阪市文化財協会(旧大阪文化研究所)の調査成果を紹介するパネル展を2回実施(2月26日公開回は29日から臨時休館)。</p> <p>イ 東京都江戸東京博物館と連携し、名所絵に関する共同研究を実施し、報告書は江戸東京博物館から刊行された。</p> <p>ウ 国立大邱博物館は館長の異動があったため、双方の館長で書簡を交わし、交流協定継続の意思確認をおこなった。</p> <p>この他に国際的な博物館交流として、ICOM京都大会のICMAH(考古学・歴史の博物館・コレクション国際委員会)オフサイトミーティング、香港中文大学文物館が主催する博物館専門家交流プログラム、JICA課題別研修(博物館コース)を受け入れ、学芸員の専門的な交流を行った。</p>		
18	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>他の美術館や大学、企業等との連携を推進する。</p>	3	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>開館プレイベントや開館後の展開を見据えた事業取り組み(トークイベント、ワークショップ、研究</p>		

		<p>、出版等)において、下記の組織・団体等と連携。(一部イベントは新型コロナウイルス感染防止のため中止。令和2年度の開催をめざす)</p> <p>【開館イベント、中之島地域連携】</p> <p>アートエリアB1、クリエイティブアイランド中之島実行委員会、中之島まちみらい協議会、中之島三井ビルディング、生きた建築ミュージアム大阪実行委員会</p> <p>【アーカイブ事業・研究連携】</p> <p>大阪工業大学、大阪市立大学、同志社大学、インダストリアルデザイン・アーカイブズ協議会、パナソニック株式会社、シャープ株式会社、DNP文化振興財団</p> <p>【展覧会連携】</p> <p>国立国際美術館、大分県立美術館等</p>	
	(事務局)	<p>ア 大阪市立大学と包括連携協定を結び、共同の調査・研究、キャンパスメンバーズ制度や博物館学・実習の援助等の学生支援、講座開催等の社会貢献を行う。</p> <p>イ 大阪市文化財協会と包括連携協定を結び、共同の調査・研究、展示、普及事業等を実施する。</p>	18
19 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施		<p>ア独法化に伴い、新たに協定を締結した。難波宮や大坂城に関する共同調査研究の実施、キャンパスメンバーズ制度への継続加入、博物館学講座(3授業)への出講などを行った。また、シンポジウム「河内鉄物師の実像に迫る」、ミュージアム連続講座「世界遺産と文化財」などを共同で開催した。</p> <p>イ独法化に伴い、新たに協定を締結し、<del>大</del>市立大学も加えた3者で、上記シンポジウムや連続講座等を共同開催した。また、歴史博物館で特集展示「新発見！ なにわの考古学2019」を共催し、講演会を実施した。</p>	3
各館の活用と魅力の発信に向けたユニークベニューなどを計画・実施する。		<p>【機構の評価】</p> <p>自：3、歴：3、経：3</p> <p>ユニークベニューの規程整備について大阪市と交渉中のため、未実施にとどまっていたが、大阪MICEディスティネーションショーケースに出展し、各館のPRを行った。</p>	3
	(大阪市立自然史博物館)	<p>ア 学術関連催事を中心に、ポーチ(クジラ展示下)及びナウマンホールなどを活用したユニークベニュー事業に取り組む。</p>	19
	(大阪歴史博物館)	<p>ア 規定の整備が遅れたため、ユニークベニュー事業は行うことができなかつたが、貸し館として「『友好の輪 和と美の世界』—トキ文化展」を実施。</p>	19
		<p>ア 開館日は毎日地下の難波宮の遺構および5世紀の倉庫のガイドツアーを実施している。また5月と11月にNHK地下に保存されている難波宮の石組み溝の公開を実施した。AR(拡張現実)を使ったガイドも新たに実施している。(今年度実績は2月21日&lt;新型コロナウイル対策によるイベント中止&gt;までの参加者数)</p> <p>難波宮遺跡探訪参加者 4,582人</p> <p>【平成30年度実績】 5,691人</p> <p>復元倉庫公開参加者 10,999人</p> <p>【平成30年度実績】 7,524人</p>	3

		難波宮遺跡探訪については、国際情勢により韓国からの来館者が減少し、年明けからは新型コロナウイルス感染症の影響で中国をはじめとする諸外国からの来館者が減少し、2月末からの臨時休館とともに数字を押し下げた。		
【記載なし】 (大阪市立美術館) (大阪市立東洋陶磁美術館) (大阪市立科学館)	19			
(事務局) ア 大阪MICEデスティネーション・ショーケースへの出展等、各館のユニークベニューの取り組みを支援する。	19	(事務局経営企画課) ア 大阪MICEデスティネーション・ショーケースに出展し、各館のユニークベニューのPR及び来場者との面談を行った。また、ユニークベニューの取り組みの規程化等に向けた調整を実施した。	3	1

中期目標	<p>1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」</p> <p>(3) 戰略的広報の展開</p> <p>時機及びニーズを捉えた戦略的な広報活動を展開することを通じて、大阪における文化資源の蓄積及び各館の活動の成果の素晴らしさを国内外に向けて効果的に発信する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信</li> <li>・マスメディア等への積極的な情報発信</li> <li>・各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定</li> <li>・生涯学習に関する施設その他の博物館等に関連する施設及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開</li> <li>・各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開</li> </ul>			

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
<b>(3) 戰略的広報の展開</b>					
大阪における文化資源の蓄積及び成果の素晴らしさを国内外に向けて効果的に発信するため、次の通り、時宜やニーズを捉えた戦略的な広報の展開を目指す。					
<b>【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】</b> <b>20 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信</b> 紙・マスメディア・SNSなど各種媒体の特徴を生かした情報発信を行う。 最適な時期や場所を逃さない情報発信を行う。 外国人観光客の動向に応じた情報発信を行う。			<b>【機構の評価】</b> 美：3、自：3、陶：4、科：3、歴：3、経：4 各館とも計画通りに進めた。東洋陶磁美術館ではコロナによる休館時に、ニコニコ美術館として展覧会内容の配信を行った。事務局では広報誌、SNSなどにより積極的に情報発信し、ICOM京都大会ではオフサイトミーティングを含め、機構・各館のPR、国際交流を進めることができた。	3	
(大阪市立美術館) ア ホームページ等での情報発信を行う。 イ 広報誌『美をつくし』を発行する(再掲)。	20	(大阪市立美術館) ア 10月から試験的にツイッターでの情報発信を開始した。 年度総計 2,821,994PV 月平均 23万PV イ 再掲(No.14に記載)	3	今年から試験的に開始	
(大阪市立自然史博物館) ア ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどでの情報発信を継続して行う。 【参考：平成29年度実績「新着情報」は61件を発信(台風による臨時休館などを除く)】 イ 車内放送、ポストカード、学校向け案内など多様な手段を用いて広報を実施する。 【参考 平成29年度は学校向け案内情報誌TM通信を4号発信】 ウ 特別展などにおいて、テーマに相応しいイラストレーターやデザイナーの起用した魅力的なチラシ・ポスターの作成に務める。同時に、webやグッズなどへの展開による効果的な特別展イメージ遡及に務める。	20	(大阪市立自然史博物館) ア 新着情報64件、ツイッター200件、フェイスブック120件を投稿した。 オフィシャルアカウントはTwitterで9900人、FaceBookで2200人がフォローしている(令和元年度末時点)。 【平成30年度実績】新着情報48件、ツイッター184件、60件を投稿 イ 車内放送や学校向け案内を実施している。ポストカードは昆虫展のみ実施 ウ 外来生物展の広報は写真を基調としたものになり、今回はイラストレーターは採用しなかったが、製作者と学芸員の検討によりクイズ形式の訴求力のあるポスターとすることことができた。	3		
(大阪市立東洋陶磁美術館)	20	(大阪市立東洋陶磁美術館)	4	臨時休館中にはニコニコ動画の配信	

	<p>ア ホームページ(4ヶ国語対応)、館案内パンフレット、年間展示予定、ポスター・チラシ、国内外の関連雑誌、インスタ、ユーチューブなどにより情報発信を継続して行う。</p> <p>イ グーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行う。</p>		<p>ア ホームページ(4ヶ国語対応)、館案内パンフレット、年間展示予定、ポスター・チラシ、国内外の関連雑誌、インスタ、ユーチューブなどにより情報発信を継続して行つた。また、臨時休館注にはニコニコ動画の協力によりニコニコ美術館として展覧会内容の配信を行つた。</p> <p>【平成30年度実績】Instagram投稿回数50件。</p> <p>イ グーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行つた。</p>		を進めるなど、積極的な情報発信を進めたことを評価した。
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 月刊誌「うちゅう」を発行する(年12回)。(再掲) イ 3ヶ月ごとに「科学館だより」を発行する(年4回)。</p> <p>ウ ホームページ、ツイッター、YouTube等を利用した情報発信を行う。</p> <p>エ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する(年1~2冊)。</p>	20	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 月刊「うちゅう」4月~3月号の計12冊を発行した。</p> <p>【平成30年度実績】ツイート数606件、Youtube動画公開数89件。</p> <p>イ 「科学館だより」を4回発行した。</p> <p>ウ ホームページ、ツイッター、YouTube等を利用した情報発信を実施した。</p> <p>エ ミニブックを2冊発行した。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア ホームページ、ツイッターでの情報発信を継続して行う。</p> <p>【参考: 平成29年度実績】ツイート数 1,127件 イ 紙媒体として「歴博カレンダー」を継続的に発行する(年4回)。</p>	20	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア ホームページ、ツイッターでの情報発信を継続的に行っている。ツイッターでは展示やイベントへの関心を高めてもらうため、10階の官人たちの会話や学芸員の仕事、展示の作品ミニ解説等の企画を盛り込み、工夫をした。臨時休館中は特別展の展示作品紹介をエアミュージアムとして発信した。</p> <p>前年度実績667件 今年度596件</p> <p>イ 歴博カレンダーは、前年度と同じく4回発行した。</p>	3	
	<p>(事務局)</p> <p>ア インターネットのポータルサイト「Osaka Museums」を多言語で開設・運営し、展覧会情報等を掲載する。(再掲)</p> <p>イ ツイッターやフェイスブックといったSNSによる展覧会情報等の広報を日常的に行う。(再掲)</p> <p>ウ 各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「Osaka Museums」を3回発行する。(再掲)</p> <p>エ 広報誌「Osaka Museums」の増刊号を前年度に引き続き関係者等へ配布する。</p> <p>オ ICOM(国際博物館会議)京都大会にオフサイトミーティング開催協力などの形で参加し、機構や各館について国際的な周知を図る。</p>	20	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア インターネットのポータルサイトの多言語での開設・運営…72,912</p> <p>イ SNSによる展覧会情報等の広報…ツイッター44回、フェイスブック34回</p> <p>ウ 広報誌の発行…目標:3回、実績:3回</p> <p>エ 広報誌の増刊号の配布…5,145冊</p> <p>オ ICOM京都大会へ3日間にわたってブース出展し、機構と各館のPRを行つた。また、オフサイトミーティングを各館で開催し、海外の博物館関係者等と交流した(美術館・自然史博物館・歴史博物館)。</p>	4	ICOM京都大会へ3日間にわたってブース出展し、機構と各館のPRを行つたことを計画以上と評価した。
21 マスメディア等への積極的な情報発信 プレスリリースや内覧会など、マスメディア向けの情報発信を行う。			<p>【機関の評価】</p> <p>科: 3 計画通りに実施した。</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 適宜マスコミに対してメールマガジン、プレス</p>	21	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア、30周年とツイッターに関するメールマガジンを</p>	3	

	<p>リリースを実施する。</p> <p>イ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。</p> <p>【記載なし】 (大阪市立美術館) (大阪市立自然史博物館) (大阪市立東洋陶磁美術館) (大阪歴史博物館)</p> <p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 22 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定 国内外からの来館者や各種活動への参加者のニーズを把握するため、必要な調査(マーケティング)やデータ分析を行う(再掲)。 各種活動への参加者に対するアンケート等を実施し、ニーズの把握に努める。 広報専門職員や外国人スタッフの確保など、外国人観光客や海外に情報発信するための体制整備や戦略立案に努める。</p>	<p>計2件発行した。</p> <p>イ ホームページ内に学芸員のページを設置した。また、スタッフだより、ツイッターなど、学芸員が紹介するページの設置、公開を行った。</p>	
		<p>【機構の評価】 美：3、自：3、陶：4、科：3、歴：4、経：3 各館では計画通りに実施した。事務局では各館の入館動向等は把握・分析し、おもに訪日観光客の誘致の強化に取り組んだ。</p>	3
	<p>(大阪市立美術館) ア これまで大阪市博物館協会が実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の見直しを進める。</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア これまで大阪市博物館協会が実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の見直しを進める。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア これまで大阪市博物館協会が実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の充実に努める。</p> <p>(大阪市立科学館) ア チケット発券システム等により、来館者属性や来館動向を調査分析し、データに基いた効果的なマーケティング、プロモーション、広報活動を実施する。 【参考：平成29年度実績】 記事・広告掲載件数 517件</p> <p>(大阪歴史博物館) ア これまで大阪市博物館協会が実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の見直しを進める。</p>	<p>22 (大阪市立美術館) ア コレクション展の展示解説に英文を加えた。また、ICOM開催に合わせ仏語パンフ作成した。</p> <p>22 (大阪市立自然史博物館) 展示室内、券売のパネルサインを一部見直した。また、ICOM開催に合わせ仏語パンフ作成した。</p> <p>22 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア これまで大阪市博物館協会が実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の充実に努めた。 ・ホームページ4ヶ国語による発信 ・館蔵品図録の英語併記 ・解説キャプションの英語表記 ・フランス語パンフレットの作成</p> <p>22 (大阪市立科学館) ア チケット販売状況から分析した来館者属性や今年度から導入したインターネットを利用したチケット販売の記録より、来館者の客層分析、動向調査を実施している。 記事・広告掲載 336件 【平成30年度実績】 407件</p> <p>22 (大阪歴史博物館) ・デジタルサイネージ導入により、英文での基本情報により視認しやすくした。中国からの来館者増に対しては、動向調査結果から日本語の漢字によりある程度の対応が可能であることが判明したため、微増している欧米系来館者への対応の充実を図った。 ・マーケティング、プロモーションを中心とする最新動向に関する館内研修を、3月に外部(専門)会社</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>4</p>



	【記載なし】(大阪市立科学館)	23			
24 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開 地域の広報誌や新聞誌上への寄稿等を通じて、専門情報の平易な発信に努める。 テレビ等メディアへの出演機会を捉え、効果的発信を行う。		【機構の評価】 自：3、陶：4、歴：4 各館とも順調に実施した。東洋陶磁では海外で発信力を持つ美術雑誌に協力し、歴博ではNHK「プラタモリ」などのテレビ番組に協力・出演するなど、学芸員の専門知識を活かして多方面で広報を行った。	4		
	(大阪市立自然史博物館) ア 近隣の自然関連団体への学術的指導や学芸員による講演などを通じた広報活動を行う。 イ 外部の普及誌・学術誌の執筆を行う。	24	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪自然環境保全協会、こどものためのジオカーニバル、近畿植物同好会、関西菌類談話会、日本野鳥の会、日本自然保護協会をはじめ、多くの自然関連団体への指導や講演を行っている。 イ 査読付き論文、査読なし論文および雑誌記事、書籍など多数執筆（著書・論文250編、研究発表22篇）。 【平成30年度実績】著書・論文等237件、研究発表33件	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果や展覧会情報等を発信する。	24	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果や展覧会情報等を発信した。5件 ・Arts of Asia(香港)・『典蔵』(台湾) ・『陶説』(日本)・『聚美』(日本) ・『月刊美術』(韓国)	4	国内外の著名な雑誌に働きかけ、国内だけでなく、海外へ研究成果や情報発信を積極的に行うことを実現して、当館のステータスを上げることに寄与できたことを評価した。
	(大阪歴史博物館) ア タウン誌「うえまち」などへの記事の執筆を行い、研究成果を紹介する。	24	(大阪歴史博物館) ・タウン誌「うえまち」や産経新聞での連載の他、新聞、テレビなどを通じて当館の活動成果を紹介した。 ・駐大阪大韓民国総領事館韓国文化院HPに当館学芸員が「朝鮮通信使と大阪」を連載中である。 ・NHK「プラタモリ」やテレビ朝日「ぶっちゃけ寺」に学芸員が出演し大阪の歴史を発信するとともに、館の存在を知ってもらう機会としている。 ・NHK「ぐるっと関西おひるまえ」、NHK関西ラジオワイドに「浮世絵ねこの世界展」担当学芸員が出演し、特別展の魅力を伝えた。	4	活字メディアのほかに、「プラタモリ」「ぶっちゃけ寺」といった有名番組や、関西ローカル番組などに多数出演し、館の知名度を高めたなどを評価した。
	【記載なし】(大阪市立美術館) (大阪市立科学館)	24			

大項目 II-①	<p>I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」</p> <p>(1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備</p> <p>(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携</p> <p>(3) 民間企業等との協働等</p>
-------------	---

中期目標	<p>2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」</p> <p>法人は、各館が都市に立地するという特徴を活かし、国内外から幅広い利用者を獲得するとともに、各館の周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携を図ることにより、大阪の活性化及び発展に貢献する。</p> <p>(1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致</li> <li>・多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実</li> <li>・芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励</li> <li>・さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得</li> </ul>
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価	評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	
(1)	各館の立地の優位性を活かし、幅広い利用者を獲得するため、次の通り、展覧会又は展示物に係るソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備を図る。			
【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 <u>25 マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致</u>			<p><b>【機構の評価】</b> 美：5、自：4、陶：4、科：4、歴：4 各館で新聞社・テレビ局と連携した大型展を誘致し、多数の来館者を得た。特に美術館「フェルメール展」は50万人超え、自然史博物館「昆虫展」も15万人に達した。</p>	4
(大阪市立美術館) 国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局などと協働した特別展を開催する(年3~4回程度)。なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。	(大阪市立美術館) ア 国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局等と協働した特別展を開催する。本年度は以下の6本の特別展を実施する(再掲)。 ・「フェルメール展」(巡回企画) 2月16日～5月12日、開催日数76日 【平成31年度予算目標】500,000人 ・「改組新5回 日展」(巡回企画) 6月1日～6月30日、開催日数26日 【平成31年度予算目標】40,300人 ・「第65回全関西美術展」(自主企画) 7月16日～7月28日、開催日数12日 【平成31年度予算目標】7,200人 ・「メアリー・エインズワース・浮世絵コレクション展」(自主・巡回企画) 8月10日～9月29日、開催日数44日	25	(大阪市立美術館) ア 再掲(No.12に記載)	5

	<p>【平成31年度予算目標】38,993人        ・「仏像 中国・日本」(自主企画)        10月12日～12月8日、開催日数50日        【平成31年度予算目標】36,000人        ・「改組新第6回 日展」(巡回企画)        2月22日～3月22日、開催日数26日        【平成31年度予算目標】40,300人</p>			
(大阪市立自然史博物館)  博物館の収蔵品や学芸員の調査研究の成果の市民への還元や新たな価値の創出を目指し、主催特別展を開催する(毎年1回)。 国内外の自然史系博物館やマスメディアなどと連携して、特別展を開催する(年2～3回程度)。	(大阪市立自然史博物館)  ア 読売新聞社などとの共済による「昆虫展」(予定)を実施する。	25	(大阪市立自然史博物館) 再掲 (N0. 12に記載)	4
(大阪市立東洋陶磁美術館)  国内外の美術館・博物館などと連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催する(年3～4回程度)。  なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。	(大阪市立東洋陶磁美術館)  ・ NHK ブラネット近畿・毎日新聞社との共催による「文房四宝-清閑なる時を求めて」(4月6日～6月30日)を実施する。 ・ 朝日新聞大阪本社との共催による「フィンランド陶芸 芸術家たちのユートピアーコレクション・カッコネン」・同時開催 「マリメッコ・スピリツツ フィンランド・ミーツ・ジャパン」 (7月13日～10月14日)を実施する。 ・ NHKプロモーションとの共催による「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクションメトロポリタン美術館所蔵」(12月21日～2020年4月12日)を実施する。	25	(大阪市立東洋陶磁美術館)  ・ NHK ブラネット近畿・毎日新聞社との共催による「文房四宝-清閑なる時を求めて」(4月6日～6月30日)を実施した。 ・ 朝日新聞大阪本社との共催による「フィンランド陶芸 芸術家たちのユートピアーコレクション・カッコネン」・同時開催 「マリメッコ・スピリツツ フィンランド・ミーツ・ジャパン」 (7月13日～10月14日)を実施した。 ・ NHKプロモーションとの共催による「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクションメトロポリタン美術館所蔵」(12月21日～2020年4月12日)を実施した。	4
(大阪市立科学館)  ア 読売新聞社が主催で参画する「青少年のための科学の祭典」を実施する。	(大阪市立科学館)  ア 読売新聞社が主催で参画する「青少年のための科学の祭典」を実施する。	25	(大阪市立科学館)  8月17～18日に青少年のための科学の祭典を実施した。二日間の合計入場者数は22,000人。 【平成30年度実績】20,000人	4
(大阪歴史博物館)  国内外の博物館やコレクター、大学や企業などと連携し、自主企画や巡回展により、特別展・特別企画展を開催する(年3～4回程度)。	(大阪歴史博物館)  ア NHK ブラネット近畿との共催で、特別展「浮世絵ねこの世界」(7月27日～9月8日)を実施する。 イ 特別展「猿描き狙仙三兄弟 一鶴の若冲、カエルの奉時もー」についてマスメディアとの共催を目指す。	25	(大阪歴史博物館)  ア 特別展「浮世絵ねこの世界展」を実施した。NHK ブラネットとの共催を活かし、NHKの番組内で本展の広報を行ったり、NHK放送中の番組のキャラクターを展示で使用したりできた。このため、新規顧客を開拓し、収支率118.1%の黒字を実現する効果をあげることができた。 イ 「猿描き狙仙三兄弟」はNHK ブラネットとの共催が実現した(ただし、コロナウイルス感染症にかかる臨時休館で開催は3日間のみ)。熊本県立美術館への巡回も決定したことは、当館のプレゼンスを他地域でも示し、収益面でも貢献できた点は大きい。	4
(大阪中之島美術館)  開館後、近代から現代にいたる美術や造形文化を中心に、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品や動向に注目した企画展を開催する。	(大阪中之島美術館) 【記載なし】	25		
26 さまざまな利用者の受け入れ体制の充実(中期目標)			【機構の評価】	

【記載なし】 27 多言語表記等による外国人の受け入れ体制の充実 デジタル機器(情報端末)などを活用した多言語対応を進める。 パンフレット、展示解説文等の多言語化や、サインの充実を図る。	【記載なし】(大阪市立科学館)	26	【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：4、歴：4 科学館では、スマートフォンによる展示解説システム、歴史博物館ではデジタルサイネージ設置により、館情報の多言語化を進めた。	3
【記載なし】 26 はないが、計画で追加】 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する(再掲)。 わかりやすいサインの掲出や安全な導線確保に努める。		26	美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3 施設の大規模改修等によりバリアフリー化を計画するとともに、自然史博物館ではパイロット事業として講演時の発話テキスト化(字幕化)を導入して障がい者支援に取り組んだ。各館で多言語化を進め、科学館ではパイロット事業としてスマートフォンによる展示解説システムを導入し、外国人来館者にも使いやすい博物館を推進した。	3
(大阪市立美術館) ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、2022年度からの着工を目指す(再掲)。 イ 来館者状況を注視しつつ施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める(再掲)。	(大阪市立美術館) ア 再掲(No. 8に記載) イ 再掲(No. 10に記載)	26	(大阪市立美術館) ア 再掲(No. 8に記載) イ 同上	3
(大阪市立自然史博物館) ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する。(再掲) イ 受付カウンターなどでのタブレット端末を利用した翻訳や説明の支援を検討しすめる。(再掲) ウ 授乳場所や祈禱場所など、来館者ニーズに応じたサービス提供を進める。	(大阪市立自然史博物館) ア 再掲(No. 1-10に記載) イ 同上 ウ 確保した。	26	(大阪市立自然史博物館) ア 再掲(No. 1-10に記載) イ 同上 ウ 確保した。	4
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 障がい者の観覧を補助するための支援策定に向けて情報を収集する。(再掲) イ トイレの改修、授乳室設置など来館者ニーズを踏まえた環境整備の検討を進める(再掲)。 ウ 増加する海外からの来館者を踏まえ、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の検討を進める(再掲)。 エ 館内Free Wi-fiの提供を継続して行う。 オ 年間バス販売などによるリピーターの確保に努める。	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア エントランス増築棟建築計画に合せて情報収集をした。(再掲) イ エントランス増築棟建築計画に合せて情報収集をした。(再掲) ウ 未対応箇所の洗い出しを行い、改修計画の検討を進めた。(再掲) エ 館内Free Wi-fiの提供を継続して行った。 オ リピーター確保などを目的とする年間バスを作成した。	26	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア エントランス増築棟建築計画に合せて情報収集をした。(再掲) イ エントランス増築棟建築計画に合せて情報収集をした。(再掲) ウ 未対応箇所の洗い出しを行い、改修計画の検討を進めた。(再掲) エ 館内Free Wi-fiの提供を継続して行った。 オ リピーター確保などを目的とする年間バスを作成した。	3
(大阪歴史博物館) ア 障がい者の観覧を補助するための支援策定に向けて情報を収集する(再掲)。 イ 増加する海外からの来館者対応のため、トイレ洋式化などの計画策定を進める(再掲)。 ウ 来館者状況を注視しつつ施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める(再掲)	(大阪歴史博物館) ア 全館バリアフリー化、多目的トイレ設置、車椅子貸出し等対応済み。 イ トイレの洋式化は、改修計画作成済み。 ウ 既存の7種の外国語パンフレット配布数の分析を行い、国別の来館者の動向の把握に努めている。また導入したデジタルサイネージでは基本情報を多言語化し、視認性の高い案内を行った。 再掲(No. 10に記載)	26	(大阪歴史博物館) ア 全館バリアフリー化、多目的トイレ設置、車椅子貸出し等対応済み。 イ トイレの洋式化は、改修計画作成済み。 ウ 既存の7種の外国語パンフレット配布数の分析を行い、国別の来館者の動向の把握に努めている。また導入したデジタルサイネージでは基本情報を多言語化し、視認性の高い案内を行った。 再掲(No. 10に記載)	3

	<p>(大阪市立美術館) ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める(再掲)。</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア 常設展示場内における外国語表記についてQRコードを利用した解説など多様な手法を用いる検討を行う。 イ 館内表示や非常放送の多言語対応などについて検証と検討を進める。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 平常展示における主要館蔵品60点の作品解説の多言語対応(日・英・中・韓)音声ガイド機のレンタルを継続して行う。 【平成29年度実績】 レンタル件数計355台 イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努める。</p> <p>(大阪市立科学館) ア ホームページ、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。 イ 展示場解説文の英語表記化、展示解説ビデオの英語テロップ表記を行う。</p>	27	<p>(大阪市立美術館) ア 再掲(No. 10に記載)</p>	<b>3</b>	
		27	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 前年度より実施、今後の拡充を検討 イ 英語による非常放送などは実現しているが、スタッフによる対応などさらなる改善手法について検討中</p>	<b>3</b>	
		27	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 平常展示における主要館蔵品60点の作品解説の多言語対応(日・英・中・韓)音声ガイド機のレンタルを継続して行った。 レンタル件数464台 【平成30年度実績】 レンタル件数計312台 イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努めた。 ・常設展示の作品解説やパネルの英文併記 ・新館蔵品図録における英文併記</p>	<b>3</b>	
		27	<p>(大阪市立科学館) ア ホームページの自動翻訳や三つ折りリーフレットにて英語・中国語・韓国語・仏語の対応を実施している。 イ 文化庁補助金により、スマートフォンアプリを利用した展示場解説文の多言語化(英語、中国語簡体字)を、機構所属5館に先駆け導入し、1月から運用を開始した。</p>	<b>4</b>	リーフレットに仏語版を作成し、「ポケット学芸員」では、他館に先駆け導入した点を評価した。
	<p>(大阪歴史博物館) ア 館内における外国語表記について、来館者動向を見ながら見直しを行う。</p> <p><b>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</b> <b>28 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励</b> 美術団体等へ施設を貸出し、市民による成果発信を支援する。 施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する。 市民参加のフェスティバル等を開催し、活動成果発表の場を提供する。</p>	27	<p>(大阪歴史博物館) 既存の7種の外国語パンフレット配布数の分析を行い、国別の来館者の動向の把握に努めた。また導入したデジタルサイネージでは基本情報を多言語化し、視認性の高い案内を行った。</p> <p><b>【機構の評価】</b> 美：3、自：4、歴：3 各館とも計画通りに実施し、自然史博物館の「大阪自然史フェスティバル」は過去最高の来場者を得た。</p>	<b>4</b>	従来設置していなかったデジタルサイネージを活用した案内を実施し、外国人来館者に対する利便性を高めた点を評価した。
		28	<p><b>【機構の評価】</b> 美：3、自：4、歴：3 各館とも計画通りに実施し、自然史博物館の「大阪自然史フェスティバル」は過去最高の来場者を得た。</p>	<b>3</b>	
	<p>(大阪市立美術館) ア 地下展示会室の美術団体への貸出及び館長賞を授与する。</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバルを開催する。</p>	28	<p>(大阪市立美術館) ア 利用のべ104団体、館長賞84件 (2月末以後は新型コロナウイルス感染症大対策のため閉館) 【平成30年度実績】 利用のべ108団体、館長賞80件</p>	<b>3</b>	
		28	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 11/17-18に実施、来場者数26,000人、出展団体数130団体。</p>	<b>4</b>	自然史フェスティバルは出展者、来場者ともに過去最高の数値となり、イベントとしても充実したものと

	<p>イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。</p> <p>ウ 押し花や書道など、芸術分野とのコラボレーションを継続して模索する。</p> <p>エ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘致する。</p> <p>【関西自然保護機構、日本鱗翅学会、日本堆積学会などを予定】(再掲)</p> <p>オ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保につとめる。</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 館の活動に関係する学術団体等と連携し、発表の場を設ける。</p>	<p>イ 大阪自然史センター、大阪自然環境保全協会、大阪みどりのトラスト財団を始め、多くの団体に指導、支援を実施。</p> <p>ウ 11/30-12/1に日本書道技術師認定協会による書道展を実施</p> <p>エ 再掲(No. 13に記載)</p> <p>【平成30年度実績】2件</p> <p>オ 11/23に大阪府高等学校生徒生物研究発表会を実施、33題の発表</p>	<p>することができた。</p> <p>市民の発表の場としての博物館の活用も、高校生、社会人、研究者、芸術家と多様に対応することができた。</p> <p>以上の点を評価した。</p>
	【記載なし】 (大阪市立東洋陶磁美術館) (大阪市立科学館)		
29 さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得 鉄道事業者や旅行社、宿泊施設等と連携した広報やチケット販売等を実施する。		<p><b>【機構の評価】</b></p> <p>美：3、自：3、陶：4、科：4、歴：3</p> <p>各館とも計画通り、鉄道事業者をはじめ連携による広報に取り組んだ。科学館では機構で初めて導入したインターネットによるチケット予約販売システムにより、利便性が大いに高まった。</p>	3
	(大阪市立美術館) ア 各種施設事業者等と連携して広報を進める。	(大阪市立美術館) ア 広報を進める。	3
	(大阪市立自然史博物館) ア 連携のための情報収集を行う。	(大阪市立自然史博物館) テレビ局番組タイアップ、各種媒体との連携を一部を昆虫展で実施	3
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア JR、京阪電車はじめ関連鉄道事業者等との連携による交通広告等の充実に努める。 イ 周辺ホテル、観光施設等との連携による広報活動を実施する。	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア JR、京阪電車はじめ関連鉄道事業者等との連携による交通広告等の充実に努めた。 ・JR、京阪電車、大阪メトロ等 イ 周辺ホテル、観光施設等との連携による広報活動を実施した。 ・京阪電車ミュージアム・インフォメーション当館枠へのポスターの通年掲出 ・市内主要ホテルへのチラシ送付(コンシェルジュ取扱い)	4
	(大阪市立科学館) ア 旅行社などを通じて当館の来館誘致や、個人でのインターネットによる展示場やプラネタリウム予約・決済システムなどを導入する。	(大阪市立科学館) 学校団体・旅行社等6,462件に団体案内の書類を郵送し、来館者誘致を図っている。また、インターネットを通じて展示場とプラネタリウムのチケット購入ができるように、機構所属5館に先駆けてシステムを導入・運用している。	4
	(大阪歴史博物館) ア 連携のための情報収集を行う。	(大阪歴史博物館) 周辺の商業施設・ホテル等と組織している地域連携会議で日常的・継続的な情報交換を実施した。	3



中期目標	2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」
	(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 各館の周辺エリアの魅力向上のため、近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と積極的に連携する ・各館の周辺の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携による広報及び誘客 ・各館の周辺の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と協働して行ライベントの企画及び実施

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
<b>(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携</b>					
各館の周辺エリアの魅力向上のため、次の通り、近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と積極的に連携する。					
<b>【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】</b> <b>30 各館の周辺の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客</b> 最寄り駅や近隣の商業施設との連携を図る。 近隣の集客施設や関連施設との相互連携による誘客を目指す。 周辺エリアの広報誌や地域情報誌など広報手段を積極的に活用する。			<b>【機構の評価】</b> 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：4、経：3 各館とも計画どおりに実施、近隣の事業者等との協力関係を堅実に維持することができた。	3	
(大阪市立美術館) ア あべのハルカス美術館等との相互割引等を行い、新規来館者の増加に努める(再掲)。 イ 最寄りのOsaka Metro駅構内でのポスター掲示の継続や、Osaka Metroの事業への協力等を通じての広報を推進する。 ウ 天王寺駅周辺の商業施設(あべちか、あべのキューズモール、あべのハルカス、アポロビル等)との共同広報展開を継続する。	30	(大阪市立美術館) ア 再掲(No. 23に記載) イ 特別展でのポスター掲出、車内中吊り広告などを実施 ウ 特別展でのポスター掲出、展覧会半券での優待サービスなどを実施	3		
(大阪市立自然史博物館) ア 長居植物園、大阪セレッソ、駐車場事業者などと連携した情報発信に務める(再掲) イ 最寄りのOsaka Metro車内での放送やポスター掲出、Osaka Metroの事業への協力などを通じての広報を推進する。	30	(大阪市立自然史博物館) ア 昆虫展などで実施(再掲) イ 放送やポスター掲出は実施、Osaka Metroの「キッズ・サマーバス」等に協力し、観覧者を呼び込んでいる。	3		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国立国際美術館をはじめ、中之島エリアの関連施設との広報協力を行う。 イ 最寄りのOsaka Metro淀屋橋駅や京阪なにわ橋駅構内でのポスター、案内掲示を継続して行う。	30	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国立国際美術館をはじめ、中之島エリアの関連施設との広報協力を行った。 ・クリエイティブアイランド中之島実行委員会プロジェクトチームに参加し、中之島エリアの関連施設との連携を図った。 イ 最寄りのOsaka Metro淀屋橋駅や京阪なにわ橋駅構内でのポスター、案内掲示を継続して行った。	3		

	<p>(大阪市立科学館)          ア Osaka Metro、京阪電鉄、JR等の交通機関にポスターを掲示する。          イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。          ウ Osaka Metroの「キッズ・サマー・バス」等に協力し、観覧者の誘致を図る。</p> <p>(大阪歴史博物館)          ア 大阪城天守閣との共通券の発行を継続し、新規来館者の増加に努める(再掲)。          イ 最寄のOsaka Metro駅構内のポスター掲示の継続や、Osaka Metroの事業への協力などを通じての広報を推進する。          ウ 博物館周辺の商業施設(もりのみやキューズモールBASEなど)との共同広報展開を継続する。</p> <p>(事務局)          ア Osaka Metro、阪神高速等の交通機関、ショッピングセンター、銀行等の商業施設に広報誌「Osaka Museums」を設置し、広報を行う。          イ Osaka Metroの「キッズ・サマー・バス」等に協力し、観覧者の誘致を図る。</p>	30	<p>(大阪市立科学館)          ア Osaka Metro、京阪電鉄等の交通機関にポスターをプログラム更新に合わせ掲示した。          イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等にチラシ等を随時設置した。          ウ Osaka Metroの「キッズ・サマー・バス」等に協力し、観覧者を呼び込むことができた。</p> <p>(大阪歴史博物館)          ア 共通券の発行を継続して実施した。          再掲(No. 23に記載)          イ Osaka Metro駅構内のポスター掲示の他、電車内アナウンスで特別展情報を初めて流した。          ウ もりのみやキューズモールBASEにプレス資料や内覧会情報を提供し、情報発信に努めた。</p>	3	
	<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</p> <p>31 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等と協働して行なうイベントの企画及び実施          周辺エリアの博物館・美術館と連携した事業を開催する。          近隣の公共施設や商店街等と連携したイベントへ参加する。</p>		<p>【機構の評価】          美：4、自：3、陶：3、科：3、歴：3          各館と計画通りに実施し、近隣の事業者等との協力関係を堅実に維持することができた。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)          ア 東住吉区、大阪市環境局などの開催する環境イベントに協力する。          イ 長居植物園、大阪セレッソ、駐車場事業者などの連携に務める(再掲)</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館)          ア 水都大阪、中之島まつり、光のルネサンスなど中之島エリアの活性化につながるイベントへの協力を継続して行う。          イ 「こども本の森 中之島」(平成32年3月開館予定)との連携に向けての検討を行う。</p>	31	<p>(大阪市立自然史博物館)          ア 環境局イベントに出演する大阪自然史センターと協力して実施した。          イ 昆虫展などで試行、また広報掲出などで連携した。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館)          ア 中之島まつり、光のルネサンスなど中之島エリアの活性化につながるイベントへの協力を継続して行った。          ・光のルネサンス開催期間中の12月21日(土)、22日(日)の夜間開館。          ・大阪マラソン          イ 「こども本の森 中之島」との連携に向けての検討を行った。</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)          ア 国立国際美術館との相互割引を実施する。          イ 中之島地域のエリアネットワーク(アートエリアB1、中之島ウエストエリアプロモーション等)と連携したイベント協力、実施          ウ モバイルプラネタリウム、サイエンスショーな</p>	31	<p>(大阪市立科学館)          ア 国立国際美術館との連携事業は今年度予定されていないため未実施であったが、本事業は中長期的に連携を行う予定である。          イ 中之島地域のエリアネットワークと連携したイベント協力、実施し科学館をアピール、参加者へ</p>	3	

	どのアウトリーチプログラム等での連携を行う。		の科学普及を図った。1月には開館準備中のこども本の森中之島との連携で講演会を実施した。 ウ 堂島リバーフォーラムで行われたイベントにモバイルプラネタリウムやサイエンスショーのアウトリーチプログラムで連携を行った。		
	(大阪歴史博物館) ア 濟接するNHK大阪放送局のイベントへの参画を継続し、NHK大阪BKワンダーランドにあわせた企画を実施する。 イ 書店や図書館などが実施するまちライブラリーブックフェスタに参画する。	31	(大阪歴史博物館) ア BKワンダーランドにあわせNHK地下の石組み遺構の公開を実施した。 イ 「まちライブラリーブックフェスタ2019 in 関西」に参加し、当館の広報に努めた。	3	
	【記載なし】(大阪市立美術館)	31	(大阪市立美術館) ア 慶沢園で実施の秋の茶会イベントで特別室の特別公開を実施、2日間で200名以上が参加	4	1

中期目標	2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」 (3) 民間企業等との協働等 地域経済及び産業の活性化のため、民間企業等との協働及び相互支援を推進する ・各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実 ・民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 ・博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援			

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
(3) 民間企業等との協働等 地域経済及び産業の活性化のため、民間企業等との協働及び相互支援を推進する。					
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 <u>32 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実</u> ミュージアムショップやレストランについて、民間事業者の協力を得て、機能の維持と魅力向上を図る。 図書やミュージアムグッズを扱う「オンラインショップ」の開設を目指す。			【機構の評価】 自：3、陶：3、科：4、歴：3 科学館では多くのオリジナル商品を開発した。そのほかの館では計画どおり実施することができた。	3	
(大阪市立自然史博物館) ア ミュージアムショップサービスを間断なく提供できるよう努め、常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供など、魅力の向上につとめる。 イ 自動販売機設置などアメニティを間断なく提供できるように努める。	32	(大阪市立自然史博物館) ア ミュージアムショップサービスを間断なく提供した。7月に実施したアンケート調査でも十分なスコアを得た。 イ 実施した。	3		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者による魅力ある喫茶の運営を継続して実施する。 イ 来館者サービスの充実のため、特別展開催時の民間事業者による臨時ショップの設置を推進する。	32	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者による魅力ある喫茶の運営を継続して実施した。 イ 来館者サービスの充実のため、特別展開催時の民間事業者による臨時ショップの設置を推進した。 ・ 特別展「フィンランド陶芸 芸術家たちのユートピアーコレクション・カッコネン」にて北欧雑貨に特化した業者に委託して特設ショップを設置。	3		
(大阪市立科学館) ア 民間企業と連携したオリジナル商品の開発、販売(辻学園と連携した宇宙食販売、ノベルティ業者と連携した当館オリジナルグッズ開発等)	32	(大阪市立科学館) オリジナル商品として、民間のノウハウを導入するなどの新しい取り組みを行い、宇宙食シチューや、数学图形ポスター 缶バッヂ、クリアファイル、オリジナルボールペン等を製作し、科学館でしか入手できないオリジナル製品の比率を高めた。	4	他施設にはないオリジナルグッズを当館のアイディアを生かすため、民間ノウハウを入れながら制作し、グッズの質を高めることを評価した。	

	<p>(大阪歴史博物館) ア ミュージアムショップサービスを間断なく提供できるように努める。 イ レストランの機能維持に努め、実施している相互割引などに加えて魅力向上にも努める。</p> <p>【記載なし】(大阪市立美術館)</p>	32	<p>(大阪歴史博物館) ア 来年度以降のミュージアムショップ運営委託先との契約を完了した。 イ 特別展との相互割引や特別展メニュー「浮世絵ねこの世界展御膳」、デザートサービスを提供してもらい、広報と事業の魅力向上に努めた。</p>	3	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 33 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 民間事業者等と連携したミュージアムグッズの企画と商品化を図る。 民間事業者等と協働し、ICT技術を活用した仮想展示や解説端末などの研究・開発を進める。 大阪にゆかりの深い企業の協力による資料の寄贈やデジタルアーカイブの構築・公開を目指す。			<p>【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：4、歴：4 各館とも順調に民間事業者との協働を進めた。自然史博物館、歴博では、特別展に際し、新しいミュージアムグッズの製品化が進んだ。科学館では、スーパーコンピュータ「京」の寄贈について、自館だけでなく、他館への寄贈の先鞭をつけた。</p>	4	
	<p>(大阪市立美術館) ア 特別展開催にともなうグッズ等の商品開発を行う。</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア ミュージアムショップ運営会社のグッズ開発に協力し、ショップの魅力向上につとめる。 イ 特別展などに合わせた新規グッズの開発に協力し、特別展の認知向上にも務める。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者との協働や画像データのオープンデータ化による館蔵品関連の図書や商品の開発を促進する。</p> <p>(大阪市立科学館) ア 関西電力、住友電工、新日鐵住金等の企業の協力による資料の寄贈や展示の製作を行う。</p> <p>【記載なし】(大阪歴史博物館)</p>	33	<p>(大阪市立美術館) ア 「フェルメール展」「マリー・エインズワース・浮世絵コレクション展」「仏像 中国・日本」、二度の「日展」でグッズを作成。</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア 昆虫展に際し、旧モデルのリニューアルも含めTシャツ、サコッシュなど新規4種を開発、バッヂなどは多数開発した。外来生物展に向けてTシャツなどを開発中である。 イ 外来生物展に向けて現在検討中</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者との協働や画像データのオープンデータ化による館蔵品関連の図書や商品の開発を促進した。 ・新館蔵品図録の刊行 ・館蔵品画像のオープンデータ化に向けた利用規程の改定準備を進めた。</p> <p>(大阪市立科学館) ア 理化学研究所よりスーパーコンピュータ「京」の寄贈を受けたのをはじめ、10件の資料の寄贈を受けた。特に「京」の寄贈は、全国に先駆けて寄贈交渉を行い、実現したものである。寄贈を受けた新収資料は、3月に展示した(ただし臨時休館により公開せず)。</p>	3	
		33	<p>(大阪市立科学館) ア 民間事業者との協働や画像データのオープンデータ化による館蔵品関連の図書や商品の開発を促進した。 ・新館蔵品図録の刊行 ・館蔵品画像のオープンデータ化に向けた利用規程の改定準備を進めた。</p> <p>(大阪歴史博物館) 下記の特別展において、ミュージアムショップ業者と館蔵品を利用したグッズを制作した。 特別展「決定版！刀装具鑑賞入門」：館蔵品を用いたクリアファイルを作成。また単独の独自企画展でありながら、音声ガイド会社の協力でオリジナルの音声ガイドを作成、提供した。</p>	4	スーパーコンピュータ「京」の寄贈について、自館だけでなく、他館への寄贈の先鞭をつけた点を評価した。
		33		4	特別展実行委員会の企画を含めて、ショップ側と協力し、館蔵品を含む多くの展示作品をモチーフに魅力的なグッズのラインナップを実現し、短期間ながらも来館者に好評であったこと、オリジナル音声ガイドを実現したことなどを評価した。

			特別展「猿描き狙仙三兄弟」：館蔵品等を用いて 絵葉書、缶バッジ、マグネット、クリアファイル、 額絵、金属しおり、図録バッグ、一筆箋、付箋、マ スキングテープ、クッキー、柿の種、ドロップ全39 種類を作成した。		
34 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援			【機構の評価】 自：4、陶：3、科：3、歴：3 自然史博物館では、大阪府内の市町村を中心に、 環境行政の協力を積極的に進めることができた。そ のほかの館は計画通りに実施し、出版活動や商品開 発を支援することができた。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 学芸員の知見を求める自治体などの自然環境行 政や企業などの環境保全活動の要請にこたえる。 イ 館蔵資料やその情報を活用した自然環境保全な ど、自然環境行政、環境活動に協力する。 ウ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派 遣など、友の会への連携を継続する。 エ 学芸員の学術的知見を必要とする民間団体、市 民団体の活動に協力する。	34	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市、大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京 都府などの環境行政に委員などとして協力を行 っている（行政委員25件）。 イ 堺市RDBの改訂に協力中、十津川村の村史にデー タ提供中など、事例多数 ウ 月例ハイク、合宿などを含め連携を継続 エ 業務内、兼業を含め講師派遣を多数行っている	4	各自治体への具体的情報提供、委 員就任は年々増加している。独法化 により博物館の社会的貢献は明示化 されるようになり、大きな実績とな っていることを評価した。
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の画像データ提供、問い合わせ対応な どを通じて、企業、自治体活動の要請に応える。	34	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の画像データ提供、問い合わせ対応な どを通じて、企業、自治体活動の要請に応えた。 写真貸出：44件 【平成30年度実績】38件	3	
	(大阪市立科学館) ア 現在提供している画像資料を引き続き有償提供 する。（再掲） ・古代人の宇宙観（6点） ・学天則（3点） ・江戸時代の天文書（6点） ・西洋の古書（3点）	34	(大阪市立科学館) 3件の有償による画像提供を実施した。 【平成30年度実績】11件	3	
	(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料の写真利用、問い合わせ対応などを通 じて、企業、自治体、市民団体の要請に応える。	34	(大阪歴史博物館) 写真利用の申請に対し、合計242件（有料151件 、免除91件）に対応した。問い合わせ対応は隨 時実施した。 【平成30年度実績】243件（有料129、免除114）	3	
	【記載なし】(大阪市立美術館)	34			1

大項目 (3)	I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 (1) こども及び教員等への支援 (2) 幅広い利用者への支援 (3) 参画機会の提供
------------	---

中期目標	3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 法人は、各館を人々が探究心を抱き、感受性及び創造性を育むことができ、多様な学習ニーズに応えるものとすることにより、市民力の向上に貢献する。 (1) こども及び教員等への支援 ・こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施 ・教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
(1) こども及び教員等への支援					
こどものリテラシーの向上及び教員等のスキルの向上のため、各館の活動における支援メニューの充実に取り組む。					
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 35 こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施 こども・親子向け展示プログラムや体験型イベントを実施する。 学校利用向けのワークシートの作成や教材の開発 ・貸出しを行う。 団体鑑賞学習の受入れや来館時のオーダーメード講演へ対応する。 職場体験の受け入れを実施する。			【機構の評価】 美: 3、自: 3、科: 3、歴: 3 各館とも計画通りに、こども向けのワークショップ、体験教室などを実施した。	3	
(大阪市立美術館) ア 小中学生の美術鑑賞授業におけるレクチャー等の実施。	35	(大阪市立美術館) 実施: 1回 【平成30年度実績】4回	3		
(大阪市立自然史博物館) ア 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活性化する。 イ 常設展での小学生・中学生向けワークシート、学習用貸出資料の開発と提供を継続的に行う ウ 特別展での見学用「ワークシート」(小学生用、中高生向け用)、「キッズマップ」「キッズパネル」の開発と提供を行う。 エ 学校団体を対象とした遠足下見、説明会、相談対応を実施する。 オ 事前の要請に応じた博物館内の学芸員による特別授業を実施する。	35	(大阪市立自然史博物館) ア 子どもワークショップを38回分企画したが、2月後半以降の行事休止、臨時休館により6回が実施できなかった。 【平成30年度実績】36回 イ 継続的にワークシート、貸出資料を提供中、新規のキットなども3月末以降、ホームページに提供、「おうちミュージアム」として休館中の対応を積極的に行った ウ 「外来生物展」に向けた「キッズマップ」及び「キッズパネル」、ワークシートを開発したが、特別展の開催延期のため未公開。 エ 遠足下見、説明会、相談対応を随時実施してい	3		

	<p>カ 中学生、高校生、大学生への職業体験、インターンに対応する。</p> <p>キ 常設展での自己学習型シート「たんけんクイズ」の配布を継続する。</p>		<p>る。</p> <p>オ 12月までに18校園に実施した。</p> <p>カ 職場体験を5校から受け入れた。</p> <p>キ 探検クイズは原則毎日実施している。</p>	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学習指導要領に対応した展示場ワークシートの作成とその利用促進を図る。</p> <p>イ 学校代替向けプラネタリウム学習投影を実施し、児童生徒の天体の運行などに関する学習理解の手助けとなる学習用資料を作成する。</p> <p>【参考：平成29年度実績】107回</p> <p>ウ 幼児～小学校低学年を対象とした展示コーナーを常設するとともに、プラネタリウムに関しても「ファミリータイム」を実施する。</p> <p>【参考：平成29年度実績】165回</p> <p>エ 教員参画による教育的効果の高いプラネタリウム番組を制作する。</p> <p>オ 小学校5・6年生を対象としたジュニア科学クラブを実施する。</p>	35	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 小学生向けの展示場ワークシート「たんけんラリー」5種類を科学館HP上で公開し、利用に供した。</p> <p>イ 学習投影の投影実績は206回。観覧者には「学習のしおり」を無料配布した。</p> <p>【平成30年度実績】152回(12月1日～3月29日公開休止)</p> <p>ウ 「ファミリータイム」の投影実績は415回。また展示場2階において「おやこでかがく」をテーマとした常設展示を行った。</p> <p>【平成30年度実績】254回(12月1日～3月29日公開休止)</p> <p>エ 今年度は実績なし</p> <p>ウ ジュニア科学クラブを実施した。会員数：153名</p>	3
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 常設展示場内でのスタンプラリー実施や8階「歴史を掘る」コーナーでのワークシートの配布。</p> <p>イ 「わくわく子ども教室」「考古学体験教室」などのこども向け事業を実施する。</p> <p>ウ 学校団体を対象とした学芸員による遺跡探訪ツアーを実施する。</p> <p>エ 中学生向け職業体験を実施する。</p>	35	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 開館時間中、継続してスタンプラリーおよび「歴史を掘る」コーナーでワークシートの配布を行った。</p> <p>イ 「わくわく子ども教室」の実施状況は下記通り</p> <p>①手作りおもちゃで遊ぼう 21回1,527名 【平成30度実績】23回1,728名</p> <p>②心かしの瓦の拓本体験 6回147名 和同開珎の拓本でしおりをつくろう 4回60名(10月分不明) 【平成30度実績】12回 343名</p> <p>③縒くり・糸つむぎ体験65名 【平成30度実績】93名</p> <p>④ダンボールでつくる 21名 【平成30度実績】19名</p> <p>⑤凧づくりと凧あげ 18名 【平成30度実績】21名</p> <p>⑥考古学体験教室(個人)91名 【平成30度実績】75名</p> <p>⑦考古学体験教室(学校向け)16校884名 【平成30度実績】9校464名</p> <p>ウ 18校1,034名の遺跡探訪ツアーに対応 【平成30度実績】19校1,127名</p> <p>エ 中学生向け職業体験は6校11名に対応 【平成30度実績】7校15名</p>	3
	【記載なし】(大阪市立東洋陶磁美術館)	35		
36 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施	教員に対する博物館活用に関する研修会やワークショップを開催する。 教員による施設利用の事前学習を支援する。 大阪府・市教育センター等と連携を図り、教科部会や教員を支援する。		<p>【機構の評価】</p> <p>自：4、陶：3、科：3、歴：3、経：3 自然史博物館では、教員向け研修の参加者数は過去最高であった。その他の館では計画どおりに進めることができた。</p>	3
	(大阪市立自然史博物館)	36	(大阪市立自然史博物館)	4
	ア 教員のための博物館の日を開催し、学校利用の		ア 8/8に実施、16件の研修プログラムを実施、120名	外部要因により通信の発行や研究会は影響を受けたが、教員研修は120名

	<p>ための研修や相談を集中実施する。</p> <p>イ 教員向けサポート連絡誌TM通信の発行し、利用法の周知に務める。</p> <p>ウ 教員と連携した貸出資料・学習キットの開発につとめる。</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 教員研修への協力を行う。</p> <p>イ 教員のための博物館の日への協力を行う。</p> <p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学習指導要領に対応した展示場ワークシートの作成とその利用促進を図る。(再掲)</p> <p>イ 学校代替向けプラネタリウム学習投影を実施し、児童生徒の天体の運行などに関する学習理解の手助けとなる学習用資料を作成する。(再掲)</p> <p>ウ 大阪府・市教育センター等と連携を図り、サイエンスショーや実験実習等の教職員向けの研修を実施する。</p> <p>【参考：平成29年度実績】3件7回</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 教員向けの利用講座を通じ、ワークショップなどで当館の魅力を伝えるようにし、当館の活用を図るようにする。</p> <p>イ 教員研修への協力を行う。</p> <p>ウ 教員のための博物館の日を実施する。</p> <p>(事務局)</p> <p>ア 学校利用を促すための「授業に役立つミュージアム活用ガイド」を発行する。</p> <p>イ 夏休み期間に「教員のための博物館の日」を自然史博物館、歴史博物館で各1回開催する。</p> <p>【記載なし】(大阪市立美術館)</p>		<p>名が参加した。この他、館内で5件の研修を実施。イ休館に伴い年度末は発行を見合わせ、2号の発行にとどまった。</p> <p>【平成30年度実績】4号の発行。</p> <p>ウ 科研費事業などで取り組んでいる。年度末に研究会を予定したが中止した。</p> <p>36 (大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 実績なし</p> <p>【平成30年度】なし</p> <p>イ 他館での開催の協力を行った</p> <p>36 (大阪市立科学館)</p> <p>ア 小学生向けの展示場ワークシート「たんけんラリー」5種類を科学館HP上で公開し、利用に供した。</p> <p>イ 学習投影の投影実績は206回。観覧者には「学習のしおり」を無料配布した。</p> <p>【平成30年度実績】152回。</p> <p>ウ サイエンスショーや実験実習等の教職員向けの研修を実施する。</p> <p>【参考：平成29年度実績】3件5回。</p> <p>36 (大阪歴史博物館)</p> <p>ア 学校団体見学および考古学体験教室参加校(16校)の教員の希望者にガイダンスを実施した。また、教員のための博物館の日に実施したワークショップを通じ館の魅力の発信に努めた。</p> <p>イ 7月に南高校1名、8月に玉造小学校1名の初任者研修を実施済。</p> <p>【平成30年度実績】受入れなし</p> <p>ウ 「教員のための博物館の日2019」を実施し、71名の教員の参加を得た。</p> <p>【平成30年度実績】53名参加</p> <p>36 (事務局経営企画課)</p> <p>ア 「授業に役立つミュージアム活用ガイド」の発行…昨年度製作分に残部があるため、今年度は印刷を行わなかった。</p> <p>イ 「教員のための博物館の日」の実施…</p> <p>目標値：2回、実績値：2回(自然史博物館、歴史博物館)</p>		<p>(定員) 一杯となり、教員の自然史博物館利用への意欲を引き出すことができた点を評価した。</p> <p>3 実施の周知などは行ったが、需要がなかったため、未実施。</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>3</p>

中期目標	3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」
	<p>(2) 幅広い利用者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施</li> <li>・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと(再掲11)</li> <li>・多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(再掲12)</li> <li>・多言語表記等による外国人の受け入れ体制の充実(再掲23)</li> </ul>

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
(2) 幅広い利用者への支援					
さまざまな人々の多様な学習ニーズに応えるため、支援メニューの充実に取り組む。					
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 37 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施 学校を単位としたメンバーズ制度による高校・大学生等の利用促進を図る。 大学院生や若手研究者への研究協力(インターン制度を含む)を行う。 市民による高度な研究を支援するための制度を継続的に実施する。 関連団体への専門的助言などを通じて支援を行う			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：4、科：3、歴：3 全体的に計画通りに進めることができた。自然史博物館では、学芸員実習学生の受け入れ数が過去最高を維持し、東洋陶磁美術館では海外の研究者への支援を進めることができた。	3	
(大阪市立美術館) ア 博物館実習を通じ、学芸員資格の取得を目指す実習生を受け入れる。 【参考：平成29年度】 受入47名 イ 要請にもとづき、大阪市立大学等での博物館学関連講座への出講を行う。	37	(大阪市立美術館) ア 博物館実習受入：47名 【平成30年度実績】受入47名 イ 博物館関連講座出講：3名 【平成30年度実績】出講3名	3		
(大阪市立自然史博物館) ア 博物館実習などを通じ、学生への支援を行う。 【参考：平成29年度実績】 17大学36名 イ 要請にもとづき、大学での博物館学関連講座への出講をおこなう。 ウ 館蔵資料の閲覧対応などを通じて研究者の活動を支援する。 エ ジュニア自然史クラブを通した自然史科学に興味を持つ中高生への直接的な指導をおこなう。 オ 周辺地域のSuper Science Highschool指定校などへのサポートを要請に基づいて行う。 カ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。(再掲) キ 大学生ワークショップサポートスタッフへの教育的指導を含めたエデュケーターとしての育成につとめる。	37	(大阪市立自然史博物館) ア 夏期20名、秋期13名、冬期に21名、合計54名を受け入れた 【平成30年度実績】31大学54名 イ 計画通り実施した。 ウ 日常的に対応。利用の成果が植物分野だけでも17論文公表されている。 エ 111名がマーリングリスト登録、12月までに7回の行事を実施、延べ181名が参加 オ 高校生物教育研究会などを通じ支援、(11/23生徒研究発表会などで発表)、今後地域自然史と保全大会などにも出展の見込み カ 再掲(No. 28に記載) キ サポートスタッフに12大学26名が登録、活動中	4	実習の受け入れは過去最大規模を維持している。学生を含む外部利用者による所蔵資料の利用も活発であり、中高生を含む学生の研究教育利用は高まっている点を評価した。	

<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)  ア 博物館学を開講する大学の見学実習の受入れを行ふ。  【参考：平成29年度実績】 4大学117名  イ 館蔵資料の調査対応などを通じて研究者の活動を支援する。</p>	<p>37 (大阪市立東洋陶磁美術館)  ア 博物館学を開講する大学の見学実習の受入れを行った。  5大学97名(※市大の展示論を含む)  【平成30年度実績】4大学87名  イ 館蔵資料の調査対応などを通じて研究者の活動を支援した。  研究者対応実績 5件  ・学習院大学  ・國立故宮博物院  ・国立台湾大学  ・韓国国立中央博物館  ・京都府埋蔵文化財研究所</p>	<p>4 国内外の研究者が当館の資料を通じ研究を実施しており、当館の博物館としてのステータスを隨時高められているため</p>
<p>(大阪市立科学館)  ア 天文学を学べる大学と連携し、その分野への進学に興味を持っている生徒に情報提供を行う場などを設け、大学や高校生の仲立ちを担う活動を実施する。  イ 市井の研究者と学芸員の協同による中之島科学研究所を設置する。  ウ 一般市民が演示を行う科学実験大会を実施する。  エ 小学校向けの出張サイエンスショーの実施  【参考：平成29年度実績】9校10件  オ 随時、来館、電話による問い合わせ対応を行う  ア 各種友の会活動等への学芸員の協力、関与を行い、科学に対して興味関心の高い市民に対する専門的な助言等の支援を行う。  【参考：平成29年度実績】友の会会員数 885人</p>	<p>37 (大阪市立科学館)  ア 全国の大学と協力し、天文学を学べる大学や大学院に興味のある高校生教員、保護者等を対象にしたイベント「天文学者大集合！宇宙を学ぶ大学紹介イベント」6月9日に実施した。  【平成30年度実績】174名参加  イ 中之島科学研究所事業を実施し、研究員と学芸員等による講演、議論を行う「コロキウム」を9回実施した。  【平成30年度実績】6回実施(12~3月休止)  ウ 科学実験大会を2月8日に実施した。  【平成30年度実績】工事休館により実施せず  エ 大阪市立小学校向けの出張サイエンスショーは、計10校10件実施した。  【平成30年度実績】工事休館による対応で、訪問校数を特別に増やして50校実施  オ 市民からの問い合わせは随時行っている。  カ 友の会の活動を支援し、例会や友の会ナイトでの講演をはじめとした各種支援を実施した。(参考：友の会会員数878人)</p>	<p>3</p>
<p>(大阪歴史博物館)  ア 夏季に博物館実習などを通じ、学芸員資格の取得を目指す実習生を受け入れる。  【参考：平成29年度実績】 10大学50名  イ 要請にもとづき、大阪大学、大阪芸術大学等への出講を行う。  【参考：平成29年度実績】  大阪大学、大阪芸術大学 2講座  ウ 館蔵資料の閲覧対応などを通じて研究者の活動を支援する。</p>	<p>37 (大阪歴史博物館)  ア 8月下旬に2期に分けて博物館実習を実施した。  10大学53名の実習生を受け入れた。  【平成30年度実績】10大学44名  イ 大阪大学、大阪芸術大学のほか、大阪市立大学への出講(3講座)を実施した。  【平成30年度実績】大阪大学、大阪芸術大学、京都橘大学 3講座  ウ 17件の資料閲覧申請に対応した。  【平成30年度実績】23件</p>	<p>3</p>
<p>38 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業  講座・講演会・シンポジウム等を通じて、活動成果の公開と普及に努める。(再掲)  踏査や見学機会を通じて、実物に接する機会を提供する。(再掲)</p>	<p>【機構の評価】  美：4、自：3、陶：3、科：3、歴：3、経：3  美術館では、外部研究者との共同研究、講演会を例年以上に実施することができた。その他の館は計画通りに実施した。</p>	<p>3</p>

ワークショップの実施やリファレンス窓口を設置して、利用者の学習支援を行う。(再掲)			
(大阪市立美術館) ア 展覧会等の関連事業としての講演会等を開催する(再掲)。	38	(大阪市立美術館) 再掲(No. 16に記載)	4 大型特別展・コレクション展の講座、講演会などを例年以上に実施することができた点を評価した。
(大阪市立自然史博物館) ア 各種の自然観察会など多様な野外行事・講演会を継続的に実施する。 【参考: 平成29年度実績】 162回 イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。 ウ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などを誘致開催する。	38	(大阪市立自然史博物館) ア 再掲 (No. 13に掲載) 【平成30年度実績】 153回 イ 再掲 (No. 13に掲載) ウ 再掲 (No. 13に掲載)	3
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催する(再掲)。 【参考: 平成29年度実績】 23回 イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会、講座、レクチャーなどを継続的に実施する(再掲)。 【参考: 平成29年度実績】 3回 ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座を実施する(再掲)。	38	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催する(再掲)。 26回 【平成30年度実績】 25回 イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会、講座、レクチャーの実績 研究発表10件、講演会等14件 【平成30年度実績】 研究発表7件、講演会等11件 ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(13)「耀州窯青磁と高麗」を延期した(2020年3月14日予定だったが、新型コロナウイルスの影響で次年度以降に延期) 【平成30年度実績】 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念講座(12)「高麗と汝窯の新発見」の実施(2019年1月12日)	3
(大阪歴史博物館) ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果をつたえる「なにわ歴博講座」の継続的に実施する。(再掲) 【参考: 平成29年度実績】 3期14回 イ 学芸員の専門に即した連続講座を実施する。(再掲) 【参考: 平成29年度実績】 考古学入門講座 3回、漢文講座 3回 ウ 展覧会などの関連事業としてのシンポジウムなどを開催する(再掲)。	38	(大阪歴史博物館) ア ⑩なにわ歴博講座 今年度目標 2期6回 1期3回を終え、計192人の参加を得たが、新型コロナウイルス感染症の影響で2期は実施できなかった。 【平成30年度実績】 3期13回(1,057人) イ ⑩考古学入門講座 今年度目標 3回 予定通り3回実施、のべ107人の参加を得た。今年度も抽選を行った。 【平成30年度実績】 3回(90人) ⑩漢文講座 今年度目標 3回(160人) 1月に3回を実施し166人の参加を得た。 【平成30年度実績】 3回(90人) ウ 特別展「浮世絵ねこの世界展」 ・ブレ講座 3回 参加者計78人 ・講演会 131人 特別展「刀装具鑑賞入門展」 ・講演会 47人 特集展示「商都大阪の文化力」 ・講演会145人 ・関連講座 125人	3

		<p>・シンポジウム 77人 再掲(No. 13に記載)</p> <p>(事務局) ア 博物館に興味を持つ市民団体等のために「出前講座」を実施する。</p>	38	(事務局経営企画課) ア 出前講座の実施…昨年度：4回、今年度：3回 (3月実施予定がコロナのため、中止となった)	3	
		(大阪市立科学館) 【記載なし】	38			
39	多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開 図録・紀要等印刷物の発行によって調査研究その他の活動の成果を公表する(再掲)。 収蔵資料や図書等に関する情報をインターネットを介して公開する(再掲)。 講演会や学会発表映像、収蔵標本データ観察記録などのアーカイブ化と公開を促進する(再掲)。			<p>【機構の評価】 美：3、自：3、陶：4、科：3、歴：3 各館とも展覧会ごとに図録等を計画どおり作成した。 東洋陶磁美術館では初めてデジタル図録の製作・公開した。</p>	3	
	(大阪市立美術館) ア 研究紀要を発行し、ホームページ上で公開する(再掲)。 イ 広報誌『美をつくし』を発行する(再掲)。		39	(大阪市立美術館) ア 再掲(No. 14に記載) イ 再掲(No. 14に記載)	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 研究報告の継続的な発行とホームページでの公開(再掲) イ 共同研究報告書、館蔵資料集などの継続的な発行(再掲) ウ 年報の作成およびホームページでの公開を通じ、館の活動を公開する。 エ SNSやブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。(再掲)		39	(大阪市立自然史博物館) ア、イ 再掲(No. 14に記載) ウ 12月20日館報44号を発行、リポジトリに掲載した。 エ 再掲(No. 20に記載)	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売などを行う(再掲)。 イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する(再掲)。		39	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売などを行った。 ・当館編集の館蔵品図録の発行、販売 ・「文房四宝」展図録の編集・発行 ・「竹工芸名品」展図録の編集 ・四代田辺竹雲斎による《GATE》制作の記録集の制作・発行 ・「木村盛康展」デジタル図録の制作・頒布 イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告(13)「耀州窯青磁と高麗」の刊行	4	<p>* 当館独自の調査研究を踏まえ、詳細な展覧会図録等を製作でき、ご利用者様のみならず、研究者、美術業界など学術的にも寄与することができたため</p> <p>* 当館が編集・発行として研究成果を十分に反映するとともに主要館蔵品の美しい写真を紹介した新たな館蔵品図録を製作したため</p>
	(大阪市立科学館) ア 月刊誌「うちゅう」を発行する(年12回)。(再掲) イ 3ヶ月ごとに「科学館だより」を発行する(年4回)。(再掲) ウ ホームページ、ツイッター、YouTube等を利用した情報発信を行う。(再掲) エ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する(年1～2冊)。(再掲)		39	(大阪市立科学館) ア 月刊「うちゅう」4月～3月号の計12冊を発行した。 イ 「科学館だより」を4回発行した。 ウ ホームページ、ツイッター、YouTube等を利用した情報発信を随時実施した。 エ ミニブックを2冊発行した。	3	

	<p>(大阪歴史博物館)          ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、ホームページ上で公開する(再掲)。          イ 共同研究報告書、館蔵資料集などの継続的に発行する(再掲)。          ウ 年報の作成およびホームページ上の公開を通じ、館の活動を公開する。</p>	39	<p>(大阪歴史博物館)          ア 研究紀要第18号を発行。第17号のホームページアップは完了済(18号は2年度予定)。          イ 共同研究報告書、館蔵資料集を発行。          ウ 自主企画展である「刀装具鑑賞入門展」、「猿描き狂仙三兄弟展」の図録を発行。          エ 実施した特集展示ではすべてリーフレットを作成し、入館者に無料配布した(「発掘成果から考える近世都市「おおさか」の食文化」は臨時休館のため未配布)。          再掲(No. 14に記載)</p>	3	
40 多言語表記等による外国人の受け入れ体制の充実 デジタル機器(情報端末)などを活用した多言語対応を進める(再掲)。  パンフレット、展示解説文等の多言語化や、サインの充実を図る(再掲)。			<p>【機構の評価】          美: 3、自: 3、陶: 3、科: 3、歴: 4、経: 3          歴史博物館ではデジタルサイネージ設置により、館情報の多言語化、視認性が向上した。その他の館は計画通りに実施できた。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館)          ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める(再掲)。</p>	40	(大阪市立美術館) ア 再掲(No. 10に記載)	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)          ア 館内における外国語表記について、来館者動向を見ながら見直しを行う(再掲)。</p>	40	(大阪市立自然史博物館) 再掲(No. 27に記載)	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)          ア 平常展示における主要館蔵品約60点の作品解説の多言語対応(日・英・中・韓)音声ガイド機のレンタルを継続して行う(再掲)。          イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努める(再掲)。</p>	40	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 平常展示における主要館蔵品約60点の作品解説の多言語対応(日・英・中・韓)音声ガイド機のレンタルを継続して行った。 イ 常設展の中国、韓国、日本陶磁の作品解説を新たに製作し、多言語化に努めた。 ・解説キャッシュ新規作成15枚、再作成3枚	3	
	<p>(大阪市立科学館)          ア ホームページ、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。(再掲)          イ 展示場解説文の英語表記化、展示解説ビデオの英語テロップ表記を行う。(再掲)</p>	40	(大阪市立科学館) ア ホームページの自動翻訳や三つ折りリーフレットにて英語・中国語・韓国語の対応を実施している。また仏語の案内パンフも追加発行した。 イ 文化庁補助金により、スマートフォンアプリを利用した展示場解説文の多言語化(英語、中国語簡体字)の導入作業を行い、1月から公開した。	3	
	<p>(大阪歴史博物館)          ア 館内における外国語表記について、来館者動向を見ながら見直しを行う(再掲)。</p>	40	(大阪歴史博物館) 既存の7種の外国語パンフレット配布数の分析を行い、国別の来館者の動向の把握に努めている。また導入したデジタルサイネージでは基本情報を多言語化し、視認性の高い案内を行った。 再掲(No. 10に記載)	4	従来設置していなかったデジタルサイネージを活用して案内を行い、来日外国人来館者への利便性を高めた点を評価した。
	<p>(事務局)          ア これまで実施した各館の多言語化状況について、それを集約した報告書の配布等を通じて共有化を図る。</p>	40	(事務局経営企画課) ア 多言語化状況をまとめた冊子『検証結果報告書』を各館に配布し、改善点などの課題を共有した。	3	

中期目標	3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」		
	(3) 参画機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進</li> <li>・各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定</li> <li>・さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励</li> </ul>	

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価	評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	
(3) 参画機会の提供				
市民活動に寄与するため、次の通り、各館の活動への幅広い参画の機会を提供する。				
【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 <u>41 ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進</u> 友の会の組織と自主性を活かした運営を支援する各種ボランティア(ガイドや学芸補助等)活動の拡充を図る。			【機構の評価】 自：3、陶：3、科：3、歴：4 歴史博物館ではボランティア活動に新たなメニューを加えることができた。他の館は計画どおりに実施した。	3
	(大阪市立自然史博物館) ア ボランティア活動を維持し、自然科学的な研修を施して活動が充実するよう継続して検討を行う 【平成29年度は延べ192名が参加】 イ 学生むけのボランティアについては、自然科学的な研修とともに、教育手法についての研修を充実させ、人材育成を強化する。 【参考：平成29年度は大学生など25名が参加】 ウ 関連NPO法人などとの協働事業を積極的に実施する。	41	(大阪市立自然史博物館) ア 延べ143名が事前研修などをうけ、補助スタッフとして各種野外行事・実習などを支援した。 【平成30年度実績】延べ215名 イ 26名の学生が参加し、研修を受けて年度末にはプログラムの企画運営を行った。 【平成30年度実績】22名、 ウ 大阪自然史フェスティバル、東北被災博物館支援、各地域でのワークショップなどの実施で大阪自然史センターと、研修やICOM対応などで西日本自然史系博物館ネットワークと共同するなど各NPOと連携を進めている	3
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア ボランティアガイド活動を継続的に実施し、研修などを実施しその充実に努める。 イ 友の会制度のリニューアルを実施する。	41	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展覧会ごとの研修 4回 定刻ガイド・団体ガイド実施39回 【平成30年度実績】 展覧会ごとの研修 4回 定刻ガイド・団体ガイド実施33回 イ 年間バスの作成をはじめとして、現状に即した新たな美術館活動にふさわしい制度の検討を進めた。	3
	(大阪市立科学館) ア 展示解説ボランティアによる展示ガイド、ブチサイエンスショー、実験教室並びにその実施に向けての研修を行う。 【参考：平成29年度実績】 活動延べ人数 1,517人	41	(大阪市立科学館) ア 展示解説ボランティア「サイエンスガイド」による展示ガイド、ブチサイエンスショー、ジュニア科学クラブ向けの実験教室指導、イベント「サイエンスガイドの日」を実施した。加えて研修会を実施した。今年度のサイエンスガイドの活動延	3

	<p>イ 科学デモンスト레이ターによるエキストラ実験ショーの実施、並びにその実施に向けての研修とスキルアップ活動を行う。 【参考：平成29年度実績】 エキストラ実験ショー 403回 見学者数 15,009人</p> <p>ウ 科学館だいすきクラブ、友の会活動、東亜天文学会の活動支援を行う。</p>		<p>べ人数は1,502人。 【平成30年度実績】友の会会員数 744人 イ エキストラ実験ショーを、319回実施した(見学者数：16,971人)。また、随時研修を実施した。 【平成30年度実績】224回 見学者数9,386人(9月3日～3月29日は休止) ウ 科学館大好きクラブの活動を支援し、研修会およびイベント「自然科学の基礎を訪ねる」を開催した。また、友の会活動では、例会やサークル、友の会ナイト、会員向け天体観望会などの開催を支援した。東亜天文学会に対しては毎月開催する月例会の会場を提供した。</p>		
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア ボランティア活動を維持し、研修などを行い活動が充実するように努める。</p> <p>イ 近隣地域に活動拠点を置くNPO法人などとの協働事業を実施する。</p>	41	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 今年度も「ハンズオン」「スタンプラリー」と「歴史を掘る」「遺跡探訪」の4つの活動、2グループで実施した。 加えて今年度はA.R難波宮(拡張現実アプリを入れたタブレットガイドツール)の案内を新たに実施。またAI翻訳機を導入して外国人来館者の対応にそなえた。 3月に予定していた異文化研修(ベトナム文化を学ぶ:2回)は臨時休館のため中止したが、「ボランティアだより」を新たに発行し、館情報等の連絡とともに自己研修の機会とした。 活動のべ人数5,266名(306日) 【平成30年度実績】6,306名(279日)</p> <p>イ 大阪観光ボランティアガイド協会、大阪府高齢者大学校の事業に協力し講師派遣などを8回行つた。 【平成30年度実績】7回 NPOまち・すまいづくりと共に催で「凧づくり教室」を前年度と同じく1回実施した。</p>	4	開館以来、長年のボランティア活動の維持、NPOとの連携企画の継続を評価したほか、今年度については新規のボランティア活動の企画を追加できしたこと、新型コロナウイルス対応による臨時休館を契機に、新たなボランティアとの関係を築く試みを開始したことなどを評価した。
	【記載なし】(大阪市立美術館)	41			
42 各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定	<p>ボランティアとの意見交換の場を設け、意見を聴取する。</p> <p>友の会会員等との意見交換の場を設け、意見を聴取する。</p> <p>市民団体との共同事業を通じて、利用者との対話を図る。</p>		<p>【機構の評価】 自：3、歴：3 両館とも計画通りに実施した。</p>	3	
	(大阪市立自然史博物館)	42	(大阪市立自然史博物館)	3	
	<p>ア 市民連携のあり方を検討する館長諮問の協議会を設置し、ボランティアやNPOとのさらなる連携などに関する方針を検討する。</p> <p>イ 友の会の総会および評議員会、各種ワーキンググループを通じ、意見を聴取する。</p> <p>【平成30年度は総会及のほか、5回の評議委員会、</p>		<p>ア 協議会についてはまちづくり関係者、コミュニケーションビジネス関係者、NPO経営アドバイザーなどの候補を決定し、打診し打ち合わせを目指したが臨時閉館に伴い延期した。</p> <p>イ 評議員会(12月までに2回実施、12月9項3月までに3回実施予定)、友の会総会(1月)、事業WG(5回</p>		

	<p>12回の事業ワーキンググループを開催】 ウ 協働するNPOとの定期的な協議の機会を設け連携を密に行う。 【事業報告会のほか、12回の定期協議を実施】</p>		<p>実施)などで意見聴取した。 【平成30年度実績】総会、評議委員会5回、事業ワーキンググループ12回開催 ウ 自然史センターと毎月協議を実施、事業報告会は4月27日に実施した。</p>	
	<p>(大阪歴史博物館) ア ボランティアとの意見交換の場を継続して設ける。 イ 友の会の総会および幹事会を通じ、意見を聴取する。</p>	42	<p>(大阪歴史博物館) ア 3月予定のボランティア懇談会は新型コロナ感染症拡大防止のため中止とし、アンケートによるボランティアからの意見集約を実施した。 【平成30年度実績】ボランティア懇談会1回 イ 総会、幹事会などを通じ、友の会との意見交換を随時実施した。</p>	3
	<p>【記載なし】 (大阪市立美術館) (大阪市立東洋陶磁美術館) (大阪市立科学館)</p>	42		
	<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 43 さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励 美術団体等へ施設を貸出し、市民による成果発信を支援する(再掲)。 施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する(再掲)。 市民参加のフェスティバル等を開催し、活動成果発表の場を提供する(再掲)。</p>		<p>【機構の評価】 美：3、自：3、科：3、歴：3 各館とも計画通りに、市民への機会提供等を行うことができた。</p>	3
	<p>(大阪市立美術館) ア 地下展示会室の美術団体への貸出及び館長賞を授与する(再掲)。</p>	43	<p>(大阪市立美術館) ア 再掲(No. 28に記載)</p>	3
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバルを開催する。(再掲) イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。(再掲) ウ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘致する。(再掲) エ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保につとめる。(再掲)</p>	43	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 再掲(No. 28に記載) イ 再掲(No. 28に記載) ウ 3月に「地域自然史と保全」大会を準備していたが、臨時休館により中止となった。 エ 再掲(No. 28に記載)</p>	3
	<p>(大阪市立科学館) ア 科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーを実施し、デモンストレーター祭りを開催する。 イ サイエンスガイドによるサイエンスガイドの日を開催する。 ウ 友の会志による、青少年のための科学の祭典への出展を実施する。 エ 科学館だいすきクラブによる展示解説を実施する。</p>	43	<p>(大阪市立科学館) ア エキストラ実験ショーは、319回実施した。デモンストレーター祭りは本年度の実施はなし。 【平成30年度実績】 224回 イ サイエンスガイドの日を12月1日に実施した。 ウ サイエンスフェスタに、友の会科学実験サークル有志1件の出典を実施した。 エ 科学館だいすきクラブによる展示解説イベント「自然科学の基礎を訪ねる」を、8/17~18、11/16~17の4日間実施した。</p>	3

	<p>(大阪歴史博物館) ア 館の活動に関係する学術団体等と連携し、発表の場を設ける(再掲)。</p> <p>【記載なし】(大阪市立東洋陶磁美術館)</p>	43	<p>(大阪歴史博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史学入門講座実行委員会と共催で「歴史学入門講座」を実施した。また、日本史研究会主催の陵墓シンポジウム、「新・日韓交渉の考古学」の共同研究会、斎宮歴史博物館の公開講座の開催などに協力した。</li> </ul> <p>再掲(No. 28に記載)</p>	3	No.28に同じ。
--	--	----	---	---	-----------

中期目標	4 大阪中之島美術館の開館に向けて 法人は、大阪市北区中之島に建設予定の大坂中之島美術館について、2021年度中の開館に必要な準備業務を行う。 (1) 大阪中之島美術館の開館に向けて ・コレクション展及び企画展の開催の準備 ・新たな博物館等資料の収集 ・博物館等資料の公開に向けた修復及びアーカイブ化 ・開館に向けた機運の醸成 ・大阪中之島美術館をともに運営するPFI事業者の選定		

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価	評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	
(1) 大阪中之島美術館の開館に向けて				
[1] 2019年度：法人が開館準備業務を行う。 [2] 2020年度から2021年の建物引渡し時まで：選定されたPFI事業者に一部を委託して、共に開館準備業務を行う。 [3] 2021年の建物引渡し時から開館まで：学芸員がPFI事業者に在籍出向した上で、PFI事業者が運営権者として開館準備業務を行う。 [4] 開館後：PFI事業者が運営権者として美術館の運営を行う。  ・大阪中之島美術館の建設に関して大阪市と連携して進め、学芸員の視点が整備内容に適切に反映されるよう助言を行う。[1] [2] (上記の各時期に該当、以下同じ) ・大阪中之島美術館の運営を担うPFI事業者の公募及び選定業務を行う。[1] ・美術及びデザインに関する作品資料及び情報の収集を行う。[1] [2] [3] [4] ・収蔵作品資料の公開に向けた修復と額装を行う。[1] [2] [3] [4] ・開館後に開催する展覧会(企画展・コレクション展)の実施に向けた準備を進め[1] [2] [3] 、開館後は展覧会の準備と開催を継続的に行う。[4] ・作品資料に関する情報及び画像データの整備を行う。[1] [2] [3] [4] ・アーカイブ活動の充実のための図書やアーカイブ資料の整備を行い[1] [2] [3] [4]、開館後はアーカイブ室を運営する。[4] ・収蔵作品資料について、準備業務をへて引っ越しを実施する。[1] [2] [3] ・ヴィジュアル・アイデンティティ(VI)の構築と展開をデザイナーと共同して推進する。[1]				
(1) 整備事業への関与 ① 大阪中之島美術館の建設に関して、大阪市と連携して進める。			・市担当者と定期ミーティングを開催した。進捗状況を確認・記録。課題解決を推進した。 ・各分科会にて個別の懸案事項を検討した。	3
② 大阪市及び工事業者との間で開催される工事定例会や整備内容に関する協議等に積極的に参加し、情報の収集を行う。			・現場事務所での定例会議に参加し、大阪市、工事業者と情報を共有した。	3
③ 収蔵作品資料の管理や開館後の運営について責任をもつ学芸員の視点が整備内容に適切に反映されるよう、大阪市に助言を行う。			・展示室及び収蔵庫の仕様・設備をはじめ、館内のあらゆる施設・設備について学芸員と大阪市技術担当が共に検討し、意見交換・調整した。	3
(2) 開館準備業務の実施 ① 大阪中之島美術館の運営を担うPFI事業者の公募及び選定業務を行う。	48		・1次審査：3者応募した。 ・2次審査：1者応募した。 ・2月6日：優先交渉権者の決定公表した。 ・(R2年度)4月1日：公共施設等運営権実施契約を締結した。	3
② 美術及びデザインに関する作品資料及び情報の収集を行う。 ・開館後のコレクション展示等における活用のため、収集方針に従って作品の収集を行い、コレクションの充実を図る。 ・収集活動における適切な情報収集のため、国内外の美術動向に関する資料を継続的に収集する。 ・所蔵作家の著作権状況について調査を進める。	45		・新規収蔵作品：収集・評価委員会を11月に開催した。 購入： 14件 寄贈等：12件 寄託1件 ・研究用資料の購読： 海外雑誌、国内雑誌を定期購読した。 ・所蔵作家著作権状況に関する調査： 他館での著作権管理手法の調査を実施した。	3
③ 収蔵作品資料について、作品保護と開館後の展示の必要性を考慮して、修復と額装を行う。	46		・修復：油彩画16点、家具作品2点 ・額縁：製作35点、修繕4点 ・保存処置：貴重資料300点	3
④ 開館後に開催する展覧会(企画展・コレクション展)について企画立案し、実施に向けた準備を進める。	44		・開館当初3年間の企画展について企画立案した。 ・共催メディアや巡回候補美術館との折衝を進めた。 ・作品借用交渉を進めた。	3
⑤ 作品資料の撮影を行う。 ・平成30年度新収蔵作品を中心に、未撮影作品	46		・作品撮影：564カット ・アーカイブ資料撮影：470カット	3

・広報活動やイベント開催の実施と、開館に向けた機運の醸成を進める。 [1] [2] [3] ・他の美術館・博物館、大学、企業等と連携して、共同の研究や事業を実施する。 [1] [2] [3] [4]	の撮影を実施する。 ・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。		・画像データの収蔵品管理システムへの掲載を段階的に実施した。	
	⑥ 開館後のアーカイブ活動の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を行う。	46	・アーカイブ図書登録の事業委託を推進した。 ・アーカイブ資料管理システムを構築(継続)した。 ・有識者会議や普及事業を通じた最新の知見を習得した。 ・一般向け普及事業の実施した(一部新型コロナウイルス感染防止対策により中止)。 ・引っ越しに向けた悉皆調査した(継続)。 ・収蔵庫への収納計画を作成(継続)した。 ・図書資料を整理(継続)した。 ・輸送プラン作成に向けた事務的な協議(継続)を行った。	3
	⑦ 収蔵作品資料の整理を行う。 ・作品資料の収蔵計画を立てる。 ・引っ越し時の作品輸送について、安全で効率的な輸送プランを作成し、それに基づいて平成32(2020)年度の作品梱包・整理計画を立てる。	47	・ロゴタイプ、シンボルマーク等をはじめとした基本VIエレメントを制作した。 ・レターヘッド等のアプリケーションの制作した。 ・商標調査の実施と商標登録(申請中)した。 ・VIの建築サイン計画への適用、監修を行った。	3
	⑧ ヴィジュアル・アイデンティティ(VI)の構築を、選定されたデザイナーと共同して進める。 ・ロゴタイプ、ロゴマークおよびシンボルマークの制作をはじめ、VIカラー展開の指定、主たるカラーの指定やオリジナルフォントの制作、指定等、VI全般の制作業務を行う。	47	・開館プロモーション動画の制作、及び公式サイトや展覧会、連携イベントにおいて公開した。 ・整備の進捗状況や大阪中之島美術館の特色を一般に普及する「開館準備ニュース：Artrip」を公開(継続)した。 ・「中之島アートウォール」(中之島三井ビル4階)にて所蔵品のパネル展示を実施した。 ・公式サイトとFacebook、機構ツイッターにて情報発信した。 ・開館プレイベントの開催にあたっては記者発表会を実施し、情報の発信力と周知状況を向上した。	3
	⑨ ウェブサイトやSNS等の更新や充実等を通じて、大阪中之島美術館の整備や開館準備の状況を発信する。 ・大阪中之島美術館の開館に向けた機運を醸成するためのPR・広報活動を実施する。 ・大阪中之島美術館の開館時期・コレクション ・開館後の活動内容等を周知し、その魅力をPRする動画を作成し、ホームページやイベント会場において公開する。 ・美術館の整備の進捗や開館準備についてわかりやすく周知する「開館準備だより(仮称)」を発行、ホームページ上に掲載する。 ・SNS等を活用し、プレイベント等の情報を積極的に発信する。	47	【開館プレイベント】 ・「サラ・モリス サクラ」展(アートエリアB1   9/21-10/6) ・クロストーク「建築家×アートディレクター：美術館イメージの創造」(中之島三井ビルCUI MOTTE   3月13日予定) (一部新型コロナウイルス感染防止対策により中止) ・シンポジウム「コレクションのゆくえ(仮)」(中之島三井ビルCUI MOTTE   3月14日予定) (一部新型コロナウイルス感染防止対策により中止) ・再掲(NO.18に記載)	3
	⑩ シンポジウム開催やコレクション展示等、プレオープンイベントを実施する。			
	⑪ 他の美術館や大学、企業等との連携を推進する			

大項目 (5)	II 業務運営の改善及び効率化に関する事項 5 業務運営の改善及び効率化 (1) 人材の活用と育成 (2) 評価制度の活用 (3) I C T の導入及び活用 (4) 民間活力の導入
大項目 (4)	I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 4 大阪中之島美術館の開館に向けて
中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 法人は、業務運営の改善及び効率化を図ることで、法人の事業の持続的かつ安定的な実施を目指す (1) 人材の活用と育成 ・職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置 ・職員のスキルアップを図るための学習機会の確保 ・包括的な社会にふさわしい人材の獲得 ・法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(再掲5)

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
(1) 人材の活用と育成  職員の意欲及び能力を活かすため、必要な体制整備を図るとともに、職員の育成に取り組む。				3	
<u>【法人として充実を目指す事項】</u> <u>49 職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置</u>	(事務局) 職種に応じた能力が的確に把握できる評価制度の構築をめざす。 法人内での人事交流を実施する。	49	(事務局総務課) 職員の人事評価制度については、今年度中の制度構築に向け、他機関の制度等を検証しつつ、今年度中の制度構築を行い、次年度から運用予定である。 人事交流については、令和元年10月に事務局と博物館科学館において、令和2年4月付で事務局及び各館全体で実施した。 (事務局経営企画課) 学芸員の人事評価制度について、学芸連絡会議等において議論を重ね、次年度の中で制度構築を目指すこととなった。	3	
<u>50 職員のスキルアップを図るための学習機会の確保</u>  法人内での人事交流を積極的に実施する。 職員のスキルアップに寄与するため、職員の職能別・階層別の研修を実施する。	(事務局) 職種や職階を超えた職員に共通する研修を実施する。 管理者層向けの研修を実施する。 学芸員の資質向上を目的とした法人内研修を実施する。	50	(事務局総務課) 管理者層向けの研修として、2月に労務管理に関する研修を、事務職員向けに2月に契約事務研修を実施した。なお、新規採用者に対しては、その都度研修を行った。(4月、10月、1月)。 (事務局経営企画課) 職種等を超えた研修として、2月下旬にICOMに関する研修を実施した。学芸員に対する研修は1月上旬に専門家による研究倫理に関する研修会を開催した。	3	

<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</p> <p>51 包摂的な社会にふさわしい人材の獲得</p>	<p>(事務局) 年齢等にとらわれず、能力、適性に応じた人材を、職種を問わずに採用する。</p>	51	<p>(事務局総務課) 機構発足後、独自採用や民間採用等、職種を問わずに採用活動を積極的に行った。</p>	4	
<p>52 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(再掲)</p> <p>業務の中核を担う職員を安定的に確保するために、中長期的な採用計画及び育成計画を立案し、運用する。</p> <p>年齢等にとらわれず、能力、適性に応じた人材を採用する。</p> <p>館蔵品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実をめざす(再掲)。</p> <p>【中期計画期間中の目標】</p> <p>2021年度の大坂中之島美術館の開館後は、準備業務に従事した職員の削減を予定(3名程度)</p>	<p>(事務局) 広報や教育を担当する人材を安定的に確保する。</p>	52	<p>(事務局総務課) (再掲 4) 各館及び事務局において新たな人材を多数獲得することができた。学芸員では、欠員にともない歴史博物館(3名)、科学館(1名)、中之島美術館準備室(1名)を採用し、来年度4月採用者として自然史博物館(1名)、東洋陶磁美術館(1名)、歴史博物館(2名)で採用した。事務職員について、10月に美術館と歴史博物館に総務課長を民間から、1月に事務局に課長代理2名を民間等から採用して増配置した。令和2年4月採用者として東洋陶磁美術館に総務課長を採用した。</p>	5	<p>各館、事務局で旧協会時代から、大規模な人材の確保を行えた点を評価した。</p>

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化
	<p>(2) 評価制度の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価</li> <li>・能力に応じた人事評価の実施</li> <li>・法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運営に関する調査研究の実施</li> <li>・インセンティブが適正に働く人事制度の導入</li> </ul>

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
(2) 評価制度の活用					
評価制度に基づく業務改善及び職員のモチベーションが向上するよう、適正な制度の構築及び運用を目指す。					
<b>【法人として充実を目指す事項】</b> <b>53 法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価</b> 中期計画及び年度計画(以下「中期計画等」という。)の策定及び評価に関する規程等を整備する。適正な目標設定方法を検討し、新たな年度計画の策定に反映させる。	(事務局) 中期計画及び年度計画(以下「中期計画等」という。)の策定及び評価に関する規程等を整備する。適正な目標設定方法を検討し、新たな年度計画の策定に反映させる。	53	(事務局経営企画課) 機構として「中期計画等の策定及び評価に関する規程」を定めた。 令和元年12月時点での年度評価を実施し、理事会及び経営会議において報告を行ったうえで、この中間評価を根拠として次年度の年度計画を策定した。	3	
<b>54 能力に応じた人事評価の実施</b> 職員の能力向上を図るため、業務の成果を総合的に評価する人事評価制度を構築し、その運用をめざす。	(事務局) 職種に応じた能力が的確に把握できる評価制度の構築をめざす。 新たな評価制度の早期運用に向けた準備を進める。	54	(事務局総務課) 職員の人事評価制度については、今年度中の制度構築に向け、他機関の制度等を検証しつつ、令和2年度より導入予定である。 (事務局経営企画課) 学芸連絡会議等で学芸員の人事評価制度について検討を重ね、大枠を構築し、次年度より導入予定である。	3	3
<b>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</b> <b>55 法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運営に関する調査研究の実施</b> 他館の事例研究など、博物館運営に関する調査・研究を実施する。(再掲)	(事務局) 展覧会事業における観覧者数や事業費を始め、適正な目標設定や評価の基礎となる運営に関する他館情報も含めた調査研究を実施する。	55	(事務局経営企画課) 観覧者数、事業費等の基本データを定期的に分析するとともに、他館の情報を入手し、法人の適正な目標、年度計画の策定に活かした。	3	
<b>56 インセンティブが適正に働く人事制度の導入</b> 適正な目標設定や評価の基礎となる運営に関する調査研究を実施する。 職員の資質向上を図るため、自己評価や人事評価に基づき、インセンティブが適正に働く制度を構築し、その運用を目指す。	(事務局) 事業評価や人事評価に基づき、インセンティブが適正に働く制度の構築を検討し、その運用を目指す	56	(事務局総務課) 職員の人事評価制度については、今年度中の制度構築に向け、他機関の制度等を検証しつつ、今年度中の制度構築予定である (事務局経営企画課) 学芸員の人事評価制度について、学芸連絡会議等において議論を重ね。大枠を構築し、次年度より導入予定である。	2	3

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化
------	----------------

(3) I C Tの導入及び活用

- ・財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
<b>(3) ICTの導入・活用</b>					
業務の標準化及び迅速な処理のため、 I C Tの導入及びその活用を図る。					
<b>【法人として充実を目指す事項】</b> <b>57 財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用</b> 業務の効率化を図るため、法人の各館を結ぶネットワークを構築し、各種システムを稼動させる。	(事務局) 各館と事務局を結ぶネットワークを通じて、法人情報の迅速な共有を図る。 人事・給与や財務会計システムの利用範囲(者)拡大に向けた取り組みを進める。	57	(事務局総務課) 各館と事務局のネットワークにより情報の迅速な共有を図った。導入した各システムについて、安定稼働を図っているが、現状、利用範囲(者)の拡大に至っていない。	2	人事・給与や財務会計システムの活用について利用者の拡大を図ることができなかった。

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 (4) 民間活力の導入 ・事業効果を見極めた外部委託の推進 ・専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用 ・民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入		

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価	評価が1及び2となった 項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	
(4) 民間活力の導入				
利用者へのサービスの向上及び業務の効率化を図るため、民間活力を効果的に導入する。				
【法人として充実を目指す事項】 58 事業効果を見極めた外部委託の推進 施設の管理・運営業務などにおける効率化を図る観点から、競争入札等を継続するとともに、各館の特性を踏まえて、新たな仕組みの導入について検討する。	(事務局) サービス向上や効率化を図るため、引き続き外部委託を進める。 新たに外部委託が有効な業務の有無や可否を点検する。	58	(事務局総務課) 引き続き、サービス向上や効率化に資するため、外部委託を実施した。 外部委託が有効な業務について検証を行った。	3
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 59 専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用 広報や教育など適材適所で、専門的知識を有する外部人材の登用を検討する。	(事務局) 広報や教育を担当する人材を安定的確保する。(再掲)	59	(事務局総務課) 機構発足後、本務職員や契約職員等、適宜、広報や教育に精通した人材の確保に努めた。	4 法人化のメリットを活かし、管理職員や学芸員・事務職員といった様々なエリアにおいて多様な人材の確保が実現できた点を評価した。
60 民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入 委託事業者等から意見を聴取し、必要に応じて、業務改善への反映を図る。	(事務局) 委託事業者等から意見を聴取し、必要に応じて、業務改善への反映を図る。	60	(事務局総務課) 適宜、委託業者から意見を聴取し、業務改善へ反映を行った。  (事務局施設管理課) 大規模改修工事の設計・工事監理において技術的内容の精査、コスト削減、工程管理における技術的サポートを受けるため民間事業のノウハウ活用することに取り組んだ。 1CM（コンストラクション・マネジメント）のプロポーザルを行い、事業者を選定した。 (東洋陶磁美術館・市立美術館計2件)	3 4

大項目 (6)	III 財務内容の改善に関する事項 6 財務内容の改善 (1) 収入の確保 (2) 経費の節減
------------	--

中期目標	6 財務内容の改善 法人は、財務内容の改善を図り、持続可能な事業の実施に必要な資金を確保することで、安定的な経営を目指す (1) 収入の確保 ・幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加 ・各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価																	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価																		
(1) 収入の確保																						
持続可能な事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、各館の収入の増加に努めるとともに、外部からの資金獲得に努める。																						
61 幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加 観覧料収入や法人資産の有効活用などにより、安定的な収入確保を図る。 【法人として充実を目指す事項】 観覧料収入の安定的確保を図るため、館毎の特性に応じた常設展及び特別展の集客力を高める取り組みを実施し、観覧料収入の増加に努める。	(事務局) 観覧料収入や法人資産の有効活用などにより、安定的な収入確保を図る。 次の中期計画期間中の増収目標の他一齊に必要な単年度分の増収をめざす。  中期計画期間中の増収目標(5年での割合) <table border="1"><thead><tr><th></th><th>常設展</th><th>特別展</th></tr></thead><tbody><tr><td>美術館</td><td>3 %</td><td>5 %</td></tr><tr><td>自然史博物館</td><td>—</td><td>5 %</td></tr><tr><td>東洋陶磁美術館</td><td>—</td><td>3 %</td></tr><tr><td>科学館</td><td>5 %</td><td>—</td></tr><tr><td>歴史博物館</td><td>3 %</td><td>3 %</td></tr></tbody></table> ユニーカベニューの実施など、施設の有効利用による増収を図る。		常設展	特別展	美術館	3 %	5 %	自然史博物館	—	5 %	東洋陶磁美術館	—	3 %	科学館	5 %	—	歴史博物館	3 %	3 %	61	(事務局総務課) (事務局経営企画課) 美術館・自然史博物館におけるユニーカベニューの実施に向けて規程整備を行い、料金設定に関し議会の承認が得られるよう、大阪市と協議を行っている。	3
	常設展	特別展																				
美術館	3 %	5 %																				
自然史博物館	—	5 %																				
東洋陶磁美術館	—	3 %																				
科学館	5 %	—																				
歴史博物館	3 %	3 %																				
保有資産について、新たなテナントの誘致や適切なテナント料の設定、貸会議室の稼働率上昇の取り組み等を実施し、施設の有効利用による増収を図る 【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 62 各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得 社会教育施設としての役割と、安定的事業実施を念頭において、特別展等における適正な料金のあり方を検討し、その適用に努める。 積極的な寄附金や協賛金等の獲得のため、法人の担当者を定め、取り組みを強化する。	(事務局) 社会教育施設としての役割と、安定的事業実施を念頭において、特別展等における適正な料金のあり方を検討し、その適用に努める。 積極的な寄附金や協賛金等の獲得のため、法人の担当者を定め、取り組みを強化する。	62	(事務局経営企画課) マスコミとの共催展における小中学生の有料化について検討を行い、また各館の貸室、常設展示、ブランタリウム等の適正料金について検討した。今後、大阪市と協議していく。なお、寄附金等については、取組みを強化するため、法人の担当者を定めた。	3																		

中期目標	6 財務内容の改善 (2) 経費の節減 ・契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減 ・共同調達による経費の縮減
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
(2) 経費の節減					
安定的な経営を実現するため、経費の縮減に努める。 【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 63 契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減 委託費等の契約内容を点検し、契約期間や単価の見直しを実施する。 【中期計画期間中の削減目標】 2022年度から一括契約を導入し、美術館を除く各館の維持管理費(委託費)の5%削減を見込む ・共同調達による経費の縮減 各施設の業務内容などを考慮し、消耗品や役務について、具体的な品目を定めたうえで共同調達を進める。	(事務局) 業務委託や高額物品の調達等において、規程に従い、競争入札の導入を推進する。 2022年度からの契約手法の見直しを見据え、一括調達や長期契約に向けた準備を進める。	63	(事務局総務課) 規程に沿って、競争入札を実施した。 一括調達や長期契約等の契約手法については、他機関の制度等について検証を行いつつ、可能なものについては実施した。	3	
	(事務局) 各施設の業務内容などを考慮し、消耗品や役務について具体的な品目を定めたうえで、共同調達を進める。	64	(事務局総務課) 現在電気・ガスの共同調達を行い、コスト削減を実現している。 なお、その他の消耗品や役務についても共同調達に向け、検討を行っている。	3	

大項目 (7)	IV その他業務運営に関する重要事項 7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) (1) 環境整備 (2) 重要なリスク回避のための体制の構築
------------	--

中期目標	7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) 法人は、業務を恒常に維持し発展させることのできる組織を確立するため、リスクを回避できる仕組みを構築し、機能させることで、内部統制の強化に努める (1) 環境整備 ・法人として内部統制に必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 ・研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 ・各職階及び各職域に応じた必要な権限の付与及び責任の明確化 ・法人の各機関への適切な権限の配分及び各機関における適切な意思形成の確保 ・情報共有に必要なインターネットをはじめとするICTの活用の促進 ・内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
<b>(1) 環境整備</b>					
内部統制の確立のため、必要な規程の策定等を行うとともに、その理解を深めるための環境を整備する。					
<b>【法人として充実を目指す事項】</b> <u>65 法人として内部統制に必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底</u> コンプライアンスの遵守を徹底するため、法令や社会的規範に基づいて法人の内部規程を整備し、理解促進に向けた研修を実施する。	(事務局) 法令や業務方法書等に基づき、内部統制の推進に関する規程等を整備する。 役員及び職員並びに研究者としての倫理指針及び行動指針を定める。	65	(事務局総務課) 「内部統制規程」については制定済みであり、具体的な運用を始めるべく、「第1回内部統制委員会」を開催し、各種規程や法体系等の確認を行った。	3	
<u>66 研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底</u> 研究者や博物館人としての倫理観を確保するため、内部規程を整備し、理解促進に向けた研修を実施する。	組織や役員の分掌に関する規程等を整備する。 業務の監理・監督と執行のための体制及び役割分担を明確にする。 理事会や業務執行のための会議を定期的に開催し、迅速な意思決定や情報共有を図る。	66	(事務局経営企画課) 「科学研究費助成事業－科研費－の研究実施規程」ほか、必要な内部規程を制定済み。理解促進に向けた研修を1月に実施した。	3	
<u>67 各職階及び各職域に応じた必要な権限の付与及び責任の明確化</u> 役員の役割を明確にし、法人業務を監理・監督を遂行する。 業務執行のための体制と役割分担を明確にし、確実な執行に努める。	意思疎通や情報共有のため、テレビ会議システムなどのICT技術の活用を検討する。 法令や法人諸規定の理解促進と遵守に向けた内部研修を実施する。 監事による監査を通じて、内部統制に関する必要な見直しを行う。	67	(事務局総務課) 「役員の分掌に関する規定」及び「監事規程」を制定済み。	3	
<u>68 法人の各機関への適切な権限の配分及び各機関における適切な意思形成の確保</u> 理事会や業務執行のための会議体を整備し、迅速な意思決定や情報共有を図る。 業務分担と執行および責任の所在を明確にするための規程を整備し、その確実な運用を図る。		68	(事務局総務課) 機構における会議体として、「理事会」「経営会議」「総務連絡会」「学芸連絡会」等を定期的に開催し、迅速な意思決定や情報共有等を図っている。	3	
<u>69 情報共有に必要なインターネットをはじめとす</u>		69	(事務局総務課)		

るＩＣＴの活用の促進 意思疎通や情報共有のため、テレビ会議システムなどのICT技術の活用を検討する。		テレビ会議システム等については、他法人の仕様用途や予算等についてヒアリングを行った。また、補完的な取組みとして、スカイプを使った遠隔会議参加を試行的に実施した。	4	新型コロナウイルス感染症対策としてスカイプを使った遠隔会議を理事会や経営会議において試行的に実施した点を評価した。
70 内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施 内部監査等により定期的に内部統制環境の整備状況・有効性をモニタリングするとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、内部統制に関する必要な見直しを行う。	70	(事務局総務課) 監事による監査を実施し、12月理事会において報告を行った。 内部統制については具体的な運用を始めるべく、「第1回内部統制委員会」を開催し、各種規程や法体系等の確認を行った。	3	

中期目標	7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制)
	(2) 重要なリスク回避のための体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価</li> <li>・ネットワークセキュリティの強化</li> </ul>

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
<b>(2) 重要なリスク回避のための体制の構築</b>					
重要なリスクを回避するため、早期の発見及び対処が可能な体制を構築する。  【法人として充実を目指す事項】 <u>71 リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価</u> 適切なリスク管理を行うため、業務の遂行、入館者の安全、資産管理等多角的な視点からリスクを調査し、問題の早期発見に努める。	(事務局)  業務実施の障害となるリスクを調査し、当該リスクへの適切な対応を可能とする規程等を整備する。入館者の安全、資産管理等多角的な視点からリスクを調査し、問題の早期発見とリスク回避に努める個人情報などの機密情報の漏えいを未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を一元化し、徹底する。訓練や研修を通じて、情報セキュリティ対策の実施状況を把握し、その結果に基づいて改善に努める。	71	(事務局総務課)  「リスク管理規程」を制定し、2月に第1回リスク管理委員会を開催し、関係規程の確認及びリスク管理における「リスクの洗い出し作業」に着手した。  (事務局施設管理課) 建築工事等において、事故・災害が起こらないよう施工業者に対して安全に対する啓発に取り組んだ。 1 施工業者に施工前に総合施工計画書を作成させ 現場の施工体制・安全衛生管理計画・予想される 災害・公害対策・火災予防計画等を明記させ施工 業者にリスク等の顕在化を図ることによりリスク 回避に努めている。	3	制定したリスク管理規程に沿った リスク管理体制を構築し、2月に第1回のリスク管理委員会を開催予定である。
<u>72 ネットワークセキュリティの強化</u> 個人情報などの機密情報の漏えいを未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を一元化し、徹底する。訓練等を通じて、情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善に努める。		72	(事務局総務課)  法人化初年度に事務作業が煩雑化し、情報セキュリティ対策の一元化ができなかった。今後、関係規程を整備し、法人全体のセキュリティの在り方について検討を進める。	2	年度内に関係規程を整備し、法人全体のセキュリティの在り方について検討を進める必要がある。

大項目 (8)	IV その他業務運営に関する重要事項の目標を達成するためとるべき措置 8 その他業務運営に関する重要事項(その他) (1) 利用者等の安全確保 (2) 環境保全の取組み (3) 情報公開の推進
------------	--

中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他) 法人は、時代の要請に応え、社会の理解や支持を得ることで、公共的な施設としての役割を果たす (1) 利用者等の安全確保 ・利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底 ・博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲9) ・バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲)
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
(1) 利用者等の安全確保					
さまざまな人々が快適に利用できるようにするため、各館の施設における安全を確保する。 【法人として充実を目指す事項】 73 利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底 利用者及び職員の安全を確保するため、定期的な安全訓練を行う。 職員に対する研修等を通じて、職員の安全に対する意識向上を図る。	(事務局) 利用者及び職員の安全を確保するため、定期的な安全訓練を行う。 研修等を通じて、職員の安全に対する意識向上を図る。	73	(事務局総務課) 各館において安全訓練を実施し、訓練を通じて職員の安全に対する意識向上を図った。	3	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 74 博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修 博物館施設として必要な機能や快適な利用環境の確保に向けた計画的整備・改修を行う。	(事務局) 快適な利用環境の確保に向けた整備計画の立案を行う。 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を念頭に施設の点検を実施する。 さまざまな利用者を念頭に、ピクトを用いたサインの充実を図る。	74	(施設管理課) 博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館施設の計画的な整備及び改修(5か年の改修計画)の具体的な計画の作成に取組んだ 1 現状の令和5年度までの中期5か年の改修計画を点検結果報告や劣化状況、工事手順等を勘案し具体的な計画に修正した。	3	
75 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲) 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する。(再掲) さまざまな利用者を念頭に、ユニバーサルデザイン化を推進する。(再掲)		75	(施設管理課) 既設建築物に対する現状のバリアフリーの維持管理状況を確認した。 1 各館にて現状のバリアフリーの点検を行った。	3	

中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他)
	(2) 環境保全の取組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定</li> <li>・再生紙その他の資源の有効利用の促進</li> <li>・環境に配慮した取組みの指標化及びその公開</li> <li>・新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進</li> </ul>

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
<b>(2) 環境保全の取組み</b>					
環境への負荷を低減するとともに、社会の要請に応えるため、環境に配慮した取組みを進める。					
<b>【法人として充実を目指す事項】</b> <b>76 省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定</b> 環境に配慮した業務運営を行うため、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努める。	(事務局) 環境に配慮した業務運営を行うため、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努める。 再生紙利用の促進や両面コピーの徹底を図る。	76	(事務局総務課) 省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努めた。  (事務局施設管理課) 建物の改修時に省エネ機器の導入に取り組んだ。 1 自然史博物館ネイチャーホール照明改修時に水銀灯照明からLEDに改修を行った。 (年間消費電力：16,340 kWh ⇒ 4,191 kWh、 ▲12,149 kWh削減)	3 3	
<b>77 再生紙その他の資源の有効利用の促進</b> ICTを活用したペーパーレスの推進や、再生紙利用の促進等を図る。		77	(事務局総務課) 再生紙利用の促進や両面コピーの徹底を図った。	3	
<b>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</b> <b>78 環境に配慮した取組みの指標化及びその公開</b> リデュース・リユース・リサイクルの徹底に努める。	(事務局) 環境への取組状況を明らかにするため、その成果を公表する。 リデュース・リユース・リサイクルのための法人としての取組計画を立てる。	78	(事務局総務課) 各館の省エネ推進に取り組んだ。 リデュース・リユース・リサイクルのための法人としての取組計画を2月に策定した。	3	
<b>79 新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進</b> 環境への取組状況を明らかにするため、その成果を公表する。		79	(事務局総務課) 環境への取組状況の公表に向け、現在作業を進めている。 (事務局施設管理課) 各館の省エネ推進に取り組んだ。 1 令和2年度自然史博物館ポンプ取替え設計時に省エネ法に基づくトップランナー機器の導入を図る。(本館消火ポンプ用モーター5.5 kW 1台・本館冷温水ポンプ3.7 kW展示室用・11 kWホール研究室用・2.2 kW講堂用・1.5 kW第1・3収蔵庫用各1台)	3 3	



中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他) (3) 情報公開の推進 ・ホームページ等を通じた情報の積極的な公開 ・情報公開請求に対する迅速な対応
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価が1及び2となった項目についてのコメント欄 (評価が3・4・5の場合記載不要)
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
<b>(3) 情報公開の促進</b>					
運営状況の透明性を確保し、広く法人の活動への理解及び信頼を得るため、情報公開を推進する。					
<b>【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】</b> <b>80 ホームページ等を通じた情報の積極的な公開</b> 業務内容等を広く理解してもらうため、法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で積極的に公表する。	(事務局) 法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で積極的に公表する。 事業内容や運営状況に関する情報公開請求に対して、迅速に対応する。	80	(事務局総務課) 業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で積極的に公表している。 (事務局経営企画課) 機構ホームページにおいて、展覧会等の報道発表や採用・調達情報などを逐次公表した。	<b>3</b> <b>3</b>	
<b>81 情報公開請求に対する迅速な対応</b> 事業内容や運営状況に関する情報公開請求に対して、迅速に対応する。		81	(事務局総務課) 事業内容や運営状況に関する情報公開請求に対して、迅速に対応した。	<b>3</b>	

